

海軍短艇教範

達第三十三號

海軍短艇教範別冊ノ通定ト

別冊ハ海軍省教育局ヲシテ所要ノ向ニ配付セシム

大正十四年三月一日

海軍大臣 財部 彪

# 海軍短艇教範目次

總則	一頁
第一篇 短艇操法	二
第一章 通則	二
一 要則	二
二 短艇ノ分類、呼稱及用途	一四
三 配員	二〇
四 號令	二三
五 教練	二五
第二章 撈漕法	二七
目次	一

一 要則……………二七

二 號令……………二八

三 操法……………三一

第三章 槽漕法……………四七

一 要則……………四七

二 號令……………四八

三 操法……………五〇

第四章 帆走法……………五六

一 要則……………五六

二 號令……………六六

三 操法……………六九

第五章 機走法……………九二

一 要則……………九二

二 號令……………九四

三 操法……………九四

第二篇 短艇整理法……………九七

第一章 通則……………九七

第二章 短艇ノ整頓……………九八

第三章 諸種ノ用途ニ應スル短艇處理法……………一〇四

第三篇 短艇指揮及艇員心得……………一二三

第一章 通則……………一二三

第二章 短艇指揮心得……………一二四

第三章 艇長心得	一三二
第四章 艇員心得	一三四
一 當直艇員心得	一三四
二 救助艇員心得	一三四
三 守艇員心得	一三五
第四篇 諸規程	一三六
一 短艇隊運動規程	一三六
二 觀艇式規程	一三九
三 短艇點檢規程	一四五

## 附錄

(目次終)

## 海軍短艇教範

## 總則

第一 本教範ハ短艇ノ操作、整理並短艇指揮以下艇員ノ心得ニ關シ一般ニ遵守スヘキ事項ヲ規定ス

第二 本教範ノ目的ハ短艇指揮及艇員ヲシテ確實適當ニ短艇ヲ運用シ其ノ任務ヲ遂行スルニ遺憾ナカラシメ又受持短艇及屬具ヲ整正完備ノ状態ニ保有シ之カ使用ニ際シ毫モ支障ナカラシムルニ在リ

第三 短艇其ノ所屬ヲ離レテ單獨行動ヲナス場合ニハ各其ノ所屬ノ特權及名譽ヲ代表スルコト多シ加之短艇ハ戰鬪、交通、輸送、救護等ノ任務遂行ニ際シ咄嗟ノ急ニ應セサルヘカラス故ニ短艇指揮及艇員ハ各自

其ノ服装、容儀、舉動ニ留意スルハ勿論短艇ノ操縦整頓取扱等ニ關シテハ常ニ周到綿密ニ注意シ事ニ當リ毫モ遺憾ナキヲ期セサルヘカラス

第四 短艇ハ常ニ海上衝突豫防法並港則等特定ノ地方規程ヲ嚴守スヘシ

第五 港灣又ハ狹水道ニ於テ短艇ハ艦船ノ運動ヲ妨ケサルコトニ留意スヘシ

## 第一篇 短艇操法

### 第一章 通則

#### 一 要則

第六 本操法ハ短艇ノ橈漕、櫓漕、帆走、機走等ニ關シ一般ニ遵守スヘキ事項ヲ規定ス

第七 本操法ニ規定スル事項ハ時ノ晝夜ニ論ナク天候ノ如何ヲ問ハス常ニ確實迅速ニ遂行スルヲ要ス

第八 「カッター」以上ノ橈艇及機動艇ニハ短艇指揮トシテ兵科准士官以上一名ヲ附シ其ノ指揮號令ヲ掌ラシメ又短艇ニハ艇長トシテ兵曹若ハ水兵一名ヲ附シ主トシテ操舵ヲ掌ラシムルヲ例トス

短艇指揮乗艇セサル時ハ艇長其ノ任務ヲ兼掌スルモノトス

第九 軍艦ニ在リテハ艇員ノ乘退艇ハ短艇ノ繫留シアル繫船桁又ハ艦尾ノ位置ヨリスルヲ例トス

第十 短艇繫留中ハ防舷物ヲ出シ置クモノトス

第十一 短艇帆走中櫓、櫓ヲ用フルハ特別ノ場合ニ限ルモノトス

第十二 短艇航行中ハ勿論碇泊中又ハ繫留中ト雖モ周圍ノ見張ヲ嚴ニス

ルヲ要ス

第十三 短艇陸岸繫留又ハ碇泊中ハ潮ノ干満ニ注意スヘシ

第十四 短艇ハ特別ノ事情アル時ノ外長ク舷梯、棧橋、陸岸等ニ繫留スヘカラス必ス他艦船ノ妨トナラサル海面ニ退避シ狀況ニ應シ錨泊、繫留又ハ漂泊スヘシ

第十五 短艇ヲ艦側ニ達著スルニハ艦首ト同方向ナルヲ原則トス然レトモ艏艦羈泊ノ艦船ニ在リテハ水面ノ廣狹、風向、流潮等ニ應シ臨機之ニ依ラサルコトヲ得

第十六 短艇、舷梯、棧橋等ニ達著スルニハ潮下風下側ヲ選フヲ可トス

第十七 短艇棧橋等ニ停繫スルトキハ出船ニ備ヘ置クヲ例トス

第十八 短艇ハ左右ニ傾斜スルコトナク又艇首艇尾ヲ著シク沈下セサル

如ク要具ノ搭載及乗員ノ配置ニ注意スルヲ要ス但シ帆走中ハ風ニ對シ艇體ノ釣合ヲ適良ニ保ツコトニ留意シ要スレハ艇員又ハ要具ヲ適宜移動スヘシ

第十九 船舶輻輳スル水面ニ於テハ短艇ハ適宜徐行シ特ニ風潮及他船ニ注意シテ之ヲ操縦スルヲ要ス

第二十 短艇未知ノ港灣又ハ淺灘附近航行ノ際ハ測深シツツ適宜徐行スヘシ

第二十一 短艇風潮強キトキ水路不案内ノ地ニ到リ若ハ狹水道通過ニ當リテハ豫メ錨ノ用意ヲナシ置クヘシ

第二十二 短艇長濤アル場所ニ錨泊スルトキハ其ノ吃水ニ對シ充分ノ餘裕アル水深ヲ選ヒ且充分ニ錨鎖(索)ヲ伸シ置クヘシ

第二十三 短艇岩石多キ場所ニ錨泊スルトキハ錨索ノ前端ヲ錨ノ根ニ固縛シ其ノ内方ヲ幹ニ沿フテ導キ細索ヲ以テ之ヲ鎖ニ結止シテ投錨スルヲ可トス

第二十四 積載量大ナルトキハ達著ニ際シ其ノ惰力ヲ考慮シ駛力ヲ加減スルヲ要ス

第二十五 短艇潮流アル水面ヲ航行スルトキハ能ク其ノ順逆速度ヲ考察シテ操縦シ又潮流強キトキハ急ニ大角度ノ轉舵ヲ爲ササルヲ可トス

第二十六 短艇ハ艦船ノ航泊ヲ問ハス其ノ艀艇ニ接近シテ航過スヘカラス

第二十七 短艇風潮ヲ横過シ目的地ニ到著セントスルトキハ其ノ壓流ヲ考慮シ適宜風上、潮上側ニ向進スヘシ

第二十八 短艇發著ノ際潮流強キトキ又ハ風波荒キトキハ適宜速力ヲ加減シ特ニ細心ノ注意ヲ以テ操縦シ艇首ヲ舷梯下等ニ壓セラレサル如ク留意スヘシ

第二十九 短艇ハ他艦船ノ繫船桁下ヲ航過スヘカラス

第三十 短艇ヲ繫船桁ニ繫留スルニハ大小舳索ヲ使用シ大舳索ハ繫船索ノ心鎖ニ通シタル後自己ノ心鎖ニ一重結又ハ舳結ニテ小舳索ハ索梯ノ心鎖ニ大舳索ニ準シテ結止スルヲ例トス

第三十一 短艇ヲ艦尾ニ繫留スルニハ舳索ヲ本艦ヨリ出シ之ヲ艇首座ニ結止シ小舳索ヲ艦尾索梯ニ繫止スルヲ例トス

第三十二 夜間又ハ風波強キトキ短艇ヲ繫船桁ニ繫留シ置ク場合ニハ短艇ノ舳索ノミニ依ラス艦ノ前後ヨリ舳索ヲ短艇ニ取り安固ナラシムヘ

第三十三 荒天ニ際シ短艇ヲ操縦スルハ容易ナラス故ニ艇員ハ平素能ク荒天ニ處スル操縦法ヲ攻究シ事ニ當リ遺憾ナキヲ期スヘシ  
左ニ準據スヘキ一般ヲ示ス

- 一 荒天ニ際シ風浪ヲ正横ニ受クルトキハ艇ノ動搖甚シク危險ニ陥ルコトアルヲ以テカメテ之ヲ避クル如ク操縦スルヲ要ス
- 二 荒天ニ際シ風浪ヲ正艖又ハ正艫ヨリ受クルトキハ艇ノ動搖甚シク海水艇内ヲ襲フノミナラス激衝ノ爲速力ヲ減シ又ハ操縦困難ニシテ屢々短艇危險ニ陥ルコトアリカメテ之ヲ避クル如ク操縦スルヲ要ス

- 三 風浪ヲ艖約三點ニ受ケ速力ヲ加減シ斜走セハ操縦比較的困難ナラス危險モ亦少ナシ
- 四 風浪ヲ艫約三點ニ受ケ速力ヲ加減シ操舵ニ注意シ順走セハ比較的艇ノ動搖少ナク荒天操縦法中最適良ナリ

- 五 荒波中艇ヲ回頭スルトキハ波浪ノ方向及狀態ニ注意シ機ヲ見テ適宜操舵シ永ク正横ノ風浪ニ曝露セサル様操縦スルヲ要ス
- 六 波濤ハ通例三回相續テ騰躍シ來リ後少時ハ比較的浪勢衰フルモノナルヲ以テ操縦ニ際シ此ノ時機ヲ利用スルニ務ムヘシ
- 七 橈漕中ハ艇ノ將ニ浪頂ニ上ラムトスルトキ全力ヲ盡シテ推進シ浪谷ニ下ラムトスルトキハ波浪ノ低觸ヲ避ケテ橈ヲ奪ハレサル如ク操橈スルヲ要ス

- 八 淺所ニ於ケル波浪ノ狀況ハ深所ニ比シ更ニ險惡ナルモノアリ故



ニ淺所ニ接近スルニ當リテハ充分ノ注意ヲ要ス

九 波浪ノ爲舵ノ效力ヲ減スルトキハ「スチャリングオール」ヲ装シ之ヲ助クヘシ

十 機走中逆流ニ際シテハ其ノ狀況ニ應シ速力ヲ加減シ時ニ機械ヲ停止シ推進器ノ空轉ヲ防クヲ要スルコトアリト雖モ舵ノ效力ヲ失ハサル程度ノ速力ハ常ニ之ヲ保有セサルヘカラス

十一 波浪ヲ横切り機走スルトキハ高波襲來前ニ一時艇首ヲ之ニ向ケルヲ要ス

十二 荒天ニ際シテハ艇内ノ移動物ヲ固縛シ又艇首ノ重量ヲ輕減スルヲ可トス

十三 橈艇、櫓艇波浪高キ場合淺岸ニ達著スルニハ適當ノ位置ニ於

テ艇首ヲ波浪ニ向ケテ投錨シ錨索ヲ延シツツ陸岸ニ接近スルヲ可トス

十四 短艇荒天ニ遭遇シ進退自由ナラサルトキハ適當ノ器具ヲ以テ「シーアンカー」ヲ作り漂泊ノ手段ヲ課シ艇ノ安全ヲ圖ルヘシ

十五 短艇高浪中擱ケ方用意ヲ爲スニハ其ノ「ダビット」下ニ到著セサルニ先チ豫メ諸般ノ準備ヲ爲スヲ要ス

十六 荒浪中艇ヲ揚クルニ當リテハ短艇索ノ下滑車ハ必ス風上又ハ潮上ノモノヲ先ニ風下又ハ潮下ノモノヲ後ニ鈎スルハ勿論ナルモ之ヲ司掌スルモノ互ニ見合セ殆ント同時ナルヲ要ス而シテ之ヲ釣スルハ波浪少憩ノ時機ニ(六參照)於テ艇ノ波頂ニ在ル場合ヲ可トス

短艇索ヲ鈎シ終ラハ索端等ヲ以テ外レサル如ク支持シ必スシモ張合スコトナク速ニ水面ヲ離ルルマテ一舉ニ之ヲ引揚クルコトヲ努ムヘシ

短艇揚方中救助索ヲ艇ノ前後ニ交叉シ把持スルトキハ艇ノ動搖ヲ防キ作業ヲ容易ナラシム又短艇舷側ニ在ルトキ之ニ接スル艇員ハ便宜足掛等ヲ使用シ舷側ニ撞觸スルヲ防止スヘシ

十七 帆走中強風ノ際到達點風上ニ在ルトキハ『詰開キ』ノ位置ヲ保ツコトヲ努メ絶エス風上波浪ノ状態及驟風ニ注意シ其ノ來襲ニ先テ下手舵ヲ取り艇首ヲ風上ニ立テ尙要スレハ「シート」ヲ緩メ風ヲ減ラス手段ヲ講シ風波通過シ終ラハ直ニ舵及「シート」ヲ復舊シ前進力ヲ失ハサル如ク努ムヘシ又順走ノ際ハ上手舵ヲ取り風ヲ舵ニ

保ツヘシ

十八 帆走中強風ノ際正横ヨリ風ヲ受ケタルトキハ横壓大ニシテ最も危険ナルカ故ニ斯ル際ニハ『詰開キ』又ハ正横後ヨリ風ヲ受ケ間切ルヲ可トス

十九 帆走中強風ノ際正横後ヨリ風波ヲ受クルトキハ波浪艇尾ヲ撞キ又ハ驟風ノ襲來ニ依リ艇首風上ニ遡リ危険ニ陥リ易キカ故ニ斯ル際ニハ上手舵ヲ取り之ヲ防クコト必要ナリ

第三十四 橈艇及櫓艇ハ顛覆スルモ尙ホ艇體ノ一部ヲ水面ニ露出スルヲ例トスルヲ以テ斯ル場合ニハ艇員ハ艇側ヲ去ラス之ニ取附クコトニ努ムルヲ可トス

第三十五 艦船操縦ノ呼吸ハ其ノ形體ノ大小種別ニ論ナク共通ナルモノ

多シ故ニ短艇ニ就テ之カ妙味ヲ修得スルトキハ從テ之ヲ大艦ニ適用シ自得スル所大ナルモノアルヘシ短艇操縦ニ任スルモノハ宜シク此ノ理ヲ辨ヘ周到綿密ノ注意ヲ以テ専心研究練磨ニ努メ以テ他日ニ資スルノ用意肝要トス

## 二 短艇ノ分類、呼稱及用途

第三十六 機關ヲ以テ推進スル短艇ヲ機動艇、人力ニ依リ橈ヲ以テ推進スル短艇ヲ橈艇、人力ニ依リ橈ヲ以テ推進スル短艇ヲ橈艇ト稱ス

橈艇及機艇ニシテ風力ニ依リ帆ヲ以テ進推スル場合ニハ之ヲ帆走艇ト稱ス

第三十七 機動艇中蒸汽機關ヲ有スルモノヲ汽艇、電氣機關ヲ有スルモノヲ電動艇、内火式機關ヲ有スルモノヲ内火艇ウチヒト稱ス而シテ艦船裝載

ノ機動艇中發射機ヲ裝備スルモノハ之ヲ艦載水雷艇ト稱ス

第三十八 橈艇中各座板毎ニ二名ノ橈手竝列操橈スルモノヲ雙坐艇、各座板毎ニ一名ノ橈手操橈スルモノヲ單坐艇ト稱ス

雙坐艇中特大形ノモノニシテ主トシテ重量物搭載運搬ニ供スルモノヲ「ランチ」又其ノ稍々小形ナルヲ「ピンネース」其ノ他ノモノヲ「カッター」ト稱ス帆布ヲ以テ製シタル短艇ヲ帆布艇ト稱ス單坐艇中軍艦驅逐艦ニ搭載スル大形ノモノヲ「ギグ」驅逐艦及水雷艇ニ裝載スル小形ノモノヲ「チンギー」ト稱ス

第三十九 橈艇中艦船ニ搭載スルモノヲ特ニ通船ト稱ス

第四十 艦船裝載ノ短艇ニシテ同種類ノモノニ雙以上アルトキハ前部ヨリ舳舩交々數へ第一艦載水雷艇、第二艦載水雷艇、第一「カッター」

第二「カッター」第三「カッター」等ト稱ス尙總短艇ヲ通シ左ノ如ク固有短艇番號ヲ附ス但シ本表ニ適合スル短艇ナキトキハ固有短艇番號ニ缺號ヲ置クモノトス

固有短艇番號	短艇名
一	第一「カッター」
二	第二「カッター」
三	第三「カノター」
四	第四「カッター」
五	第五「カッター」
六	第六「カッター」
七	第七「カッター」

	八	第八「カッター」
	カ	
K	一	第一艦載水雷艇
K	二	第二艦載水雷艇
	三	第一汽艇
K	四	第二汽艇
K	五	第三汽艇
K	六	第一内火(電動)艇
K	七	第二内火(電動)艇
K	八	第三内火(電動)艇
K	九	

固有短艇番號	短艇名
L 一	第一「ランチ」
L 二	第二「ランチ」
L 三	第一「ピンネース」
L 四	第二「ピンネース」
L 五	第一「ギグ」
L 六	第二「ギグ」
L 七	第一帆布艇
L 八	第二帆布艇
L 九	
M 一	第一通船

M 二	第二通船
M 三	第三通船
M 四	第四通船
M 五	第五通船
M 六	
M 七	

第四十一 短艇ハ又其ノ用途ニ依リ左ノ如ク呼稱ス

- 一 救助艇 溺者救助用ニ充ツルトキ
- 二 外舷艇 外舷作業用ニ充ツルトキ
- 三 軍裝艇 短艇軍裝部署ニ依リ軍裝セルトキ
- 四 哨艇 哨戒ニ使用スルトキ

五 掃海艇 掃海用ニ使用スルトキ

六 當直艇 艦隊等ニ在リテ交番隊務ニ使用スルトキ

其ノ他使用目的ニ依リ分類呼稱スルノ要アルトキハ適宜其ノ任務ヲ冠シテ他ト區分スルモノトス捕獲艇、臨檢艇、曳艇、電池艇等ノ如シ

三 配員

第四十二 短艇ヲ指揮スルモノヲ短艇指揮ト稱ス

第四十三 短艇ヲ操作スル兵員ヲ艇員ト稱ス

艇員ハ各其ノ等級、技能ニ應シ長、一番、二番、三番等ノ職ニ配置ス一番、二番、三番等ノ内短艇ノ最前部ニ於テ操作スル艇員ヲ艇首員短艇ノ最後部ニ於テ操作スル艇員ヲ艇尾員ト稱ス

撈艇(槽艇)ニ在リテハ一番以下ノ艇員ヲ撈手(槽手)艇首員ヲ前撈手、

艇尾員ヲ後撈手ト稱スルコトアリ

撈(槽)手ノ豫備員トシテ乘艇スル艇員ヲ豫備艇員ト稱ス

第四十四 短艇員ハ短艇ノ種類ニ依リ左ノ如ク配員スルヲ例トス

短艇種類	撈艇		員				豫備		計
	數	兵曹	艇首員	艇尾員	其ノ他艇員	兵	艇員		
艇載水雷艇	〇	〇	一	一	一	一	二	八(七)	二
右以外ノ機動艇	〇	一	一	一	一	一	二	五(七)	二
「フンチ」	一六	一	一	一	一	一	四	一九	四
「ペンネース」	一四	一	一	一	一	一	四	一五	四

短艇種類	機				員		豫備		計
	數	艇長	艇首員	艇尾員	其ノ他ノ艇員 <small>(水關兵曹 機關兵)</small>	艇員	豫備員		
		兵曹	水兵	水兵		兵	艇員	艇員	
「ペンネース」	一二	一	二	二	八	二	二	一三	二
「カンター」	一〇	一	二	二	六	二	二	一一	二
	六	一	二	二	二	二	二	七	二
「ギグ」	六	一	一	一	四	一	一	六	一
	五	一	一	〇	三	一	一	五	一
	四	一	一	〇	二	一	一	四	一
	三	〇	〇	〇	三	一	一	三	一

考	備	二	〇	〇	二	一	二	一
三、單坐艇ニ准士官以上乗艇スルトキハ艇長ハ艇尾員トナルモノトス	一、「ヤンギー」及帆布艇ノ艇員ハ便宜編成スルモノトス 二、槽艇員申先任者ハ艇長ヲ兼ヌ又同艇員ハ要スレハ便宜艇首或ハ艇尾員トナルモノトス							

四 號令

第四十五 號令ハ確實明瞭ニ發唱スヘシ

第四十六 各種短艇ヲ通シテ用ウル號令及之ヲ下スヘキ時機左ノ如シ

「集レ」

艇員ヲ集合セシムルトキニ下ス

「番號」

艇員調査ノ爲下スモノニシテ職名ヲ有スルモノハ職名其ノ他ハ順次番

號ヲ唱フ

例、長、一、二、三、四、五、六等ノ如シ

「乗艇」

艇員ヲ乗艇セシムルトキニ下ス

「艇首離セ」

出發ニ際シ短艇ヲ著艇場所ヨリ離ストキニ下ス

「防舫物入レ」

短艇艦側又ハ棧橋等ヨリ離レ觸衝ノ虞レナキニ至リタルトキニ下ス

「艇首構」

達著ニ際シ短艇著艇場所ニ至ラムトスルニ先チ下ス

「防舫物出セ」

短艇達著等ニ際シ觸衝ノ虞アルトキニ下ス

## 五 教練

第四十七 教練ノ目的ハ艇員ヲシテ操法ニ熟達セシメ又其ノ精神及身體ヲ鍛練シ本操法ノ目的ヲ達スルニ遺憾ナカラシムルニ在リ

第四十八 教官ハ操法ニ精通シ且實地ノ技能ニ熟達セサルヘカラス 教授ハ懇切ナルヲ要スルト共ニ教練ニ必要ナル嚴正、確實、敏捷、靜肅ノ四要素ニ對シテハ極力之カ養成ニ努ムルヲ要ス

第四十九 教官ハ時々艇員ノ番號ヲ轉換シ各艇員ノ爲スヘキ業務ヲ全員ニ修得セシムルニ留意スヘシ

第五十 教練ニ於テノミ用フヘキ號令及之ヲ下スヘキ時機左ノ如シ  
「番換」



各艇員ノ番號ヲ變換セシムルトキニ下スモノニシテ橈艇中雙座艇ニ在リテハ舳橈手ハ艇座一段宛艇首ノ方ニ移リ舳橈手ハ艇座一段宛艇尾ノ方ニ移ル即チ(三)ハ(一)(五)ハ(三)(二)ハ(四)(四)ハ(六)トナルカ如シ而シテ(一)ハ(二)(二)ハ(十)トナル單座艇ニ在リテハ(二)ハ(一)(三)ハ(二)(四)ハ(三)トナル如ク各橈手一段宛艇首ノ方ニ移リ(一)ハ後部ニ來リ後橈手トナル(長)ハ要スルトキノ外「番換へ」ヲ行ハサルヲ例トス

豫備艇員乗艇シアルトキ之ヲ艇座ニ就カシムルニハ告諭ヲ以テス而シテ新ニ橈手トナルモノハ奇數後橈手(單座艇ニ在リテハ後橈手)ノ位置ニ就キ偶數後橈手(單座艇ニアリテハ(一)ハ出テテ豫備艇員トナルモノトス

橈艇以外ノ短艇ニ在リテハ單座艇ニ準シ「番換へ」ヲ行フモノトス

## 第二章 橈漕法

### 一 要則

第五十一 短艇ノ橈漕ハ正規ニシテ整調ナルヲ要ス

第五十二 橈漕ニ當リ體力ヲ用フルコトナク單ニ腕力ノミニ依ルトキハ肘ヲ橫方ニ張出シ對舷橈手ノ操作ヲ妨ケ且不體裁ナルノミナラス疲勞速ニシテ耐久ノ力ヲ失ヒ易シ

第五十三 橈漕ニ當リ漕方ノ反動ニ依賴シ起反ラントスルトキハ水掻ノ水中運動距離ヲ短クシ前進力ヲ減殺スルノ不利アリ

第五十四 橈漕中水掻ノ沈入深度ヲ不正ナラシムル主因ハ上體ヲ左右ニ捻ルカ又ハ橈ヲ引クトキ手ノ運動不可ナルニ在リ

第五十五 橈漕中過ツテ橈ヲ流シタルトキハ直ニ橈座ヨリ外シ之ヲ復舊

スルニ努ムヘシ若シ橈座ヨリ外シ難キトキハ適宜操舵又ハ速力ノ減殺ニ依リ其作業ヲ容易ナラシムヘシ

第五十六 橈漕中整調ヲ缺クトキハ艇ノ動搖ヲ來シ駛力ヲ減シ且橈漕ニ不便ナルノミナラス體裁宜シカラス之ヲ避クル爲ニハ眼ヲ水搔ノ端ニ輕ク注クヲ可トス

第五十七 橈艇發著ノ際ハ雙座艇ニ在リテハ「橈立テ」ヲ行フヲ例トス然レトモ風浪其他ノ狀況ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得  
橈ニ橈索ヲ附シアルトキハ「橈立テ」ヲ行フコトナシ

第五十八 豫備艇員ハ艇尾座ニ著座セシムルヲ例トス

第五十九 橈艇繫留中ハ守艇員ヲ置クヲ例トス

## 二 號 令

第六十 各種橈艇ヲ通シテ特ニ用フル號令及之ヲ下ズヘキ時機左ノ如シ

「橈用意」  
カイヨウイ

橈艇内ニ收メアルトキ之ヲ立テ又ハ備ヘムトスルニ先チ下ス

本號令ハ熟練シタル艇員ニ對シテハ時宜ニ依リ省略スルコトヲ得

「橈立テ」  
カイ

橈ヲ備ヘムトスルトキ又ハ達著若ハ敬禮ヲ爲スニ當リ之ヲ下ス

單座艇ニアリテハ「橈立テ」ヲ行ハシムルコトナシ

「橈備ヘ」  
カイソナ

「橈立テ」「橈用意」「橈流セ」又ハ「橈組メ」ノ姿勢ヨリ橈ヲ橈漕用ニ備

ヘムトスルトキニ下ス

「用意」  
ヨウイ

「橈備へ」ノ姿勢ヨリ橈漕ノ準備姿勢ヲ執ラシメムトスルトキニ下ス  
本號令ハ練習ノ初步ニ在リテノミ使用スルヲ例トス

「前へ」

「橈備へ」又ハ「用意」ノ姿勢ヨリ橈漕ヲ開始セムトスルトキニ下ス

「停メ」

艇ノ行進ヲ停止セムトスルトキニ下ス

「後へ」

艇ヲ後進シ又ハ艇ノ行進ヲ急止セムト欲スルトキニ下ス

「橈上ケ」

一時橈漕ヲ止メムトスルトキ水搔水中ニ在ル間ニ下ス

「橈組メ」

橈手ノ番號ヲ換へ又ハ休憩セシメムトスルトキ「橈上ケ」ノ姿勢ヨリ之

ヲ下ス

「橈流セ」

橈艇障害物ニ遭遇スルトキ又ハ橈ニ橈索ヲ附シアル橈艇ノ達著スルト

キニ下ス

「橈收メ」

橈ヲ艇内ニ收メムトスルトキニ下ス

〔註〕 本號令ハ先ツ「橈立テ」ヲ行ヒタル後下スヲ例トス

「船(艇)後へ(艇)前へ」

小廻リノ回頭ヲ爲サント欲スルトキニ下ス

### 三 操 法

第六十一 本操法ハ橈十二艇ヲ用フル橈艇ニ就テ規定ス其ノ他ノ橈艇ニ就テハ異ル事項ノミヲ併記ス

整列乘艇

第六十二 「集レ」

艇員ハ其橈艇ノ附近(所定ノ場所)ニ於テ之ニ面シ前橈手ヲ先頭トシ奇數番號ノ者ハ前列、偶數番號ノ者ハ後列ニ(長)ハ(一)ノ右ニ列ス

單坐艇員ノ整列ハ單列トスルノ外右ニ準ス

第六十三 「乘艇」

艇員ハ迅速ニ乘艇シ艇首舳ヨリ舷ニ交互(單坐艇ニ在リテハ艇首ヨリ)番號ノ順序ニ艇尾ニ面シ各艇座ニ著座ス其ノ法各艇座ノ外方ヨリ約三分ノ一(單坐艇ニ在リテハ橈ヲ備ヘサル舷側ヨリ約三分ノ一)ノ所ニ醫

部ヲ淺ク掛ケ各自ノ橈ヲ檢シ頭ヲ眞直ニ肩ヲ少シク後方ニ張リ背ヲ曲クルコトナク下腹ニ力ヲ入レ兩膝ヲ密著シ蹠ヲ足掛ニ當テ兩上膊ハ自然ニ垂レ兩前腕ハ自然ニ伸シテ輕ク兩股ノ上ニ置キ眼ヲ短艇指揮ニ注クヘシ

艇長ハ舳艇尾腰掛ニ位置シ舵具ヲ檢シ艇員ノ動作ヲ監視ス

指揮ハ舳艇尾腰掛ニ位置シ全般ヲ監督ス

出發

第六十四 「橈用意」

各橈手ハ橈座栓ヲ抜キ橈ノ柄ヲ支ヘ握ヲ把持シテ水搔ヲ上縁上ニ載セ之ヲ艇首ノ方ニ向ケテ支持シ橈ヲ立ツル用意ヲ爲シ眼ヲ水搔ニ注ク

(三)四ハ水搔ヲ上縁上ニ配列スルヲ助ケ然後自己ノ橈ヲ用意ス橈艇ヲ

艦側又ハ棧橋等ニ著ケアルトキハ前橈手及内側ノ後橈手ハ橈ヲ用意スルコトナク其ノ儘艇ヲ支持ス

單座艇ニ在リテハ各橈手ハ各自橈架ヲ備ヘ橈ヲ橈架ニ置キ橈架索ヲ取附ケ舷外水中ニ出シ「橈流セ」(第七十五參照)ノ状態ニ在ルモノトス

〔註〕時宜ニ依リ本號令ヲ省略シ直ニ「橈立テ」又ハ「橈備ヘ」ヲ行フ場合ニハ是等ノ號令ニ依リ先ツ橈座栓ヲ抜キ又ハ橈架ヲ備ヘタル後各其ノ動作ヲ行フモノトス

## 第六十五 「橈立テ」

「橈用意」ヲ爲シアルトキ此ノ號令ニテ各橈手ハ後橈手ノ舉動ニ倣ヒ橈ヲ眞直ニ立テ握テ兩脚ノ間ニテ底板上ニ置キ水搔ヲ縦ニ向ケ前後ニ揃ヘ後橈手ノ橈ト一直線ニ竝フ此ノ時橈ヲ把持スルニハ外方ノ手ヲ以テ

柄ヲ胸ノ高サニ握リ内方ノ手ハ伸シテ其ノ下方ヲ輕ク握ル

「橈備ヘ」ノ姿勢ニ在ルトキ又橈漕中ニ在ルトキハ此ノ號令ニテ各橈手ハ外手ヲ下ヨリ持チ換ヘ内手ヲ以テ把手ヲ強ク下方ニ押し外手ヲ以テ橈ヲ起スカ如クシテ橈ヲ眞直ニ立ツ其ノ他前項ニ同シ

## 第六十六 「艇首離セ」

### 第一舉動

前橈手、各爪竿ノ爪ナキ方ヲ以テ艇首ヲ艦側ヨリ押し離シ一齊ニ爪竿ヲ收メ著座ス

内側後橈手、艇首ノ離レタルヲ見著座ノ儘爪竿ヲ以テ艇尾ヲ艦側ヨリ押し離シ爪竿ヲ收ム

### 第二舉動

前橈手(已ニ「防舷物入レ」ノ號令アリタルトキハ之ヲ入レ)橈座栓ヲ抜キ一齊ニ橈ヲ立ツ後橈手(既ニ「防舷物入レ」ノ號令アリタルトキハ之ヲ入レ)橈座栓ヲ抜キ橈ヲ立ツ

但シ短艇「橈備ヘ」ノ姿勢ニ在ルトキハ第二舉動ニ次テ直チニ橈ヲ備フ又既ニ橈漕ヲ初メタル後ニ在リテハ前橈手ハ第一舉動ヲ終リ直ニ防舷物ヲ入レ橈座栓ヲ抜キ「橈立テ」ヨリ「橈備ヘ」ヲ行フ要領ニ準シ一齊ニ橈ヲ備ヘ橈漕ス後橈手モ亦右ニ準シ橈漕ヲ始ム

### 第六十七 「橈備ヘ」

「橈立テ」ノ姿勢ニ在ルトキハ此ノ號令ニテ各橈手ハ握ノ全ク膝ヲ離ルル迄兩手ニテ橈ヲ上ケ水搔ヲ水面ニ觸レサル如ク靜ニ之ヲ橈座ニ架シ内手ハ握ヲ外手ハ柄ノ内端ヲ上ヨリ握リ水搔ヲ短艇ノ正横ニ持來シテ

平ニ揃ヘ縁板ト同高ナラシム(波浪高キ時ハ之ニ打タレサル如ク縁板ヨリ稍々高クス)

「橈用意」ノ姿勢ニ在ルトキハ此ノ號令ニテ後橈手ハ外手ニテ柄ヲ支ヘ内手ハ握ヲ上ヨリ握リ上縁上ヲ迂ラスコトナク平ニ短艇ノ正横ニ持來シ前項ニ準シ橈ヲ備フ爾餘ノ艇員ハ後橈手ニ準シ逐次後方ヨリ橈ヲ備フ單座艇又ハ橈索ヲ附シアル雙座艇ニ在リテハ各橈手橈ヲ持チ水搔ヲ短艇ノ正横ニ持來シ前項ノ姿勢ヲ採ル「橈流セ」又ハ「橈組メ」ヨリ「橈備ヘ」ノ命アルトキハ前項ニ準シ其ノ姿勢ヲ執ルモノトス

### 第六十八 「防舷物入レ」

各橈手ハ外手ニテ防舷物ヲ取入ル

### 第六十九 「用意」

各槳手ノ動作左ノ如シ

内手ハ槳ノ握ノ端ヲ握リ外手ハ槳手ノ體格ニ應シ内手ヨリ二吋乃至五吋離シ柄ヲ輕ク握ル

上體ハ臀部ニ据ヘ胸及腹ヲ充分ニ張り背部ヲ曲クルコトナク上體ヲ兩舷ノ間ニ前方ニ屈シ兩臂ヲ充分前方ニ伸ス兩足ハ爪先ヲ開キ蹴ヲ槳手ノ體格ニ應シ約二吋迄離シテ足掛ニ當テ兩膝ハ上體ノ前方ニ屈スルニ隨ヒ自然ニ少シク開ク

水搔ハ殆ト水面ニ觸接セントスル位置ニ於テ略々垂直ナラシム眼ハ水搔ニ注ク

## 第七十 「前へ」

### 第一舉動

「用意」ノ姿勢ヨリ握手ヲ少シク上ケ水搔ヲ水面ト略々直角ニ適當ノ深サ迄水中ニ入レ最迅速ニ兩臂ヲ曲クルコトナク後方ニ引ク

水搔ヲ水中ニ入ルル程度ハ艇座及槳座楫ノ高サ柄及水搔ノ長サ槳手ノ體格等ニ依リ斟酌ヲ要スルモノトス而シテ通例水搔ノ約四分ノ三ヲ適度トス

上體ハ左右ニ傾クルコトナク垂直ノ位置ヨリ後方ニ約二十五度迄迅速ニ引ク此ノ時兩拳ハ水平ニ運動スルヲ要ス

兩脚ハ此ノ動作ノ終リニ於テ殆ト眞直ニナルヲ要ス

肘ハ上體垂直ノ位置ヲ少シク過クルトキヨリ屈シ初メ兩肘ヲ體ニ接シ兩拳ヲ胸ニ到ラシム但シ此ノ際上體ニテ槳ノ握ヲ迎フル如ク動作スヘカラス

## 第二舉動

水搔ノ水ヲ離ルル迄兩拳ヲ垂直ニ下ケ手頸ヲ上方ニ轉シ水搔ヲ平ニス  
第三舉動

水搔ヲ平ニスルヤ否ヤ直ニ之ヲ水面上少シク高ク上ケ(波高キトキハ  
之ニ觸レサル程度ニ充分高ク上ク)兩拳ヲ胸部ニ停ムルコトナク水平  
運動ヲ爲ス如ク握ヲ鋭ク突キ出シ上體ヲ整正確實ニ「用意」ノ姿勢ニ復  
ス

右ノ如クシテ連續操橈スルモノトス

橈漕中頭ハ正シク保チ上體ト同一運動ヲ爲スヲ要ス

初期ノ教練ニアリテハ各舉動ニ區別シテ行ヒ其ノ熟練スルニ從ヒ各舉  
動ヲ連續施行スルモノトス

橈漕速度ノ標準ハ一分間二十八乃至三十(單坐艇ニ在リテハ二十六乃  
至二十八)トス

橈漕中兩後橈手ノ操橈ハ常ニ齊一ニ爲シ其ノ他ノ橈手ハ之ニ倣ヒ整調  
スヘシ

## 第七十一 「停メ」

各橈手ハ外方ノ足ヲ適宜後方ニ引キ水搔ノ端ヲ以テ斜ニ水勢ニ抗シ漸  
ク前進方ヲ減スルニ至リテ其ノ全面ヲ以テ艇ノ進行ヲ停ム

## 第七十二 「後へ」

各橈手ハ外方ノ足ヲ適宜後方ニ引キ前進ノ場合ニ準シテ橈ヲ使用シ艇  
尾ノ方ヨリ艇首ノ方ニ水ヲ搔ク

## 第七十三 「橈上ケ」



各橈手ハ橈漕ヲ終リ「橈備へ」ノ姿勢ヲ採ル

### 第七十四 「橈組メ」

各橈手ノ動作左ノ如シ

第一舉動

外方ノ手ニテ當革ノ附近ヲ上ヨリ握リ其ノ儘橈ヲ内方ニ引入ル

第二舉動

内方ノ手ヲ一杯伸シ外方ノ手ヲ越シテ橈ヲ握リ再ヒ之ヲ引入レ握手ヲ反對側ノ下帶ノ上(波浪アルトキハ下)ニ致シ船側ノ橈ヲ前方ニ置ク此ノトキ各橈手ハ互ニ反對側ノ橈ノ握ヲ下帶ノ上(下)ニ致スヲ助ク

第三舉動

兩手ヲ橈ヨリ放ツ

### 第七十五 「橈流セ」

各橈手ハ直ニ橈ヲ橈座ヨリ外シ其ノ直後ノ上縁上ニ致シ握ヲ外手ニ持換へ(單座艇ニアリテハ橈架ニ架シタル儘握手ヲ橈手ノ後方ニ致シ艇首方直後ノ橈手之ヲ把持ス)水勢ニ抵抗ナカラシム

達 著

### 第七十六 「機首構へ」

各橈手ノ動作左ノ如シ

第一舉動

前橈手ハ一齊ニ橈ヲ立テ水搔ヲ艇尾ニ向ケ之ヲ中央ニ收メ橈座栓ヲ挿シ防舩物ヲ出ス

第二舉動

前橈手ハ爪竿ヲ探リ一齊ニ起立シ内方ニ轉回シテ前方ニ面シ左右ニ竝  
ンテ艇首座ニ起立シ同時ニ爪ヲ前後ニシ爪竿ヲ體ノ前方ニ於テ直立ス  
此ノトキ爪竿ヲ把持スルニハ内方ノ手ヲ上ニシ外方ノ手ヲ下ニス  
單座艇ニ在リテハ前橈手ハ「橈流セ」ヲ爲シ其ノ艇座ニ著座ノ儘爪竿ヲ  
用意ス

〔註〕「艇首構へ」ハ潮流風波ナキトキハ達著場所ヲ距ルコト約五艇身  
ニ於テ行フヲ通例トス

### 第七十七 「橈立テ」

各橈手ハ第六十六ノ二項ニ依リ橈ヲ立ツ内側後橈手ハ橈ヲ立テタル後  
直ニ之ヲ艇ノ中央ニ收メ橈座栓ヲ挿シ防舷物ヲ出シ爪竿ヲ用意ス

### 第七十八 「防舷物出セ」

各橈手ハ外側ノ手ニテ防舷物ヲ出ス

### 第七十九 達著點ニ到ラハ

外側前橈手ハ内側前橈手ノ前方ニ出テ爪竿ニテ橈ヲ引キ寄セ内側前橈  
手ハ爪ナキ端ヲ以テ艇ヲ押離シ其ノ接衝ヲ防ク

内側後橈手ハ適宜爪竿ヲ使用スルカ紡索紡索若ハ握索ヲ取り艇ヲ適當ノ位  
置ニ保持ス

單座艇艇ニ在リテハ前橈手ハ適宜爪竿ヲ使用シ後橈手ハ爪竿ヲ用意シ前  
項ニ準シ動作ス

### 第八十 「橈收メ」

各橈手ハ外手ヲ以テ柄ヲ支ヘナカラ靜カニ橈ヲ艇首ノ方ニ倒シ水搔ヲ  
緣板上ニ置キ直ニ之ヲ收メ橈座栓ヲ挿ス此ノ時(三)(四)ハ各橈ノ水搔ヲ艇

内ニ取入ルルコトヲ助ケ後橈手ハ握ノ端ヲ最後艇座後縁ニ揃フ（内側ノ後橈手爪筭ヲ使用シアルトキハ其ノ次ノ橈手之ヲ助ク）

「橈流セ」「橈上ケ」又ハ橈漕中ヨリ橈ヲ收ムルトキハ右ニ準シテ行フ單座艇ニ在リテハ「橈用意」ノ場合ニ準シ橈架索ヲ解キテ橈ヲ收メ橈架ヲ外シテ收ム

### 回頭

#### 第八十一 「船(艇)後(艇)前へ」

一 舷側ノ橈ヲ以テ水ヲ艇首ノ方ニ掻キ反對側ノ橈ヲ以テ艇尾ノ方ニ掻キ所要ノ方向ニ艇首ヲ轉セシム

艇首所要ノ方向ニ轉回シ終ラハ「橈上ケ」ヲ令シ後要スル橈漕ニ移ルコトヲ得（但シ時宜ニ依リ「橈上ケ」ヲ令スルコトナク直ニ要スル橈漕ニ

移ルコトヲ得）橈漕中一舷側ニ「船(艇)後(艇)前へ」(停メ)（橈上ケ）(橈流セ)「ト令シテ轉回ヲ行フコトヲ得

### 第三章 橈漕法

#### 一 要則

第八十二 「橈備へ」ニ當リ橈杭ニ嵌ムル前入レ子ヲ水ニ潤シ又橈漕中時時潤スヲ可トス

第八十三 操櫓ノ際ハ早緒ヲ緩メサル様注意スヘシ

第八十四 早緒ハ艇員ノ體格ニ應シ調整スルヲ要ス

第八十五 操櫓中ハ頭ヲ常ニ艇首ニ向クヘシ

第八十六 操櫓中ハ艇員互ニ調子ヲ合スヲ要ス然ラサレハ艇ノ動搖ヲ來シ駛力ヲ減ス

二 號令

第八十七

各種櫓艇ヲ通シテ特ニ用フル號令及之ヲ下スヘキ時機左ノ如

シ

「櫓備へ」

艇内ニ收メアル櫓ヲ櫓漕用ニ備ヘシメムトスルニ當リ下ス

「用意」

「櫓備へ」ノ姿勢ヨリ櫓ヲ漕キ出サムトスル準備姿勢ヲ採ラシメムトス

ルニ當リ下ス

本號令ハ練習ノ初步ニ在リテノミ使用スルヲ例トス

「前へ」

「櫓備へ」又ハ「用意」ノ姿勢ヨリ櫓漕ヲ開始セシメムトスルトキニ下

ス

「漕方待テ」

操櫓ヲ一時中止セシメムトスルトキニ下ス

「櫓流セ」

櫓艇障害物等ニ遭遇スルトキニ下ス

「櫓收メ」

櫓ヲ艇内ニ收メシメムトスルトキニ下ス

「押へ」

船ニ回頭セムトスルトキ又ハ艇首舷ニ偏倚スルヲ防止セムトスル場合

ニ下ス

「控へ」

艇ニ回頭セムトスルトキ又ハ艇首ノ舳ニ偏倚スルヲ防止セムトスル場  
合ニ下ス

「押廻シ」

操櫓中狹隘ナル場所又ハ急速ヲ要スル場合ニ於テ舳ニ回頭セムトスル  
トキニ下ス

「控廻シ」

操櫓中狹隘ナル場所又ハ急速ヲ要スル場合ニ於テ舳ニ回頭セムトスル  
トキニ下ス

### 三 操 法

第八十八 本操法ハ槽三挺ヲ備ル槽艇ニ就テ規定ス其他ノ槽艇ニ於テ  
ハ之ニ準スルモノトス

## 第八十九 「集レ」

艇員ハ其ノ槽艇ノ附近(所定ノ場所)ニ於テ之ニ面シ(一)ヲ先頭トシ艇員  
番號順序ニ單列ニ整列ス(長)ハ(一)ノ右ニ列ス

## 第九十 「乗艇」

艇員ハ迅速ニ乗艇シ槽及附屬物ヲ檢シ(一)ハ舳脇槽(二)ハ舳脇槽長ハ艙槽  
ニ對スル早緒ノ取附ケ場所ニ近キ橫梁ニ接シ外方ヨリ其ノ部ニ艇幅ノ  
約四分ノ一ノ所ニ於テ舷側ニ面シテ位置シ早緒ヲ準備ス

## 第九十一 「槽備へ」

各艇員ハ杆子ヲ用意シ各自ノ槽ヲ適宜後方ニ出シ槽下ヲ水ニ入レ入レ  
子ヲ槽杭ニ嵌メ早緒ヲ槽杆ニ掛ケ槽ヲ支フ  
槽艇ヲ艦側又ハ棧橋等ニ著ケアルトキハ内側ノ脇槽手ハ槽ヲ用意スル

コトナク其ノ儘櫓艇ヲ支持ス

### 第九十二 「艇首離セ」「防舳物入レ」

(一)(二) ハ爪竿ヲ以テ櫓艇ヲ艦側ヨリ充分ニ突離シタル後爪竿ヲ收メ防舳物ヲ取入ル

### 第九十三 「用意」

各艇員ハ左(右)手ニテ櫓杆ノ部ヲ握リ右(左)手ニテ櫓腕ノ尖端ヲ輕ク握リ左(右)足ヲ踏臺ニ掛ケ右(左)足ヲ適宜後方ニ引キ櫓腕ヲ外方ニ押出ス姿勢ヲ採ル

〔註〕 櫓腕ノ尖端ヲ握ルニハ拇指ヲ下ニスルヲ利トス

### 第九十四 「前へ」

各艇員ノ動作左ノ如シ

### 第一舉動

用意ノ姿勢ニ於テ手頸ヲ稍々内方ニ反シツツ最迅速ニ櫓腕ヲ外方ニ押出ス同時ニ右(左)脚ヲ伸シ左(右)脚ヲ屈シ體ノ重ミヲ左(右)脚ト櫓腕トニテ支ユ

### 第二舉動

手頸ヲ稍々外方ニ反シツツ最迅速ニ櫓腕ヲ内方ニ引キ同時ニ左(右)脚ヲ伸シ右(左)脚ヲ少シク屈シ體ノ重ミカ右(左)脚ト櫓腕トニテ支ユ

### 第九十五 「漕方待テ」

各艇員ハ漕方ヲ中止シ「櫓備へ」ノ姿勢トナル

### 第九十六 「槽流セ」

各艇員ハ先ツ「用意」ノ姿勢ヲ採リ然ル後早緒ヲ外シ櫓杭ヨリ入レ子ヲ

脱シ櫓ヲ外方ニ押シ出シ杆子ノ外端ヲ替シテ櫓腕ヲ少シク下ケ杆子ノ下ニ替シ其ノ位置ニ於テ兩手ニ力ヲ籠メ櫓腕ヲ上方ニ強ク上ケ杆子ヲ激衝シテ艇内ニ頓入セシメ然ル後櫓下ヲ舷側ニ添流シ之ヲ保持ス

再ヒ櫓ヲ備フルトキハ最初杆子ヲ用意シ兩手頸ヲ稍々外方ニ反ヘシ杆子ノ外端ヲ替レハ兩手頸ヲ元ニ復シ同時ニ櫓腕ヲ上ケ入レ子ノ部ヲ杆子ノ上ニ來ラシメ入レ子ヲ櫓枕ニ嵌入レ早緒ヲ懸ケ用意ノ姿勢ニ復ス

### 第九十七 「艇首構へ」

(一)、(二)ハ漕方ヲ止メ一齊ニ櫓、次イテ杆子ヲ收メ防舷物ヲ出シ爪竿ヲ取り爪アル方ヲ上ニシ(一)ハ艇首(二)ハ艇尾ニ在リテ前方ニ面シテ立チ長ハ艇ノ全ク著キタルヲ見テ櫓ヲ收ム

### 第九十八 「櫓收メ」

各艇員ハ用意ノ姿勢トナリ早緒ヲ外シ櫓腕ノ下面ヲ上方ニ外轉シ櫓ヲ艇内ニ取込ミ横梁上中央ニ竝置シ杆子ヲ收ム

### 第九十九 「押へ」

各艇員ハ「前へ」第一舉動ニ準シ櫓腕ヲ外方ニ押出シ加減シテ適宜轉回ヲ爲ス

### 第一百 「控へ」

各艇員ハ「前へ」第二舉動ニ準シ櫓腕ヲ内方ニ引キ加減シテ適宜轉回ヲ爲ス

### 第一百 「押廻シ」

各艇員ハ先ツ「用意」ノ姿勢ヲ採リ然ル後「前へ」ノ一舉動ニ準シ兩手頸ヲ内方ニ反シ同時ニ其儘強ク櫓腕ヲ外方ニ押シ水ヲ搔キ終ツテ櫓下ヲ

水ヨリ離シ急速ニ櫓腕ヲ内方ニ引キ櫓下ヲ水ニ入レ此ノ動作ヲ反復シテ迅速轉回ヲ爲ス

### 第二百一 「控廻シ」

各艇員ハ先ツ「用意」ノ姿勢ヲ採リ然ル後「前へ」第二舉動ニ準シ兩手頭ヲ外方ニ反シ同時ニ其ノ儘強ク櫓腕ヲ内方ニ引キ水ヲ搔キ終リテ櫓下ヲ水ヨリ離シ急速ニ櫓腕ヲ外方ニ押出シ櫓下ヲ水ニ入レ此ノ動作ヲ反復シテ迅速轉回ヲ爲ス

〔註〕 艫櫓ト反對舷ニアル脇櫓ハ回頭操櫓中其ノ動作正反ス

## 第四章 帆走法

### 一 要 則

第二百三 帆走ニ當リテハ「フオースル」ヲ櫓ノ舳側ニ「ミズン」ハ舷側ニ展

張スルモノトス

第二百四 帆走ヲ爲スニハ帆ニ皺及垂ミナキ様完全ニ展帆シ索具ハ必ス整頓シアルヲ要ス

第二百五 帆走ヲ爲スニハ風向風力ニ應シ諸帆ノ最大效力ヲ發揮スル如ク適宜之ヲ伸縮増減スルヲ要ス

第二百六 帆走準備作業中又ハ帆走中櫓上ニ登ルハ嚴禁トス

第二百七 帆走中ハ短艇指揮、艇長及風上ニアル艇首員ノ外艇員ハ艇底ニ坐シ必要アルニ非サレハ各其ノ位置ヲ變スルコトナク坐シタル儘ニテ作業スルモノトス

第二百八 帆走中風上ノ艇首員ハ常ニ前方ヲ見張リ航路ニ當ル障害物ノ有無及接近スル船舶舟艇等ニ注意シ又「デブ」ノ飄動スルヲ見ハ直ニ報告



スルモノトス

第九 帆走中ハ風向風力ノ急變及驟風雨ノ來襲ニ對シ常ニ警戒シ急速之ニ應スルノ準備アルヲ要ス

第十 「シート」ヲ守ル者ハ特ニ注意シ號令ニ應シ迅速ニ伸縮シ得ルコトヲ期シ決シテ固縛スルコトナク之ヲ把持スヘシ

但シ風強キトキハ艇座又ハ「クリート」ヲ廻シテ把持スルヲ妨ケス

第十一 帆走ヲ爲スニハ風ニ對シ艇體ノ釣合ヲ適良ニ保ツコトニ留意シ要スレハ艇員又ハ水樽ヲ適宜移動スヘシ而シテ釣合ハ一般ニ艇尾ノ吃水艇首ヨリ稍々深キ状態ナルヲ良好トス

第十二 各種短艇ヲ通シ帆走ニ關スル主ナル用語左ノ如シ

展帆 デシパン 帆ヲ正規ニ展スルヲ謂フ

絞帆 シナウ 展帆シタル帆ヲ絞ルヲ謂フ

縮帆 シレパン 帆ノ一部分ヲ疊ミ其ノ面積ヲ縮少スルヲ謂フ

伸帆 テシパン 縮少シタル帆ヲ伸スヲ謂フ

脚蹠 テヤウ 帆走中帆ト舵トノ作用ニ依リ其ノ位置ニ一時漂泊スルヲ謂フ

上手舵 ウシテカ 舵柄ヲ風上ニ取ルヲ謂フ

下手舵 シテカ 舵柄ヲ風下ニ取ルヲ謂フ

開ク ヒキ 艇首ヲ風上ニ遡ラシムルヲ謂フ

起ス オキ 艇首ヲ風下ニ落スヲ謂フ

離ス イリ 風向ト艇ノ首尾線ノナス角度ヲ指示スル場合ニ用フ

舷開キ ヒシ 舷側ヨリ風ヲ受ケテ帆走スルヲ謂フ

舷開キ ヒシ 舷側ヨリ風ヲ受ケテ帆走スルヲ謂フ

詰開キノノミシ 艇首ヲ極度マテ風上ニ遡ラシメテ帆走スルヲ謂フ

順走ジムシツウ 風ヲ正横後ヨリ受ケテ帆走スルヲ謂フ

逆走イダシツウ 風ヲ正横前ヨリ受ケテ帆走スルヲ謂フ

間切マキリ 交互ニ舳開舵開ヲ以テ目的地ニ進ムヲ云フ

上手廻 風上ニ遡リテ舳(舷)開キヨリ舷(舳)開キニ變スルヲ謂フ

下手廻 風下ニ落シテ舳(舷)開キヨリ舷(舳)開キニ變スルヲ謂フ

第一百十三 諸帆ノ用途概ネ左ノ如シ

「ヂブ」ハ艇首ヲ風ヨリ起スニ用キ兼ホテ前檣ヲ支持ス

「フオースル」ハ帆走駛力ノ大部分ヲ分擔ス但シ「ヂツピンググラゲン

ドミジン」ノ「スオースル」ハ「ヂブ」及「フオースル」ノ用ヲ兼ス

「ミジン」ハ艇尾ヲ風下ニ壓シ艇首ヲ風上ニ致ス

第一百十四 「詰開キ」ニテ帆走スルトキハ風下ニ落ツルコト少ナシト雖モ

駛力大ナラス又起シテ帆走スルトキハ駛力大ナレトモ風下ニ落ツルコ

ト多シ故ニ此等ノ中庸ヲ得ルコトヲ努メ帆ノ「ラフ」ニ絶エス注目シ

テ之ヲ飄動セシムルコトナク且過度ニ起ササル如ク注意スルヲ必要ト

ス

第一百十五 順走ニ於テ帆ノ後縁竝下縁飄動シ又「詰開キ」ニ於テ帆ノ前縁

飄動スルトキハ共ニ裏帆トナルノ徴候ナルヲ以テ常ニ此ノ點ニ注意ス

ルヲ要ス

第一百十六 「シート」ノ張方ハ最注意ヲ要スルモノニシテ「詰開キ」ノトキ

ハ「シート」ヲ一杯張り「詰開キ」ヨリ起スニ隨ヒ適度ニ伸シ又開クニ隨

ヒ之ヲ張ルヲ原則トシ「ブームシート」ニハ特ニ注意シ爲ニ過度ノ上手

舵又ハ下手舵トナラサル如クスルヲ要ス

第百十七 艇首ヲ風下ニ落ス爲「チブシート」ヲ風上ニ張出スニ當リテハ縁板ヲ越ヘテ過度ニ之ヲ出スヘカラス是回頭ニ益ナク却テ後進ヲ爲スノ虞アリ又艇首風向ヲ過キムトスルトキ後進ヲ始ムル場合ニハ後進ニ對スル操舵ヲナシ回頭ヲ助クルヲ要ス

第百十八 上手廻又ハ下手廻ヲ終リ未タ駛力ノ生セサルニ先チ「シート」ヲ一時ニ緊張スルトキハ艇ハ風下ニ落チ前進ヲ妨クルニ至ルノミナラス逆回又ハ顛覆スルコトアリ

上手廻ノ際「チブシート」ヲ風上舷ニ張出シタルニ拘ハラヌ艇首風向ニ正面シ後進ヲ始ムルトキハ舵柄ヲ舊風上舷ニ取り後進ニ對スル舵ヲ取り艇首ニ在ル艇員若干ヲ後部ニ移スヘシ斯クスルトキハ艇尾ノ吃水増

加スルカ故ニ艇ノ後進スルニ當リ水ノ抵抗ヲ大ナラシメ艇尾ノ舊風上ニ廻ルヲ防キ回頭ヲ容易ナラシムヘシ又艇首已ニ風向ヲ過キ諸帆ノ「シート」ヲ反對舷ニ移スニ當リ再ヒ風上ニ反轉セムトスルトキハ「ブームシート」ヲ緩メ「ジブシート」ヲ風上ニ張出シテ艇首ヲ風下ニ落スヘシ

第百十九 微風ニ下手廻ヲ行ヒ已ニ反對舷ヨリ風ヲ受クルニ至リタルトキハ「チブシート」ヲ緩メ風ヲ洩ラシ回頭ヲ容易ナラシムヘシ又必要ニ應ジ「フォースルシート」ヲ少シク伸スヲ可トス

風強キトキハ一旦「フォースル」ヲ卸シ更ニ之ヲ揚クルヲ安全トス

第百二十 上手廻ハ下手廻ニ比シ航路ヲ損失スルコト少キカ故ニ通例間切ニハ上手廻ニ依ルモノトス風力強キトキ又ハ風力微弱ナルトキハ下

手廻ヲ行フヲ良トス

第二百二十一 「フオースル」ヲ縮ムルニ當リ初メ其ノ「シート」ヲ伸ハシテ風ヲ洩ラシテ下手舵ヲ取り裏帆ヲ打タシメサル限リ艇首ヲ風向ニ近寄ラシムルトキハ帆ヲ下スコト容易ナリ然レトモ縮帆ヲ行フ場合ハ風強ク浪高キヲ常トスルカ故ニ若シ艇首ヲ過度ニ風向ニ近寄セ爲ニ全ク駛力ヲ失フニ至ラハ艇體ノ動搖甚シク波浪ハ一層浸入シ諸帆ノ飄動烈シク作業困難ナルヲ以テ過度ニ風向ニ近寄スルコトヲ避ケ且諸帆ヲ逐次縮帆シ駛力ヲ失ハサル如ク注意スルヲ要ス

第二百二十二 順風ニテ後方ヨリ艦側ニ達著スルトキハ「チブ」ヲ下スト同等ニ「フオースル」ヲ絞リ「ミズンブーム」ヲ揚クルヲ常則トスレトモ場合ニ依リ後方ノ帆ヨリ順次絞帆シ最後ニ「チブ」ヲ下スモ妨ケナシ

第二百二十三 潮流ニ從ヒ碇泊セル本艦ニ帆走ニテ達著セムトスルトキハ風向及駛力ニ注意シ常ニ舷門ヨリ前方ニ達著シ直ニ「ボートロープ」ヲ取り帆ヲ絞リ常ニ潮流ヲ艇首ニ受クル如ク操縦シ「ボートロープ」ヲ緩メテ舷門ニ達著スヘシ

第二百二十四 帆走中岬角等ヲ廻航スルトキハ充分之ヲ離シ且風上ニ廻リテ後回頭スヘシ然ラサレハ岬角ノ爲風ヲ遮斷サレ廻航シ能ハサルコトアリ

第二百二十五 帆走中風浪強大ニシテ波浪艇内ニ浸入スルトキ艇體傾斜シテ風下ノ緣板殆ト水面ニ及フトキ又ハ驟風雨屢來襲スルトキハ其程度ニ應シ適宜縮帆ヲ行ヒ風力ヲ艇體ニ釣合ハシムルヲ要ス

第二百二十六 帆走中浸水アラハ迅速ニ排水スヘシ然ラサレハ艇ノ傾斜ニ

際シ重量ノ移動トナリ釣合ヲ失シ顛覆ノ災害ヲ來スコトアリ

第二百二十七 編隊帆走中前續艇ト接近シ一時踟躕ヲ行フトキハ必ス前續

艇ノ風上側ニ出ツヘシ是適當ノ距離ヲ得タル後再ヒ位置ヲ占ムルニ容

易確實ナレハナリ逐次上手廻ヲ爲ストキ亦同シ

## 二 號令

第二百二十八

帆走法ニ於テ特ニ用ウル號令及之ヲ下スヘキ時機左ノ如シ

「帆走用意」  
ハンソウヨウイ

裝帆ノ準備ヲ行ハント欲スルトキニ下ス

「櫓立テ」  
マストタ

櫓ヲ立テ帆ヲ裝著セムトスルトキニ下ス

「ヂブ揚ゲ」(「ヂブ卸セ」)

「フオースル掛ケ」(「フオースル絞レ」)(「フオースル卸セ」)  
シボ

「ミズン掛ケ」(「ミズン卸セ」)

各要スル帆ヲ展帆(絞帆)(降下)セムトスルトキニ下ス

「上手廻用意」  
ウヘテマハンヨウイ

上手廻ヲ行ハムトスルトキニ下ス

「下手廻用意」  
シタテマハンヨウイ

下手廻ヲ行ハムトスルトキニ下ス

「ヂブシート緩メ」  
ユル

「ヂブ」ニ受クル風ヲ洩サムトスルトキニ下ス

「ヂブ風上」  
フウジヨウ

「ヂブ」(又ハ「フオースル」)ヲ風上側ニ張り出シ艇ノ回頭ヲ容易ナラシ

メムトスルトキニ下ス

「シート替へ」

諸帆ノ「シート」ヲ風下舷ニ替へムトスルトキニ下ス

「ブーム中央」

「ミズンブーム」ヲ中央ニシ風壓ヲ増サントスルトキニ下ス

「ブーム」揚ゲ

「ミズンブーム」ヲ揚ケテ風ヲ洩ラシ回頭ヲ容易ナラシメムトスルトキ

ニ下ス

「フオースル替せ」

「フオースル」ヲ桁ト共ニ風下舷ニ替へムトスルトキニ下ス

「フオースル一段(二段)縮メ(伸シ)方」 「チブミズン縮メ(伸シ)方」

帆ヲ要スル程度ニ伸縮セムトスルトキニ下ス

### 三 操 法

第二百二十九 本操法ハ橈十二挺ヲ用フル「カッター」ノ「スタンディングラ  
グデブエンドミズン」帆式ニ就テ規定ス「チツピングラグエンドミズ  
ン」帆式ニ就テハ異ル事項ノミヲ併記ス

第三百三十 「集レ」

各艇員ハ第六十二ニ依リ動作ス

第三百三十一 「乗艇」

各艇員ハ第六十三ニ依リ動作ス但シ指揮ハ風上艇尾腰掛艇長ハ風下  
艇尾腰掛(指揮アラサルトキハ風上艇尾腰掛)ニ位置スルモノトス

第三百三十二 帆走準備

一 「帆走用意」

各艇員ハ櫓ヲ立ツル準備ヲ爲ス

二 「櫓立テ」

各艇員ノ動作左ノ如シ

(一)、(二)ハ(三)、(四)ヨリ前櫓維持索ノ一端ヲ受取り之ニ依リテ前櫓ヲ引起シ次テ(五)、(六)ヨリ「チブ」ヲ受取りテ其ノ「テツキ」ヲ留メ「シート」ヲ捌キ張揚索ヲ取附ケ一度之ヲ揚ケテ其ノ取附ノ正當ナルヲ確メタル後之ヲ卸ス「ヂツピングラグエンドミズン」ニテハ「フオースル」ノ「テツキ」ヲ取附ク

(三)、(四)ハ(五)、(六)ト共ニ前櫓維持索ヲ捌キ其ノ端ヲ(一)、(二)ニ渡シ「クラムブ」ヲ開キ前櫓ノ根ヲ櫓脚承ニ當テテ押へ櫓ヲ立テタル後「クラム

ブ」ヲ閉チ維持索ヲ取附ケ兩舷平等ニ緊張シテ留メ「フオースル」ノ「テツキ」ヲ取附ケ(五)、(六)ト共ニ「フオースル張揚索」ニ就テ「フオースル」ヲ引揚ケ更ニ「テツキ」ヲ緊張固縛ス(「ヂツピングラグエンドミズン」ニテハ「フオースル」ノ取附ケ整ヒタル後之ヲ卸シ置ク)

(五)、(六)ハ(三)、(四)ト共ニ前櫓維持索ヲ捌キ前櫓ヲ立テ次テ「チブ」ヲ出シ(一)、(二)ニ渡シ「フオースル」ヲ整へ之ヲ張揚索ヲ取附ケ(三)、(四)ト共ニ之ヲ引揚ケ絞索ニ依リ「フオースル」ヲ絞ル(七)、(八)ハ前櫓立テ方ヲ助ケ次テ「フオースルシート」ヲ帆ニ取附ケ其ノ他端ヲ(九)、(十)ニ渡シ(五)、(六)ヲ助ク

(九)、(十)ハ前櫓立テ方ヲ助ケ次テ「フオースルシート」ノ滑車ヲ(七)、(八)ヨリ受取リテ之ヲ定所ニ取附ケ(十一)、(十二)ノ作業ヲ助ク

(十)、(十一)ハ前檣ノ頭ヲ起シ次テ後檣ヲ立テ「ボムキン」ヲ取附ケ張揚索、張出索、上張索「テツキ」及「シート」ヲ整ヘ「ミズン」ヲ引揚ケ「テツキ」ヲ充分ニ引締メ上張索ニ依リ「ブーム」ヲ揚ク

櫓及道板ハ兩側ニ近ク艇座ニ固縛シ艇體動搖スルモ其ノ位置ヲ變スルコトナカラシメ爪筭ハ容易ニ使用シ得ル如ク準備シ置クモノトス

### 第三百三十三 出發展帆

短艇帆走ノ準備ヲ爲シ艦側又ハ棧橋等ニ著ケアルトキ出發展帆スルニハ左ノ號令ヲ下ス

一 「艇首離セ」

艇首員及内側ノ艇尾員ハ橈漕ニ於ケルト同法ヲ以テ短艇ヲ離ス

二 「防舷物入レ」

各艇員ハ防舷物ヲ取り入ル

三 「デブ揚ケ」

(一)、(二)ハ「デブ」張揚索ニ就テ「デブ」ヲ引揚ケ風下トナルヘキ(一)(二)ハ風下ノ「シート」ヲ張ル但シ場合ニ依リ「デブ」舳(舷)ト令シ其ノ「シート」ヲ一時風上ニ取ラシメ要セサルニ至レハ「デブ」舳(舷)ト令シ「シート」ヲ風下ニ取ラシム

四 「フオースル掛ケ」

(五)ハ絞索ヲ緩メ(九)(十)ハ風下ノ「シート」ヲ張リテ「フオースル」ヲ掛ク

五 「ミズン掛ケ」

(十二)ハ上張索ヲ緩メテ「ブーム」ヲ卸シ(十)ハ「ブームシート」ヲ張リ



「ミズン」ヲ掛ク

「デツピングラグエントミズン」ニ在リテハ左ノ號令ヲ下ス

一 「艇首離セ」

二 「防舷物入レ」

三 「フオースル半ハ揚ケ」

(三)、(四)ハ「フオースル」ヲ「デツピングマーク」迄徐々ニ引揚ケ(五)、(六)

ハ「ラウンディングライン」ヲ以テ「ヤード」ヲ檣ニ添ハシム又要スレハ

「デブ」(舷)ト令シ(一)(二)ハ檣ニ近キ帆ノ「フート」ヲ令セラレタル

舷ニ張リ出シ「デブ」ノ作用ヲ爲サシム

四 「フオースル掛ケ」

此ノ號令ハ艇首充分風ヨリ離レ適宜ノ時機ニ至リタルトキ下スモ

ノニシテ(三)、(四)ハ「フオースル」ヲ引上ケ風下ノ維持索ヲ緩メ(九)(十)  
ハ風下ノ「シート」ヲ張ル

〔註〕 「フオースル」ノ張揚索ハ「デツピングマーク」ニテ檣ノ附近ニ留  
置キ帆ヲ引揚ケタル後ハ其ノ中程ヲ風上側ニ留ムルヲ良シトス是レ  
維持索ヲ補助スルノ效アレハナリ又其ノ「シート」ハ帆ヲ充分引揚ケ  
タル後緊張スヘキモノトス

五 「ミズン掛ケ」

「スタンディングラグデブエンドミズン」ニ同シ

橈漕ヨリ帆走ニ移ルトキハ右ニ準シ展帆ス

## 第三百三十四 上手廻

上手廻ヲ行フニハ逐次左ノ號令ヲ下ス

一 「上手廻用意」

指揮ハ此ノ號令ト共ニ徐々ニ下手舵ヲ取り艇首ヲ風上ニ向ケ「デブ」ノ殆ント飄動セムトスルトキ次ノ號令ヲ下ス

二 「デブシート緩メ」

(一) (二) ハ「デブシート」ヲ緩メテ風ヲ洩ラシ艇首ノ風壓ヲ減シ同時ニ下手舵ヲ一杯ニ取り(十)、(十二) ハ「ブームシート」ヲ張リテ「ブーム」ヲ中央ニシ艇首風上ニ迦ルニ隨ヒ(九) (十) ハ漸々「フオースルシート」ヲ張リテ回頭ヲ容易ナラシメ艇首ノ風ニ立タントシテ「フオースル」ノ「ラフ」飄動スルトキ次ノ號令ヲ下ス

三 「デブ風上」

(二) (一) ハ「デブシート」ヲ新風上舷ニ張リ出シテ回頭ヲ速カナラシメ

(九) (十) ハ「フオースルシート」ヲ漸々緩メテ艇ノ後進ヲ防キ「シート」ヲ替ユル用意ヲ爲ス已ニシテ新風上舷ヨリ風ヲ受ケ「フオースル」ニ風ヲ含マントスルニ至ラハ次ノ號令ヲ下ス

四 「シート替へ」

諸帆ノ「シート」ヲ新風下舷ニ替へ「フオースルシート」ハ駛力ヲ得ルニ隨ヒ漸次緊張シ「ブームシート」ハ「フオースル」ニ風ヲ充分含ミタルトキ之ヲ緊張ス

「デッピングラグエンドミズン」ニ在リテ上手廻ヲ行フニハ逐次左ノ號令ヲ下ス

一 「上手廻用意」

指揮ハ此ノ號令ト共ニ徐々ニ下手舵ヲ取り艇首ヲ風上ニ向ケ(三)、(四)

ハ「フォースル張揚索」ヲ緩ムル用意ヲ爲ス

二 「ブーム中央」

(十)、(十一)「ミズンブーム」ヲ中央ニシ艇尾ノ風壓ヲ増シ回頭ヲ容易ナラシム「フォースル」ノ飄動ヲ始ムルトキハ次ノ號令ヲ下ス

三 「フォースル半ハ卸セ」

(三)、(四)ハ「フォースル」ヲ「ヂツピングマーク」迄卸シ「ラウンゼンダライン」ヲ以テ「アフターヤードーム」ヲ引寄せ之ヲ下ニ向ケ殆ト檣ト竝行セシメ帆ノ垂ミヲ風下ノ檣下ニ把持ス而シテ艇首風ニ立タントスルトキ次ノ號令ヲ下ス

四 「ヂブ風上」

(一) (二) ハ檣ニ近キ帆ノ「フート」ヲ新風上舷ニ張り出シ回頭ヲ容易

ナラシメ(三)、(五) (四)、(六) ハ風上ノ維持索ヲ緊張シ(四)、(六) (三)、(五) ハ風下ノ維持索ヲ緩メ帆ノ「フート」ヲ新風下舷ニ替ユル用意ヲ爲ス  
已ニシテ新風上舷ヨリ風ヲ受クルニ至レハ(十)、(十二)ハ「ブームシート」ヲ伸ハス是ニ於テ次ノ號令ヲ下ス

五 「フォースル替ハセ」「フォースル揚ケ」

(三)、(四)、(五)、(六)ハ「フォースル」ヲ「ヤード」ト共ニ檣ノ前面ヨリ新風下舷ニ替ハシ張揚索ニ就テ之ヲ揚ク

〔註〕 「フォースル揚ケ」ノ號令ハ必ス維持索整ヒ且「シート」ヲ取附ケ終リタル後ニ下スモノニシテ又「シート」ハ張揚索ヲ留メタルヲ見テ徐々ニ張ルヲ要ス

第三百三十五 下手廻

下手廻ヲ行フニハ逐次左ノ號令ヲ下ス

一 「下手廻用意」  
シタテハハノヨウイ

指揮ハ此ノ號令ト共ニ徐々ニ上手舵ヲ取り艇首ヲ風下ニ向ハシメ適當ノ時機ニ至ラハ次ノ號令ヲ下ス

二 「ブーム揚ケ」

(十)、(十二)ハ「ミズンブーム」ヲ揚ケテ風ヲ洩ラシ回頭ヲ容易ナラシ

メ(九)(十)ハ回頭スルニ隨ヒ漸々「フォースルシート」ヲ緩ム風向艇

尾ニ進シクトキ次ノ號令ヲ下ス

三 「シート替ヘ」

(一)(二)ハ「デブシート」ヲ緩メ(一)、(二)、(九)、(十)ハ諸帆ノ「シート」ヲ

新風下ニ替ヘ速ニ其ノ緩ミヲ取り漸次之ヲ緊張ス

四 「ミズン掛ス」

(十)、(十二)ハ「ブーム」ヲ卸シ適宜「シート」ヲ張ル

微風ノトキ下手廻ヲ行ヒ已ニ反對舷ヨリ風ヲ受クルニ至リタルトキハ「デブシート」緩メ「ト合シテ「デブ」ノ風ヲ洩ラシ回頭ヲ容易ナラシメ尙必要ニ應ジ「フォースルシート」ヲ少シク伸ハス

風強キトキ一旦「フォースル」ヲ卸シテ更ニ之ヲ引揚クルヲ安全トス

「ヂツピングラグエンドミズン」ニ在リテ下手廻ヲ行フニハ逐次左ノ號令ヲ下シ第百三十三及百三十四ニ準シテ作業ス

一 「下手廻用意」

二 「ブーム揚ケ」

三 「フォースル半ハ卸セ」

- 四 「フオースル替ハセ」「フオースル揚ケ」
- 五 「ミズン掛ケ」

### 第三百三十六 達著絞帆

帆走ニヨリ艦側又ハ棧橋等ニ著ケントスルニハ適當ノ時機ニ於テ漸々絞帆シ駛力ヲ減ス之カ爲逐次左ノ號令ヲ下ス

- 一 「艇首構<sup>オモテカマ</sup>ヘ」

艇首員及内側ノ艇尾員ハ爪竿ヲ準備シ各艇員ハ橈等ノ固縛ヲ解ク

- 二 「防舷物出セ」

各艇員ハ防舷物ヲ出ス

- 三 「チブ卸セ」

(一)、(二)ハ「チブ張揚索」ヲ緩メ帆ノ「ラフ」ヲ以テ「チブ」ヲ卸シ然ル後

橈漕ノ場合ノ如ク爪竿ヲ持ツ

- 四 「フオースル絞レ」

(九)(十) ハ「シート」ヲ伸ハシ(五)ハ絞索ヲ引イテ「フオースル」ヲ絞ル

- 五 「ブーム揚ケ」

(十一)、(十二)ハ上張索ヲ張リテ「ミズンブーム」ヲ揚ケ内側ノ艇尾員ハ橈漕ノ場合ノ如ク爪竿ヲ持ツ

「ヂッピンググラグエンドミズン」ニ在リテハ逐次左ノ號令ヲ下ス

- 一 「艇首構ヘ」

- 二 「防舷物出セ」

- 三 「フオースル卸セ」

- 四 「ブーム揚ケ」

帆走ヨリ橈漕ニ移ルトキハ右ニ準シ絞帆ス

### 第三百三十七 「帆走用意元へ」

此ノ號令ハ絞帆シアルトキ下スモノニシテ各艇員ハ第三百三十二ニ準シ諸帆ヲ橈ヨリ取外シ之ヲ覆内ニ收メ橈ノ諸索具ハ維持索ノ外之ヲ橈ニ捲キ附ケ「橈倒セ」マストダホノ號令ニテ維持索ニ依リテ之ヲ倒シ更ニ維持索ヲ橈ニ捲キ艇内ヲ整頓ス

〔註〕 浪高キトキハ維持索ヲ前後ニ分チテ之ヲ張り合ハシ又「デブ張揚索」ヲ艇首ニ取リテ橈ヲ支持シ徐々ニ之ヲ倒スモノトス

### 第三百三十八 脚蹻

帆走中暫時艇ノ前進ヲ停メントスルトキハ逐次左ノ號令ヲ下シ下手舵ヲ取リ「デブ」ヲ風上ニ張り出シ「フオースル」ヲ絞リ「ミズンブーム」ヲ

中央ニ爲ス

一 「脚蹻用意」

二 「デブ風上」

三 「フオースル絞レ」

四 「ブーム中央」

斯ノ如クスルトキハ舵ト「ミズン」ノ作用ニ依リ艇首風向ニ立ツニ至リ「デブ」ハ逆ニ風上ヨリ壓セラルルカ故ニ再ヒ艇首風下ニ落チ漸ク後進ヲ始ム然ルニ逆舵ナル爲尙艇尾ハ風上ニ轉シ「ミズン」ニ風ヲ含ミテ漸ク前進シ艇首ヲ風上ニ致ス斯クシテ一進一退殆ト一定ノ位置ニ停止ス脚蹻ヨリ前進ニ復スルニハ逐次左ノ號令ヲ下シ舵及「ミズン」ヲ舊ニ復シ「フオースル」ヲ掛ク

- 一 「デブ元へ」「ブーム元へ」
- 二 「フォースル掛ケ」

「デッピングラグエンドミズン」ニ在リテ踞スルニハ「フォースル」ヲ「デッピングマーク」迄卸シ「アフターヤードーム」ヲ下方ニシテ殆シト櫓ト竝行セシメ帆ノ垂ミヲ風下ニ把持シ又櫓ニ近キ帆ノ「フート」ヲ風上舷ニ張り出ス等上手廻ノトキノ如ク行ヒ其ノ他ハ「スタンデンダラグデブエンーミズン」ノ場合ニ同シ之ニ要スル號令左ノ如シ

- 一 「踞用注意」
  - 二 「フォースル半ハ卸セ」
  - 三 「デブ風上」「ブーム中央」
- 之ニ復スルニハ左ノ號令ヲ下ス

- 一 「デブ元へ」「ブーム元へ」
- 二 「フォースル掛ケ」

### 第三百三十九 縮帆

縮帆ヲ行フニハ逐次左ノ號令ヲ下ス

(イ) 普通強風ノ場合

- 一 「フォースル一段縮メ方」
- 二 「フォースル卸セ」

(三)、(四)ハ張揚索ヲ守リ(五)、(六)、(七)、(八)ト共ニ「フォースル」ヲ卸シ(五)、(六)ハ「テツキ」ヲ(九)、(十)ハ「シート」ヲ附替ヘ此等各艇員ハ共ニ帆ノ「フート」ヲ折疊ミ縮紐ヲ結ヒテ一段縮メニ爲ス

艇員熟練スルトキハ「フォースル」ヲ半ハ卸シテ縮帆ヲ行フコトヲ得ヘ

シ

三 「フオースル揚ケ」

(三)、(四)、(五)、(六)ト共ニ「フオースル」ヲ揚ク

(ロ) 風力一層強キ場合

一 「フオースル二段縮メ方」

二 「フオースル卸セ」

一段縮メノ時ニ準シ二段縮メヲ爲ス

三 「フオースル揚ケ」

四 「デブ、ミズン縮メ方」

五 「デブ、ミズン卸セ」

(一)、(二)ハ「デブ」ヲ(九)、(十)、(十一)、(十二)ハ「ミズン」ヲ卸シ之ヲ縮ム

六 「デブ、ミズン揚ケ」

〔註〕「フオースル」ヲ縮帆スルニ當リ初メ其ノ「シート」ヲ伸ハシテ風ヲ洩ラシ下手舵ヲ取り裏帆ヲ打タシメサル限り艇首ヲ風向ニ近寄ラシムルトキハ帆ヲ下スコト容易ナリ然レトモ縮帆ヲ行フ場合ニハ風強ク浪高キモノナルカ故ニ艇首ヲ過度ニ風向ニ近寄セ爲ニ全ク駛力ヲ失フニ至ラハ艇體ノ動搖甚シク波浪ハ一層浸入シ諸帆ノ飄動烈シク作業困難ナルヲ以テ過度ニ風向ニ近寄スルコトヲ避ケ且諸帆ハ逐次之ヲ縮帆シ駛力ヲ保ツコトニ努ムルヲ要ス

「デッピングラグエンドミズン」ニ在リテハ縮帆ヲ爲スニハ逐次左ノ號令ヲ下シ第百三十四及右ニ準シテ行フ

一 「フオースル一段(二段)縮メ方」



- 二 「フオースル卸セ」
- 三 「フオースル揚ケ」
- 四 「ミズン縮メ方」
- 五 「ミズン卸セ」
- 六 「ミズン揚ケ」

艇側又ハ棧橋ヨリ發程スルトキ已ニ風力強キヲ認めハ最初ヨリ縮帆シテ展帆スルモノトス

極度ニ縮帆スルモ尙風力艇體ト釣合ハサルトキハ檣ヲ倒シ撓漕法ニ依ルモノトス

### 第四百十 伸帆

縮帆シタル帆ヲ伸スニハ逐次左ノ號令ヲ下シ第三百二十九ニ準シテ行フ

- 一 「フオースル伸シ方」〔「フオースル一段伸シ方」〕
  - 二 「フオースル卸セ」
  - 三 「フオースル揚ケ」
  - 四 「<sup>ゲ</sup>チブ、ミズン伸シ方」
  - 五 「チブ、ミズン卸セ」
  - 六 「<sup>ゲ</sup>チブ、ミズン揚ケ」
- 一 「<sup>ゲ</sup>ツッピングラグエンドミズン」ニ在リテハ逐次左ノ號令ヲ下シテ行フ
- 一 「フオースル伸シ方」〔「フオースル一段伸シ方」〕
  - 二 「フオースル卸セ」
  - 三 「フオースル揚ケ」
  - 四 「ミズン伸シ方」

五 「ミズン卸セ」

六 「ミズン揚ケ」

第五章 機走法

一 要則

第四百十一 機動艇ハ成ルヘク煤煙ヲ出スコトナク汽壓ヲ保持スルコト

ニ注意スヘシ殊ニ舷梯又ハ棧橋等ニ達著中ニ於テ然リトス

第四百十二 機械ハ其ノ操縦意ノ如クナラサル場合ナキニ非ラサルヲ以

テ機動艇達著ニ際シテハ過度ノ速力ヲ保タシムヘカラス

第四百十三 夜間又ハ霧中航行中ハ殊ニ見張ヲ嚴ニシ又航海諸燈ニ注意

シ汽笛ハ使用ニ支障ナカラシムヘシ

第四百十四 右(左)廻推進器ヲ備フル機動艇ハ前進當初艇尾ヲ右(左)方

ニ又後進當初艇尾ヲ左(右)方ニ倚ラシムル傾向(此ノ傾向ハ後進ノ場

合特ニ著シ)アルヲ以テ操縦ニ際シ之ヲ顧慮スルヲ要ス

第四百十五 機動艇又ハ標的等ヲ曳航スル場合ニハ過度ノ速力ヲ使用セ

サルヲ要ス

第四百十六 機動艇高速力ニテ駛走中ハ急ニ一杯ニ操舵スルヲ避ケサル

ヘカラス殊ニ多數ノ人員又ハ重量物ヲ搭載セルトキハ一層ノ注意ヲ要ス

第四百十七 機動艇航行中ハ海藻、土砂、海月等ヲ復水器吸水口ニ入ラ

サル如ク注意スヘシ

第四百十八 機動艇潮ノ干満差甚シキ海面ニ在リテハ萬一坐洲ノ際其ノ

傾斜ヲ防ク爲支柱トナルヘキ圓材若干及之ニ要スル錘量ヲ準備シ置ク

ヲ可トス

二 號令

第四百四十九 各種機動艇ヲ通シテ特ニ用フル號令及之ヲ下スヘキ時機左

ノ如シ

「前進微速」〔原速〕

「停止」

「後進」

各所要ニ應シ機械ノ前進後進停止ヲ行ハントスルトキニ下スモノトス  
〔註〕 機動艇航行中機械ノ發停ヲ掌ル者ハ如何ナル場合ト雖モ號令ニ  
速應シ得ル準備アルヲ要ス

三 操法

第五百十 本操法ハ水兵員艇員四名ヲ有スル機動艇ニ就キ規定ス其ノ他

ノ機動艇ニ在リテハ之ヲ準スルモノトス

第五百十一 「集」

艇員ハ其ノ機動艇ノ附近(所定ノ場所)ニ於テ之ニ面シ(一)ヲ先頭トシ艇  
員番號順序ニ單列シ(長)ハ(一)ノ右ニ列ス機關員艇員ハ(一)ノ背後ニ於テ之  
ヲ先頭トシ先任順序ニ別ニ整列ス

第五百十二 「乘艇」

甲板上ニ於テ艇首ニ面シ(長)ハ操舵位置ニ(一)、(二)ハ艇首兩側ニ(三)ハ機械  
室側ニ起立シ姿勢ヲ正ス機關員ハ各受持位置ニ就ク

第五百十三 「艇首離セ」

艇首員ハ橈漕法ニ準シ動作シ艇尾員ハ艇尾ヲ押離シ防舷物ヲ取入ル機  
關員ハ機械發停ノ準備ヲナス

【第一百五十四 「前進微速(原速)」】「後進」

艇首員艇尾員ハ乗艇位置ニ就キ機關員ハ焚火及機械操縦ニ従事ス

第一百五十五 「艇首構へ」

艇首員ハ爪竿ヲ取り櫓漕法ニ準シテ動作シ艇尾員ハ適當ノ時機ニ防舷

物ヲ出ス

第一百五十六 「停止」

機械ヲ停止ス

第一百五十七 第一百五十三、第一百五十四、第一百五十六ハ左記ニ依リ呼鐘又

ハ號笛信號ヲ以テ之ヲ令スルコトヲ得此ノ場合ニハ「艇首構へ」ノ號令

ハ之ヲ省キ短艇達著前「前進微速」ノ信號ニ依リ所要ノ動作ヲ行フモノ

トス

	呼鐘	呼子笛
艇首離セ	一點鐘	短一聲
前進微速	二點鐘	短二聲
前進原速	三點鐘	短三聲
停止	一點鐘	短一聲
後進	四點鐘以上	長一聲

## 第二篇 短艇整理法

### 第一章 通則

第一百五十八 本整理法ハ短艇ノ整頓及諸種ノ用途ニ應スル短艇處理等ニ關シ一般ニ遵守スヘキ事項ヲ規定ス

**第一百五十九** 本整理法ニ規定スル事項ハ一般ニ準據スヘキ法則ヲ指示スルニ過キス故ニ實施者ハ本整理法ニ通曉シ其ノ主旨ヲ體シ時ト場合ニ應シ適宜之ヲ活用スルヲ要ス

## 第二章 短艇ノ整頓

**第一百六十** 橈艇ハ左記諸號ニ依リ整頓スルモノトス

- 一 橈ハ雙座艇ニ在リテハ水搔ヲ平ニシ握ヲ艇尾ニ向ケ舳用ノモノハ舳側舳用ノモノハ舳側ニ於テ各艇尾員ノモノヲ舳側ニシ他ノ橈ヲ番號順序ニ内方ニ竝ヘ握ハ最後艇座上ニ其ノ後縁ト一線ニ揃ヘ水搔ハ外側ノモノヲ下ニ順次半ハ重ネ艇座上ニ竝置ス但シ艇首員ノモノハ艇ノ中央ニ於テ其ノ握ヲ艇首ニ向ケ最前ノ艇座ト第二艇座トノ中間ニ揃ヘ置ク

單座艇ニ在リテハ握ヲ艇首ニ向ケ艇座ノ中央ニ置キ水搔ノ端ヲ最後艇座ノ後縁ト一線ニ揃ヘ艇首及艇尾員ノモノヲ外方ニ置ク

- 二 爪竿ハ雙座艇ニ在リテハ艇首員用ノモノハ爪ヲ艇首ニ向ケ各其橈ト揃ヘテ外方ニ置キ艇尾員用ノモノハ爪ヲ艇尾ニ向ケ中央ニ於テ艇座上ニ置キ最後艇座ノ後縁ト一線ニス

單座艇ニ在リテハ各其ノ橈ノ外方ニ之ヲ揃ヘ置クモノトス

〔註〕 爪竿ノ整頓ニ當リ爪ヲ艇座ニ鉤ケ其ノ移動ヲ防クヲ例トス

- 三 櫓ハ雙座艇ニ在リテハ艇内中央ニ於テ前櫓ヲ左ニ後櫓ヲ右ニシ前櫓ノ櫓頭ハ之ヲ艇尾ニ向ケ後櫓ハ之ニ反ス

單座艇ニ在リテハ櫓ヲ舳側ニ置クノ外前項ニ準ス

- 四 張揚索、上張索ハ櫓ニ添ヘ置キ維持索ヲ其ノ上ニ綾ニ掛ケ結止ス

諸帆ハ「ビーキ」ヲ後方ニシ收置スルモノニシテ雙座艇ニ在リテハ前帆ヲ結ニ後帆ヲ舷側ニ置キ單座艇ニ在リテハ常ニ中央ニ置クモノトス

五 帆ハ「ヤード」ニ取付ケタル儘捲キ各其ノ覆ニ收メ覆ノ口ヲ艇首ニ向ケ艇内兩側(單座艇ニ在リテハ中央)艇座上ニ置ク而シテ「ヂブ」ハ「フオースル」ト共ニ收メ絞索ハ帆ニ取付ケタル儘捲キタル帆ノ膝紐トシテ用フ「シート」「テッキ」ハ帆ヨリ脫離シ其ノ帆ト共ニ捲收スルヲ例トス

六 「ボムキン」及「ブーム」ハ其ノ附屬スル檣ト竝置スルモノトス

七 天幕ハ覆ニ收納シ後帆ト共ニ置ク

八 錨、錨鎖(錨索ハ錨縮トシ)ハ艇首座ノ下ニ置ク

九 舫索ハ艇首座上ニ大小相竝へ(舫搭載艇ナレハ大索ヲ結ニ小索ヲ

舷ニ舫搭載艇ハ之ニ反ス)飾縮ス

十 道板ハ棧ヲ上ニシ艇ノ中央ニ於テ艇座上ニ置キ其ノ切缺アル端ヲ

最後艇座ノ後縁ト一線ニス

十一 水樽ハ之ヲ其ノ臺ニ載セ中央艇座附近ノ底板上ニ置ク

十二 短艇羅針儀ハ艇尾座ノ下又ハ背板ノ後部ニ置ク

十三 釣瓶及垢釣ハ艇尾座下ニ收納ス

十四 艇具囊ハ艇尾座下ニ置ク

十五 各旗竿ハ艇座ノ中央ニ置ク

十六 背板ハ艇ノ中央底板上ニ置ク

十七 天幕柱又架ハ底板上ニ於テ水樽ノ兩側ニ置ク

十八 帆走用舵柄ハ兩艇尾腰掛ノ間ニ置ク

十九 吊索ハ艇首座及艇尾床ノ下ニ收ム

二十 豫備橈ヲ搭載スルトキハ艇内舷側ニ接シテ置ク

第二百六十一 櫓艇ハ左ノ諸號ニ依リ整頓スルモノトス

一 櫓ハ入レ子ヲ下ニ櫓下ヲ後方ニシ艦櫓ハ中ニ脇櫓ハ舷用ノモノハ舷、舷用ノモノハ舷ニ在ル如ク艇ノ中央ニ於テ横梁ノ上ニ置ク而シテ橈腕ト櫓下ノ接合部鉸ノ所ヲ第二横梁ノ上ニ在ラシムルモノトス

二 爪竿ハ長キモノハ爪ヲ前方ニ向ケ短キモノハ爪ヲ後方ニ向ケ共ニ艇ノ中央ニ置ク

三 舵及舵柄ハ艇尾板子ノ下ニ置ク、錨索ハ艇首板子ノ上ニ置ク

四 早緒ハ各其ノ位置ニ於テ板子ノ上ニ置ク

五 旗竿ハ艇ノ中央ニ置ク

第二百六十二 機動艇ハ左ノ諸號ニ依リ整頓スルモノトス

一 錨、錨鎖、艇覆(雨天用)航海燈、庫燈、甲板要具、金物磨要具、釣瓶、天幕及天幕柱ハ前部ニ收納ス

二 艇具囊、短艇羅針儀、手旗及時計ハ後部ニ定置ス

三 水樽ハ艇ノ大小ニ依リ前部又ハ後部ニ備フ

四 救命浮標ハ艇ノ上部外見上支障ナキ適宜ノ場所ニ備フ

五 舳索ハ前部ニ於テ大ハ舳小ハ舷ニ飾結ス

六 爪竿ハ爪ヲ前方ニシ煙突ノ兩側ニ備フ

七 旗竿ハ爪竿ニ準ス

八 防舷物ハ必要ニ應シ移動シ得ル如クシ通例艇ノ前後兩舷ニ備フ

九 右ノ外艇具ニシテ收納定位置アルモノハ其ノ位置ニ收ム

### 第三章 諸種ノ用途ニ應スル短艇處理法

第六十三 短艇ヲ溺者救助用ニ充當セムトスルトキハ左記諸號ニ依リ

處理スルモノトス

一 救助艇ハ成ルヘク兩舷ニ一隻宛準備シ「カッター」ヲ以テ之ニ充ツルヲ例トス

二 救助艇ハ成ルヘク前艦橋ニ近キモノヲ準備スルヲ可トス

三 救助艇ハ「ダビット」ニ高ク舷外ニ釣上ケ「ローリングスバー」又ハ「ゼツキステア」ヲ裝シ繫止帶ヲ以テ之ヲ緊締ス

四 繫止帶ハ其ノ一端ヲ各「ダビット」ヘツドニ結止シ艇底中央ニテ交叉スル如ク前後ニ掛ケ下端ノ索ヲ「ダビット」ニ在ル「スリッブ」ニ通

シ「ヂツガー」ヲ以テ之ヲ引締メ結止ス

五 「スリッブ」用トシテ小錠ヲ其ノ附近ニ備ヘ置クモノトス

六 「ダビット」中張索ニハ四條以上ノ救助艇命索ヲ取附クルモノトス

七 命索及救助艇命索ノ餘端ハ艇内ニ縮ネ置クモノトス

八 救助艇ニハ艦ノ前部ヨリ「ボートロープ」ヲ其ノ内側第一橈座ヨリ艇内ニ導キ第二艇座ニ足掛又ハ掛外栓ヲ以テ留ムルモノトス

九 「ボートロープ」ハ成ルヘク本艦ノ前方ヨリ外舷諸突出物ノ下方ヲ導キ適宜張リ合シ救助艇水面ニ降下セシトキ適宜ニ緊張スル如ク爲スヘシ

十 「ダビット」ノ中張索ヨリ二個以上ノ索梯ヲ掛ケ又ハ幅廣キ網ヲ



舷側ノ高サニ掛ケ下方ハ適宜本艦内ニ結止シ艇員急速乘退艇ニ供ス

十一 短艇索ノ餘端ハ必ス甲板上ニ8字縮シ走出ニ支障ナカラシムルモノトス

十二 艇内ハ左ノ如ク裝備スルモノトス

イ 椅座栓ヲ脱シ内側ノ防舷物ヲ出タス

ロ 栓ヲ挿入ス

ハ 舵柄ハ内方ニ取り假ニ結止ス

ニ 櫓桁及帆走具ハ艦内ニ取入ル

ホ 氷樽ニハ飲料米ヲ充滿ス

ヘ 現定ノ要具ヲ搭載ス

## 第百六十四 救助艇取扱上留意スヘキ要件左ノ如シ

一 艇ヲ降下シタルトキハ艦速全ク停止セサルコト多キヲ以テ短艇指

揮ハ「ポートロープ」ヲ放ツ時機ニ就キ慎重ニ注意スヘシ

二 救助艇ノ出發ハ迅速ヲ要スルヲ以テ前橈手後橈手ハ短艇索離脱ノ後ハ其ノ儘ニ爲シ置クヲ例トス

三 短艇索ヲ離脱スルニハ必ス後部ヲ先ニスヘキモノトス

四 艇長ハ艇降下ノ後艦速ヲ利用シ艇ヲ外方ニ轉スル如ク適宜操舵スヘシ

五 救助艇溺者ニ近ツカハ爪竿又ハ救命浮標等ニ依リ救助スルヲ便トスルコトアリ

六 溺者ヲ救助セハ其ノ容體ニ應シ適宜毛布ニテ包ミ救急法ヲ施スヘ

シ

第六十五 短艇其ノ所屬ヲ離レテ遠ク航海スルニ當リテハ其ノ任務ノ種類、日數、航路及目的等ノ狀況ニ應シ適當ニ之カ準備ヲ爲スヘキモノトス而シテ各場合ヲ通シ概ネ準據スヘキ標準左ノ如シ

一 遠航ニ先チ左記諸號ノ検査手入又ハ調査ヲ行フ

イ 汽機汽罐

ロ 舵 機

ハ 錨及錨鎖(錨索)

ニ 艇體、艇具及其他ノ諸要具

ホ 炭水消費額

ヘ 吃 水

- 二 機動艇ニハ炭水ヲ滿載シ要スレハ石炭ハ袋積トシテ餘分ニ搭載ス
- 三 遠航數日ニ互ルトキハ季節ニ應シ乗員ノ著替ヲ準備ス
- 四 信號員、看護員及主計員ハ必要ニ應シ乘艇ス
- 五 左記物件ヲ搭載ス

品 目	機 動 艇	「ランチャ」「ピンネース」	「カッター」
短艇羅針儀	一	一	一
時計	一	一	一
糧 食	所要日數ニ一日分ヲ加ヘタルモノ	同	同
火 酒	二	四	三
飲 料	水 適 宜	同	同
		上	上

品目	機動艇	「ランチ」「ベン ネース」	「カッター」
食器	必要數	同	同
寢具	乗員ニ對スル一式	同	同
天幕	一 式	同	同
艇覆	一 式	同	同
燈具	航海燈、球形燈、 提燈	球形燈、提燈	同
携帶藥囊	一 個	同	同
帆走具	必要ノ數	同	一 式
海圖	同	同	同
海圖使用具	一 式	同	同
小銃 (彈藥共)	乗員ノ約四分ノ一	同	同

信 號 橋	信 號 器 具	炊 具	備 考
信號旗 一式	信號燈 一式 手旗 一組 傳聲器 一箇	一式 (必要ニ依リ)	一、糧食ハ生糧品ヲ供給スル場合ニ在リテモ乾麵粥及罐詰一日分搭載スルモノト 二、海圖及海圖使用具ハ時宜ニ依リ先任艇ノミニ備フルモノトス 三、適宜ノ吸水管ヲ準備スルヲ可トス
	手旗 一組 傳聲器 一箇 時宜ニ依リ發光信號燈 一箇		
	同		
	上		

第百六十六 短艇ヲ重量物其ノ他ノ運搬用ニ供セントスルトキハ一般ニ

左記諸號ニ依リ處理スルモノトス

- 一 短艇要具中不用物件ヲ艦内ニ取入ルヘシ
- 二 橈漕用トシテ少クトモ二本ノ橈ヲ殘シ置クヘシ

三 艇内ノ汚水ヲ排除スルニ足ル餘積ヲ存シ置クヘシ  
四 艇ノ釣合ヲシテ前後左右偏重ナラシメヌ又特ニ艇首ヲシテ過重ナラシメサルヲ要ス

五 重量物ヲ積載シタル場合ニ於ケル艇ノ吃水ハ風浪ヲ顧慮シ「カッター」ニ在リテハ少クトモ防舷帶以下ノ外板二枚以上ヲ露出シ置クヲ要ス「ランチ」「ピンネース」ニ在リテモ亦之ニ準ス

六 艇ヲ操縦スルニ差支ヘナキ丈ケノ餘地ヲ存シ置クヘシ

第百六十七 短艇重量物ヲ運搬セムトスルトキハ第百六十六ニ據ルノ外

尙特ニ左記諸號ニ依リ處理スルモノトス

一 濕氣及日光ノ直射ヲ忌ム物件ヲ被覆スル爲帆布類ヲ準備スヘシ  
二 搭載物件ノ移動ヲ防止スル爲固縛用ノ索具ヲ準備スヘシ

三 舳索ハ搭載物件ノ下ニナラサル様豫メ準備スヘシ

四 貨幣其他貴重品ヲ搭載スル場合ニハ之ヲ收ムル爲網又ハ袋竝之ニ

附スル爲ノ浮標及索條ヲ用意スヘシ

五 重量物ヲ安置スル底板上ニハ敷板ヲ設置スヘシ

六 必要ニ應シ艇尾「ダビット」ヲ裝備スヘシ

七 必要ニ應シ「スチャリングオール」ヲ裝備スヘシ

八 必要ニ應シ艇ノ浮泛力ヲ増ス爲水樽等ヲ艇ノ外部ニ裝著スヘシ

第百六十八 短艇人員ヲ運搬セントスルトキハ第百六十六ニ準スルノ外

尙特ニ左記諸號ニ依リ處理スルモノトス

一 使用シ得ル限り多數ノ橈ヲ準備シ各橈ニハ橈索ヲ附シ置クヘシ

二 必要ニ應ジ救命浮標ヲ搭載シ置クヘシ

第六十九 短艇人員ヲ運搬スルニ際シ留意スヘキ要件左ノ如シ

一 人員運搬中乗艇者ノ動作ヲ靜肅ナラシメ艇内ニテ妄ニ起立又ハ移動セシムヘカラス櫓艇ニ在リテ殊ニ然リトス

二 乗艇退艇ハ最靜肅ニ行ヒ決シテ一時ニ多數乗退艇セシメサルヲ要ス

三 人員ヲ乗艇セシムルニハ艇尾(時宜ニ依リ艇首)ヨリシ艇首(時宜ニ依リ艇尾)ヨリ順次艇(時宜ニ依リ艙)ニ著座セシメ決シテ初ヨリ中央ニ著座セシムヘカラス退艇ノ際亦之ニ準ス

四 乗退艇ニ際シテハ上縁又ハ櫓等ノ諸要具ヲ踏マシムヘカラス殊ニ水搔ヲ踏ムハ嚴禁トス

五 縁板ニ腰ヲ掛ケ又ハ腕ヲ出タスハ嚴禁トス

第七十 短艇清水ヲ運搬セムトスルトキハ第六十六ニ據ルノ外尙特ニ左記諸號ニ依リ處理スヘシ

一 短艇使用前汚水浸入ノ有無ヲ檢シ栓ヲ堅ク挿入スヘシ

二 豫メ艇内ヲ清水ニテ洗滌スヘシ

三 艇員ハ手足ヲ清水ニテ洗ヒ清メ必ス跣足タルヘシ

四 飲料水搭載ニ際シテハ飲料水ヲ入ルル爲清淨ナル帆布類ヲ準備スヘシ

五 海水ノ飛沫ヲ防ク爲時宜ニ依リ艇首等ニ防波幕ヲ裝備スヘシ

第七十一 短艇清水ヲ搭載スルトキハ動搖ニ依リ艇ヲ傾斜セシメ易キヲ以テ風波、曳船ノ速力及轉舵等ヲ顧慮シ過量ナラサル如ク搭載スル

モノトス

### 第七十二 短艇綱索ヲ運搬セムトスルトキハ第六十六ニ據ルノ外尙

特ニ左記諸號ニ依リ處理スヘシ

- 一 綱索ヲ濕潤セシメサル爲豫メ相當ノ設備ヲ爲スヘシ
- 二 大ナル綱索ヲ<sup>載</sup>搭シ橈漕不可能ナル場合ニハ被曳準備ヲ爲スヘシ
- 三 三吋以上ノ鋼線綱ヲ搭載スルトキハ「鎖ストツバー」二個ヲ艇尾ニ準備スヘシ

### 第七十三 短艇綱索ヲ運搬スルニ際シ留意スヘキ要件左ノ如シ

- 一 綱索ヲ短艇ニ搭載スルニハ濕潤セシメサル如ク注意スヘシ
- 二 綱索ヲ短艇ニ搭載スルニ當リテハ運搬後之ヲ<sup>振出</sup>振出タス際「キンク」ヲ生セサル如ク豫メ注意シテ縮回スヘシ又初ニ繰出タスヘキ索端ハ

之ヲ下ニシテ縮回スヘカラス

- 三 五吋以上ノ大索ハ艇ノ内舷側ニ接シ大キク艇座上ニ縮回シ其ノ以下ハ艇座ノ中央ニ細長ク縮回スルモノトス

四 艇首座及艇尾座ニハ成ルヘク綱索ヲ縮回シ置カサルモノトス

五 綱索搭載ニ當リテハ艇員ノ著座ニ支障ナク縮回スヘシ

六 綱索ヲ搭載シタルトキハ必ス迎索ヲ搭載スヘシ

七 大ナル綱索ヲ艇内ニ縮回搭載シタルトキハ橈漕不可能ナルヲ以テ曳航セシムル例トス

八 三吋以上ノ綱線綱ヲ搭載シタルトキハ五吋以上ノ大索ト同様ニ縮

回シ繰出ノ際其ノ速度ヲ緩和セシムル爲前部艇座ニ各縮回毎ニ結止シ又「鎖ストツバー」二個ヲ何時ニテモ使用シ得ル如ク後部ニ準備ス

ヘシ

九 四吋半以上ノ鋼線綱ヲ搭載スルニハ「ランチ」又ハ「ピンネース」ヲ使用スルヲ例トス

十 「ランチ」又ハ「ピンネース」ニ絡車座ノ設ケアルトキハ鋼線綱ハ其ノ絡車ニ縮回ノ儘之ヲ搭載スルモノトス

十一 艇内ニ搭載シタル鋼線綱ノ一端ヲ繰出シツツ運搬スルニ當リテハ各縮回毎ニ施セル結止ヲ順次切斷シ「鎖ストツパー」ニ依リ其跳出ヲ防クモノトス

十二 繫留索又ハ迎索等ヲ艦ヨリ繰出シ運搬スルニ當リテハ左ノ諸號ニ依ルヲ便トス

イ 風潮ナキ水面ニ於テハ索ノ過半ヲ艇尾床上ニ縮回シ繫止ニ要ス

ル長サヲ存シテ艇首ニ結止シ置キ艦内ニ在ル索ノ殘餘ハ艇ノ行進スルニ伴ヒ艦内ヨリ繰出シ尙ホ目的位置ニ到達スルニ差支ナキ量ヲ見計ヒ之ヲ止メ爾後艇内ノ索ヲ繰出シナカラ目的位置ニ至ルハシロ 風潮順ニ綱索ヲ繰出シ運搬スルトキハ短艇内ニハ少シク縮ネ置キ餘ハ艦内ヨリ繰出スヘシ

ハ 逆潮又ハ風上ニ綱索ヲ運搬スルニハ全部短艇内ニ縮ネ置キ所要ノ位置ニ至リ之ヲ繫止シタル後繰出シツツ本艦ニ歸航スルモノトス

ニ 急流ニ於テハ必スニ隻ノ短艇ヲ使用シ内一隻ハ綱索ノ約中央ヲ艇内ニ保持シ中間ニ在リテハ其ノ壓流サルルヲ防キ他ノ一隻ハ綱索ノ端ヲ保持シ目的地ニ至ルモノトス

第七十四 短艇ヲ曳船被曳船ニ準備スルニハ左記諸號ニ依ルモノトス

一 必要ニ應シ曳船用索具ヲ準備スヘシ

二 被曳船ハ成ルヘク艇首ヲ輕クシ艇首ニ受クル波浪ノ障害ヲ減少セ

シムルニ留意スヘシ

第七十五 短艇曳航又ハ被曳航ニ際シ留意スヘキ要件左ノ如シ

一 短艇ノ曳索ハ載貨輕ク海上靜穩ナルトキニ非サレハ艇首艇尾ノ輪環ニ直接縛著スヘカラス二隻以上ノ連繫曳船ニ於テ殊ニ然リトス

二 數隻ノ短艇ヲ曳航スルトキ前部ノ舳索ハ直ニ之ヲ舷外ニ出タスコトナク艇首座ト其ノ次ナル艇座トノ間ニ於テ兩座ノ下面中央ニ縦置スル足掛又ハ適宜ノ材ニ一回廻ハシ艇首座ノ上ヨリ之ヲ前方舷外ニ

出タス其ノ舳索ノ端ニハ豫メ舳結ヲ設ケ置キ之ヲ前被曳艇ニ渡ス被曳艇ハ之ヲ艇尾ヨリ引入レ後部二個ノ艇座間ヲ下方ヨリ上方ニ出タシ其ノ舳索ニ足掛等適宜ノ材ヲ挿入シ<sup>拵</sup>脱栓ノ用ヲ爲サシメ之ヲ兩艇座上面中央ニ縦置スルヲ可トス

三 機動艇又ハ艦船ニテ長距離間數隻ノ短艇ヲ曳航セムトスルニ當リ艦艇尾ヨリ曳索トシテ一條ノ綱索ヲ出シタルトキハ被曳艇ニ在リテハ各艇適宜ノ間隔ヲ取り艇首ニ於テハ舳索ヲ以テ艇尾ニ於テハ輪環ニ取付ケタル一索條ヲ以テ曳索ニ枝結ニテ縛著シ被曳航ニ備フルモノトス而シテ最モ重キ短艇ハ曳船ニ近ク順次輕小ナルモノヲ遠カラシムルヲ例トス

四 機動艇又ハ艦船ニテ一短艇ヲ長距離間曳航スル必要アルトキハ艇



體ヲ周繞スル大ナル環索ヲ作り艇首ニ於テ心環ヲ嵌ムルカ又ハ環接ヲ作り之ニ曳索端ヲ縛著セハ拉張ヲ艇體ノ一部ニ及ホスノ害ナシ

五 機動艇ハ概ネ其艇首艇尾ニ曳索捲留用「クリート」ヲ裝備スト雖若シ其ノ脆弱ナル虞アルトキハ曳索ヲ吊索ニ縛著スヘシ

六 曳索ハ平穩ナル海面ニ於テハ短キヲ可トスルモ波浪高キトキハ相當長キヲ要ス

七 短艇ヲ曳艇メ側方ニ横付ケシテ曳航スルトキハ曳索ハ被曳艇ノ内側艇首橈座ヨリ導キ被曳艇ノ艇首ヲ曳艇ノ艇首ヨリ稍々離レシムルヲ可トス

八 横付曳航ノ際曳艇ハ被曳艇ニ對シ稍々後方ニ位置スルヲ可トス

九 曳航中被曳艇ハ曳艇ノ艇尾左右ニ偏出スルコトナク又針路ヲ變ス

ルトキハ前艇ニ倣ヒテ旋回ス但シ前艇艇尾ノ少シク外側方ニ向首スル如ク操縦セハ前艇ヲシテ其ノ回頭ヲ容易ナラシムルノ利アリ

十 曳航中被曳艇橈艇ナルトキハ狀況ノ許ス限り成ルヘク橈漕スルヲ可トス

十一 曳艇機動艇ナルトキハ被曳艇ニ在リテハ特ニ艇首ヲ輕クシ推進器ニ依ツテ生スル波浪ヲ超過シ易カラシムルヲ要ス

## 第三篇 短艇指揮及艇員心得

### 第一章 通則

第七百七十六 本心得ハ短艇指揮及艇員カ各自其ノ職責ヲ遂行スル爲心得ヘキ必要ナル事項ヲ規定ス

第七十七 本心得ハ本教範並艦船職員服務規程等ノ規定ト相俟テ其ノ效用ヲ完フスルモノトス

## 第二章 短艇指揮心得

第七十八 短艇指揮ハ本教範ニ規定スル各項ニ通曉シ又短艇ニ關スル諸法令ヲ熟知シ短艇ノ操縦並整理ニ熟達スルニ努メ且艇員ノ教育指導ニ任スルモノトス

第七十九 短艇指揮ハ手旗及發光信號ニ精通シ又艇員ヲシテ手旗信號ニ熟達セシムヘシ

第八十 短艇指揮ハ艇員名簿ヲ所持シ艇員ノ性質技能勤怠及現狀ヲ知了シ又其ノ等級技能ニ應シ艇員番號ヲ定ムヘシ

第八十一 短艇指揮ハ受持短艇ノ性能ヲ熟知シ橈漕帆走又ハ機走ニ於

ケル性癖ヲ研究シ又保存手入及其ノ要具ノ整頓ヲ擔任シ若シ缺損ノ事  
物ヲ發見セハ直ニ其ノ補修充實ヲ圖リ常時實用ニ支障ナカラシムルヲ  
要ス

第八十二 短艇指揮ハ短艇ノ整頓保存手入等ニ關シ人員ヲ要スルトキ  
ハ短艇事業簿ニ記入シ所屬分隊長ニ提出スヘシ

第八十三 短艇指揮ハ受持短艇ニ搭載シ得ヘキ最大人員數、載貨又ハ  
清水量等ヲ豫メ調査知了スヘシ

第八十四 短艇指揮ハ起リ易キ故障ニ對シテハ豫メ艇員ヲシテ研究セ  
シメ其ノ故障ニ當リ迅速適當ノ處置ヲ爲スニ遺憾ナカラシムヘシ

第八十五 短艇指揮ハ機動艇機關ノ開放手入、船體及其ノ他ノ手入修  
理ニ際シテハ絶エス作業進捗ノ狀況ヲ知了シアルヲ要ス

第百八十六 短艇指揮ハ短艇ニ搭載スヘキ兵器ノ現状及使用ニ就キ充分考究シアルヲ要ス

第百八十七 短艇指揮ハ艇長及艇員ヲシテ短艇ニ搭載スル兵器其ノ他諸要具ノ使用法ニ熟達セシムルヲ要ス

第百八十八 短艇指揮ハ短艇羅針儀ノ状態ヲ詳知シ其ノ利用ニ習熟スルヲ要ス

第百八十九 短艇指揮ハ艇長ヲシテ艇體及要具ノ保存、補修整頓ニ關シ周到ニ注意セシメ且本教範ニ規定スル艇長心得諸號ノ勵行ヲ監督スヘシ

第百九十 艦外ニ派遣サルル短艇指揮ハ特ニ海軍禮式令海軍旗章令ノ外短艇ニ關スル諸規程ハ勿論以下諸項ヲ遵守スルヲ要ス

第百九十一 短艇指揮ハ外國領海ニ於テハ軍艦外務令ヲ遵守シ特ニ帝國ノ威嚴ヲ保ツコトニ留意スヘシ

第百九十二 短艇指揮ハ使用短艇用意ノ號令ヲ聞カハ率先艇員ヲ指揮督勵シテ艇ヲ準備シ迅速出發ニ支障ナカラシムヘシ

第百九十三 短艇指揮ハ短艇帆走中自ラ操舵スルヲ要ス

第百九十四 短艇指揮ハ短艇本艦ヲ離レタル後ハ短艇ニ關シ一切ノ責務ヲ有ス故ニ艇員ヲ指揮督勵シ事ニ當リ逡巡スルコトナク必要ニ應シ臨機果斷ノ處置ヲ爲スヘシ殊ニ荒天又ハ危險ニ瀕シタル等ノ場合ニ在リテハ適當ノ處置ヲ執ルニ躊躇スヘカラス

第百九十五 短艇指揮ハ乘艇中艇内ノ整頓及艇員監督ノ責ニ任シ事故發生セハ歸艦ノ後當直將校及副長ニ報告シ又短艇所屬分隊長ニ通告スヘシ

シ

第九十六

短艇指揮ハ海陸信號書、短艇隊運動規程及海上衝突豫防法

ニ通曉シ航行中ハ勿論碇泊又ハ繫留中ト雖監視見張ヲ嚴ニシ夜間揭示

スヘキ燈火ニ關シテハ特ニ注意スヘシ

第九十七

短艇指揮ハ乘艇ニ際シ双眼鏡ヲ携ヘ又要スレハ海陸信號書

ヲ携帶スルモノトス

第九十八

短艇指揮ハ任務ヲ受ケ本艦ヲ離ルルニ當リ必要ナル器具材

料ノ完備セルカヲ調査シ要スレハ當直將校ニ申告シ所要物件ヲ搭載ス

ヘシ

第九十九

短艇指揮任務ヲ受ケタルトキハ其ノ目的距離ノ遠近風向風

力潮流ノ方向強弱等ニ顧慮シ特令ナケレハ任務遂行ニ便ナル如ク橈漕

又ハ帆走ヲ選フヘシ

第二百

短艇指揮ハ入港前路誌、海圖等ニ依リ港灣ノ形勢、地方流潮干

満ノ差、上陸場ノ位置状態、航路ニ於ケル淺灘ノ有無、風浪ニ對スル避

難ノ場所、陸上官衙ノ所在及港則等ヲ研究シ尙陸岸ニ派遣セラレタル

トキ要スレハ達著時ヲ計測シ當直將校ニ報告スヘシ

第二百一

短艇指揮ハ艦長以上ノ諸官旗艦等ニ集合退艦ノ際ハ各官ノ先

任順序ヲ知了シ特ニ指令アルトキノ外其ノ順序ニ達著スルヲ例トス

第二百二

短艇指揮ハ他艦ニ差遣セラレ一時命ヲ待ツトキハ短艇ヲ舷梯

ヨリ離シ其ノ後方ニ於テ他艦ノ達著ニ妨ケトナラサル位置ニ漂泊シ呼

ハレタルトキハ直ニ舷梯ニ達著シ得ル如ク常ニ注意シアルヲ要ス又荒

天ニ際シ永ク漂泊スルコト困難ナルトキハ當該艦當直將校ノ許可ヲ得

テ艦又ハ繫船桁ニ繫留スルコトヲ得

第二百三 短艇指揮ハ其ノ出發及歸著ニ際シテハ之ヲ當直將校ニ報告ス

ヘシ

第二百四 短艇指揮ハ本艦ヲ離レタル後ハ常ニ本艦ノ信號通信ニ注意ス

ヘシ

第二百五 短艇指揮ハ運搬作業ニ際シテハ常ニ搭載物件ノ過重ナラサル

コト及釣合ニ注意スヘシ

第二百六 短艇指揮ハ夜間誰何ニ對シテハ必ス迅速明瞭ニ應答スヘシ

第二百七 短艇指揮ハ艇内ニ於ケル艇員及乗員ノ姿勢容儀ニ關シ特ニ左

ノ諸號ヲ嚴守セシムルヲ要ス

一 姿勢ハ端正ニシテ正シク自己ノ定位置ニ著座セシムルコト

二 儀式等ノ場合ニ於テハ特ニ外見ノ齊整ニ留意スルコト

三 恣ニ喫煙談笑セシメサルコト

四 縁板ニ腰ヲ掛ケ又ハ艇座ニ立タシメサルコト

五 濫ニ砲門、舷窓等ヨリ本艦乗員ト談笑セシメサルコト

第二百八 短艇指揮ハ常ニ艇内ニ於ケル艇員ノ服裝ニ注意シ特ニ左ノ諸

號ヲ嚴守セシムルヲ要ス

一 袴ノ裾ハ卷キ上ケシメサルコト

二 靴ハ必ス携帯セシムルコト

三 帽ハ必ス顎紐ヲ掛ケシムルコト

四 特令ナケレハ上衣帽ヲ脱セシメサルコト

五 腕ヲ捲クラシメサルコト

第二百九 短艇指揮ハ任務上艇ヲ離ルル場合ニハ艇長ニ必要ナル訓令ヲ與ヘ己ノ所在ヲ明ニ爲シ置クヘシ

第二百十 短艇指揮ハ艇内ニ於テ本教範ニ規定スル艇長心得諸號ノ勵行ヲ監督スヘシ

### 第三章 艇長心得

第二百十一 艇長ハ短艇指揮ノ命ヲ受ケ艇員ヲシテ一致協力セシメ其ノ艇ノ保存整頓及操舵(帆走中ハ此ノ限ニ在ラス)ニ任スヘシ

第二百十二 艇長ハ短艇指揮ノ任務ヲ輔佐スヘシ

第二百十三 艇長ハ短艇指揮乗艇セサルトキハ其ノ任務ヲ兼掌スルモノトス

第二百十四 艇長ハ短艇用意ヲ命セラレタルトキハ速ニ之カ準備ヲ爲ス

ハ  
ン

第二百十五 艇長ハ受持艇ノ整頓ニ關シ直接其ノ責ニ任スヘシ

第二百十六 艇長ハ其ノ屬スル「ダビット」ノ整備ニ注意シ若シ其ノ附屬具ニシテ不良ナルモノヲ發見セハ直ニ短艇指揮及當直將校ニ報告スヘシ

第二百十七 艇長ハ短艇「ダビット」ニ揚ケラレタル後ハ常ニ短艇索ノ處置適當ナルヤ又艇内ノ排水<sup>ハ</sup>完全ナルヤニ注意スヘシ

第二百十八 艇長ハ機動艇ニ在リテハ軍事點檢後ヨリ日沒迄ノ間ニ炭水ノ補充ヲ行ヒ置クヲ例トス

第二百十九 艇長ハ帆走中風下ヨリ接近スル艦船等ニ注意シ短艇指揮ヲ輔佐スルモノトス

第四章 艇員心得

一 當直艇員心得

第二百二十 當直艇員ハ當日ノ服裝ヲ著スルヲ例トス

第二百二十一 當直艇員ハ必ス靴ヲ穿チアルヘシ但シ教練中又ハ特令アルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 救助艇員心得

第二百二十二 救助艇員ハ常ニ急速命ニ應スルノ準備ヲ爲シアルモノトス

第二百二十三 救助艇員ハ航海中毎日午前日課手入前ニ救助艇内ヲ整頓

シ救令衫及搭載要具ヲ調査スヘシ

第二百二十四 救助艇員ハ日没ヨリ總員起床時迄救命衫ヲ着用スヘシ

第二百二十五 救助艇員ハ軍事點檢前短艇兵器筐ヲ艇ニ搭載シ總員起床

後之ヲ取込ムヘシ

第二百二十六 救助艇員ハ食事又ハ教練ノ外晝夜ヲ論セス上甲板ニ在ル

ヲ例トス

第二百二十七 救助艇員ハ當直交代ニ際シ必要事項ノ申繼ヲ爲スヘシ

第二百二十八 救助艇員ハ雨雪ノトキハ艇内ノ排水ニ注意スヘシ

三 守艇員心得

第二百二十九 守艇員ハ常ニ指定短艇内ニ在ルモノトス

第二百三十 守艇員ハ艇ノ保安ニ任シ其ノ繫維衝觸ニ注意シ又艇ノ威容

ヲ正シクスヘシ

第二百三十一 守艇員ハ艇内ノ整頓ニ任シ艇ヲ拭淨シ又金物ヲ手入スヘシ

シ而シテ艇内ニ汚水ヲ殘留セシムルヲ嚴禁トス

第二百三十二 守艇員ハ上官ノ通過スルトキ軍艦旗ヲ掲揚又ハ降下スルトキ、軍事點檢ノトキ等ニハ必ス所定ノ敬禮ヲ行フヘシ

第二百三十三 守艇員ハ其ノ短艇使用ノ令アルカ又ハ揚ケ方ノ令アルヲ知ラハ直ニ艇首ヲ索梯下ニ致シテ保持シ艇員ノ乘艇ヲ容易ナラシムヘシ

### 第四篇、諸規程

#### 一 短艇隊運動規程

第二百三十四 短艇隊ハ短艇二隻以上ヲ以テ編成ス

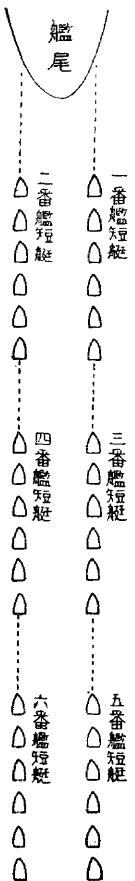
第二百三十五 單隊トハ一指揮官ノ直率スル短艇隊ヲ謂ヒ複隊トハ單隊

二隊以上ヨリ成ル短艇隊ヲ謂フ

第二百三十六 單隊ヲ指揮スル兵科將校ヲ短艇隊指揮ト謂ヒ其ノ乘艇ヲ指揮艇ト謂フ

第二百三十七 總短艇隊ヲ指揮スル兵科將校ヲ短艇隊司令ト謂ヒ其ノ乘艇ヲ司令艇ト謂フ

第二百三十八 短艇隊軍艦ニ集合スル場合ニハ左圖ノ順序ニ據ルモノトス





第二百三十九 短艇隊ノ區分ヲ行フニハ左ノ標準ニ據ルヲ例トス

二艦以上ノ短艇ヲ以テ短艇隊ヲ編成スル場合ニハ一艦ノ短艇ヲ以テ單隊ト爲スヲ例トシ各單隊ハ特別ノ事情ナキ限り所屬艦ノ艦船番號ト同一番號ヲ附シ一番隊、二番隊等ト稱ス單隊内ノ區分ハ短艇隊指揮之ヲ行フヲ例トス

第二百四十 短艇隊ノ常距離、常間隔ヲ定ムルコト左ノ如シ

常距離 三十米

常間隔 七十米

第二百四十一 短艇運動中機動艇ハ軍艦ニ準シ速力標ヲ使用スルヲ例トス

第二百四十二 短艇隊ノ運動ハ言令手旗(發光)信號又ハ規約信號ヲ以テ令シ之ヲ行フモノトス但シ方向變換、列向變換、一齊回頭及司令艇(指揮

艇)ノ通跡ヲ進ム運動ハ艦隊ノ運動ニ關スル規定ヲ準用スルコトヲ得

二 觀艇式規程

第二百四十三 觀艇式ノ目的ハ短艇ノ整備、艇員ノ軍規及訓練ノ程度ヲ查閱スルニ在リ

第二百四十四 觀艇式ヲ分チテ閱艇式竝列艇式ノ二トス

第二百四十五 閱艇式ハ艇員ノ軍規、短艇ノ整備ヲ查閱シ列艇式ハ訓練ノ程度ヲ查閱スルヲ主眼トス

第二百四十六 觀艇式指揮官ハ短艇隊司令(單隊ノミニテ成ル短艇隊ニ在リテハ短艇指揮)ヲ兼スルヲ例トス

第二百四十七 閱艇式ノ隊形ハ短艇隊運動規程第二百三十八ニ準シ列艇式發點附近ニ別圖第一ノ如ク繫留スルヲ例トス

第二百四十八 列艇式ノ隊形ハ單縱陣又ハ縱陣列トス

第二百四十九 觀艇式ニ於ケル短艇隊ノ運動ハ短艇隊運動規程ノ外本規程ニ據ル

第二百五十 指揮官ハ短艇隊ノ區分其ノ他必要ノ命令訓示ヲ終リタル後其ノ整備ヲ觀閱官ニ報告シ然ル後司令艇ニ在リテ先導ス

第二百五十一 觀閱官ハ整備ノ報ヲ得テ乘艇指揮官ノ先導ニ依リ短艇隊ヲ查閱ス

第二百五十二 短艇隊ニ在リテハ閱艇開始前適宜ノ時一番隊ニ準シ「氣ヲ付ケ」ヲ令シ觀閱官通過時ニハ短艇隊指揮並短艇指揮ハ<sup>モト</sup>乗艇<sup>モト</sup>在<sup>モト</sup>閱<sup>モト</sup>ヲ行フ

第二百五十三 觀閱官閱艇式ヲ終リ旗艦（指示艦）ニ乘艦後指揮官ハ列

艇式整備ノ報告ヲナシ直チニ一番隊ニ發動ヲ令シ觀閱官ノ乘艦<sup>船</sup>ニ在リテ各單隊通過ニ際シ其ノ所屬並指揮ノ官氏名ヲ申告ス

第二百五十四 列艇式ニ於ケル短艇隊ノ運動法左ノ如シ

一 一番隊ハ直チニ運動ヲ起シ爾餘ノ單隊ハ番號順序ニ規定ノ間隔ヲ以テ續行スルモノトス（別圖第二）

二 各艇ハ短艇隊指揮ノ誘導ニ依リ常ニ規定ノ距離ヲ保有シ觀閱官乘艦ノ舷側約一〇〇米ヲ離シテ艏ヨリ艦ノ方ニ航走シ所定位置（艦ト齊頭ノ線ヨリ尙約五〇米ヲ航過シタル點）ニ於テ左八點ニ正面ヲ變ヘ其ノ艦ヲ舷ヨリ舳ニ進ミ觀閱官ヲ舷正横前約一點ニ見ル位置ヨリ約正横迄各艇順次海軍禮式令ノ規定ニ據リ敬禮ヲ行ヒツツ航過シ觀閱官乘艦ヲ過クルト約一〇〇米ノ位置ニテ左ニ八點正面變換ヲ爲シ觀閱官

乘艦ノ中央附近ニ至リ爾後短艇隊指揮ノ誘導ニ依リ閱艇式ノ位置ニ復歸スルモノトス

第二百五十五 列艇式終ラハ指揮官ハ之ヲ觀閱官ニ申告ス

第二百五十六 短艇隊指揮、短艇指揮ハ列艇式終ラハ觀閱官乘艦ニ參集ス

第二百五十七 指揮官ハ講評訓示後短艇隊ノ解散ヲ令ス

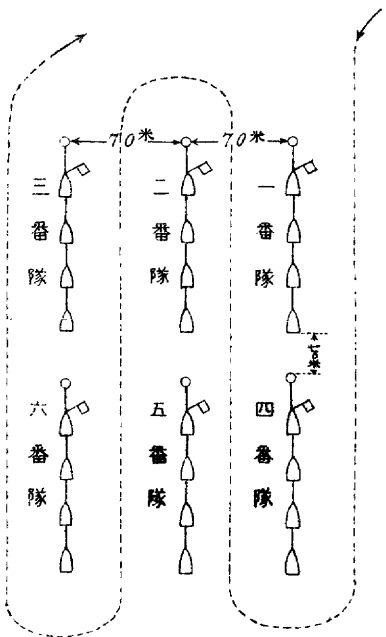
附 則

一 觀艇式ニ列スル各短艇ハ教範ノ示ス所ニ從ヒ艇内及諸要具ヲ整備スルモノトス

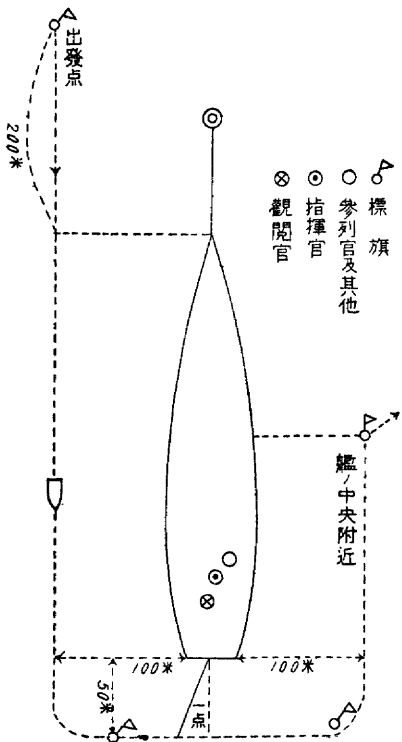
但シ指揮官ノ乘艇ニハS旗、短艇隊指揮ノ乘艇ニハ隊番號ヲ指示スル數字號旗ヲ準備シ式中之ヲ艇首旗竿ニ掲揚スルヲ例トス

二 短艇隊ノ編制ハ指揮官豫メ之ヲ定メ置クヲ例トス

別 圖 第 一



別圖 第二



三 短艇點檢規程

第二百五十八 短艇點檢ノ目的ハ短艇及短艇要具ノ状態ヲ検査スルニアリ

第二百五十九 短艇點檢ヲ行フニハ「ブームス」及「ダビット」ニ在ルモノハ其位置ニ於テシ水面ニ在ルモノハ大艇ヨリ順序ニ舷門附近ニ於テ之ヲ行フヲ例トス

第二百六十 「短艇點檢用意」ノ令ニテ當直舷ノ艇員ハ各短艇指揮指令ノ下ニ各受持短艇要具ヲ別圖第三、第四ニ準シ艇内又ハ其ノ「ダビット」若ハ艇架附近ノ甲板上ニ竝列スヘシ

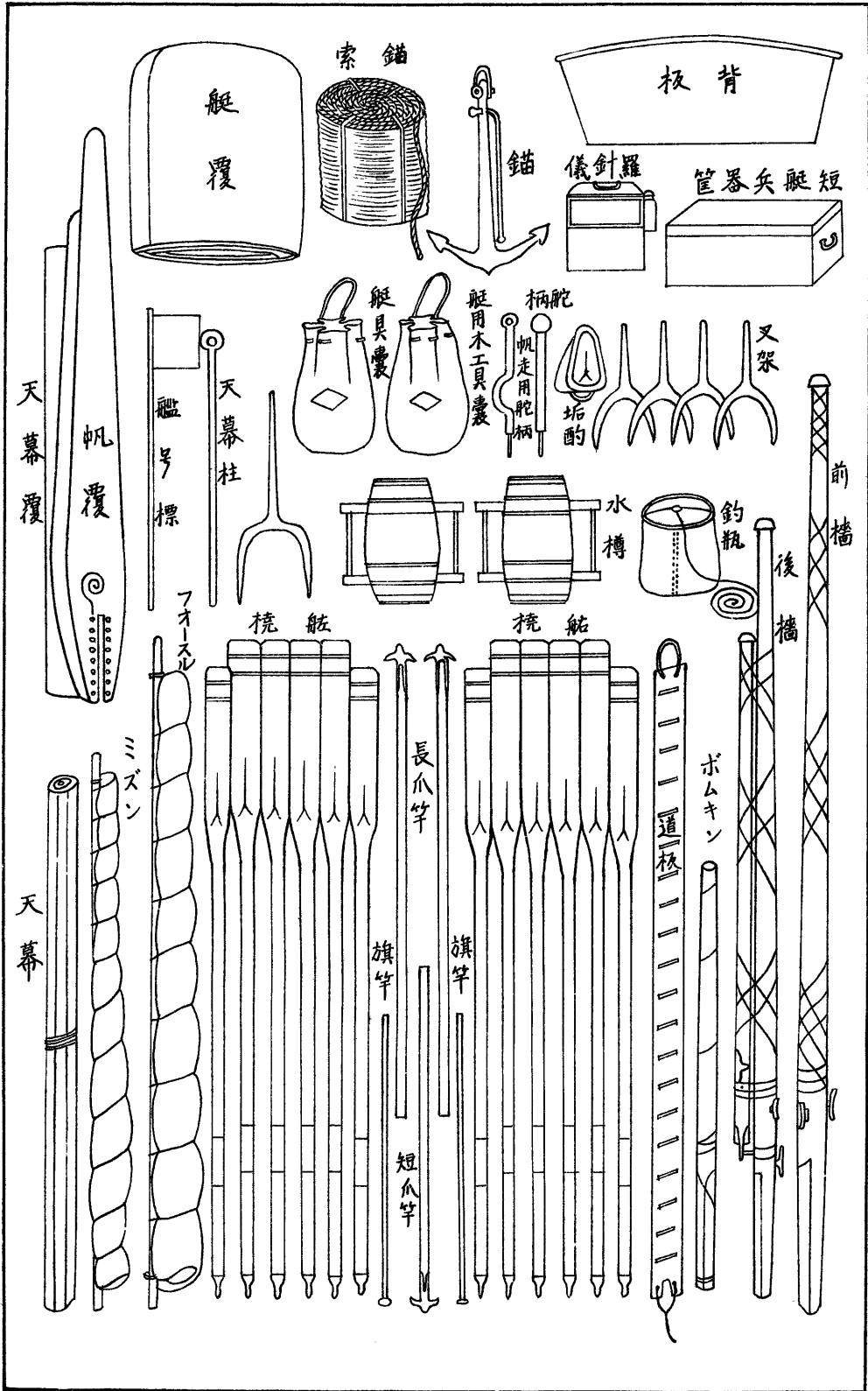
第二百六十一 短艇指揮ハ要具整頓セハ艇員ヲ整列シ短艇ノ所屬分隊長ニ報告シ所屬分隊長ハ點檢ノ後其ノ結果ヲ副長ニ報告スヘシ

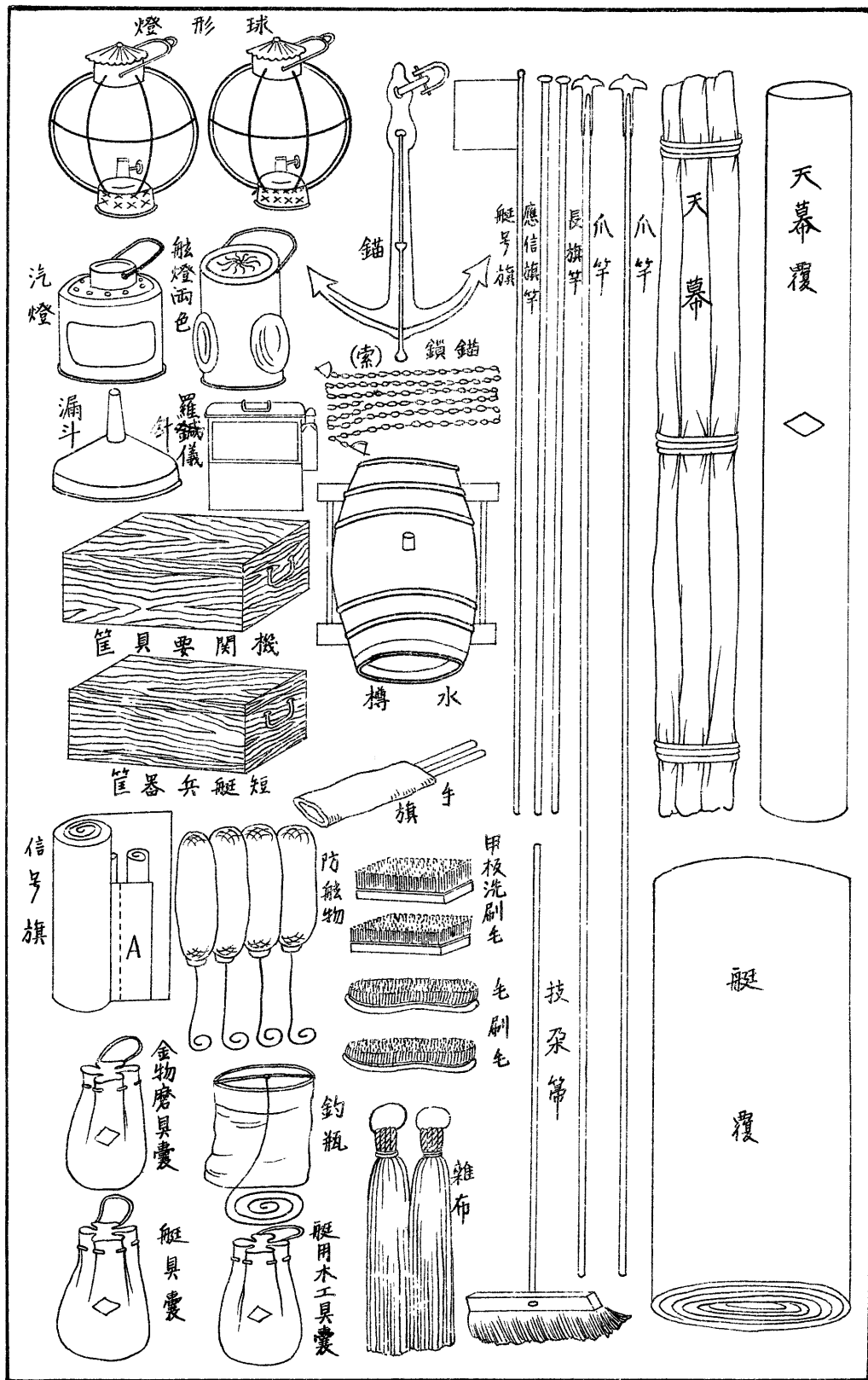
第二百六十二 艦長又ハ副長自ラ點檢ヲ行ハムトスルトキハ豫メ之ヲ告達スルモノトス

第二百六十三 艦長又ハ副長點檢ノトキハ運用長、航海長、機關長、補機掛機關將校、分隊長、掌帆長及船匠長隨從スルヲ例トス

第二百六十四 點檢終了セハ副長ハ要具ヲ收メシメ解散ヲ令ス

## 海軍短艇教範（終）





海軍短艇教範附錄



# 海軍短艇教範附錄目次

第一章 艇 體	一四九
第一節 短艇構成ノ概要	一四九
第二節 短艇各部ノ名稱	一五一
第一項 橈 艇	一五一
第二項 槽 艇	一五四
第二章 短艇要具	一五八
第一節 要具ノ種類	一五八
第一項 短艇要具	一五八
第二項 短艇屬具	一六二

第三項 帆走具……………	一六七
第二節 短艇帆式及諸帆……………	一六九
第一項 帆式……………	一六九
第二項 帆ノ種類……………	一七〇
第三項 諸帆各部ノ名稱……………	一七〇
第三章 短艇ノ保存手入法並塗粧法……………	一七二
第一節 短艇並要具ノ保存手入法……………	一七二
第二節 短艇塗粧法……………	一七四
○參考諸表(第一表至第五表)	
○附圖(第一圖至第十四圖)	

(目次終)

## 海軍短艇教範附錄

### 第一章 艇體

#### 第一節 短艇構成ノ概要

艇體ハ諸種ノ角材ヲ組合セテ骨トナシ之ニ外板ヲ貼著シテ構成シタルモノナリ即チ短艇最下ノ部ニ縱行スル主要ノ角材(龍骨、第一圖ノ一)ヲ基トナシ其ノ前端ニ艇首材(第一圖ノ二)後端ニ艇尾材(第一圖ノ三)ノ兩材ヲ樹立接續シ且其接續部ヲ強固ナラシムルタメ彎曲セル角材ヲ釘著シ中間ニハ尙彎曲セル肋材(第三圖ノ五)ヲ配シ其ノ中央ヲ龍骨上面ニ縱行スル角材(内龍骨第三圖ノ二)ニ固定シ兩側上端ヲ前後ニ接續スルニ上帶及下帶(第四圖ノ一)ヲ以テシ左右ニ維持スルニハ數個ノ梁材或ハ艇

座ヲ用ヒ之ニ外板ヲ張り又艇尾ハ艇尾材ノ上半ニ厚キ扇板即チ艇尾板  
(第二圖ノ一)ヲ貼著シ以テ艇體ヲ構成ス

外板ヲ貼張スルニハ二重張、鎧張ノ二法アリ二重張トハ外板ヲ二重ニ貼  
張シタルモノニシテ其方法ニ二種アリ一ハ内外板共ニ首尾線ニ互ニ斜ニ  
貼張スルモノニシテ之ヲ斜張ト云ヒ他ハ内板ヲ首尾線ニ斜ニ外板ヲ之ニ  
竝行ニ貼張スルモノニシテ之ヲ平張ト謂フ鎧張トハ首尾線ト竝行ニ外板  
ノ一部ヲ重疊貼張シタルモノヲ謂フ

機動艇中艦載水雷艇及汽艇ハ鋼材ヲ以テ甲板梁ヲ設ケ其ノ上面ニ軟鋼板  
又ハ木板ヲ敷キ填隙ヲ施シテ甲板ヲ構成ス而シテ内部ニハ更ニ橫隔壁ヲ  
設ケ前部兵員室、罐室、機械室、後部士官室ニ區劃シ罐室ノ兩舷ニハ石  
炭庫ヲ設ク

内火艇ニハ橈ヲ備ヘタルモノ又ハ單ニ橈艇ニ内火式機械ヲ据付ケタルモ  
ノアリテ故障其ノ他必要ニ應ジ其ノ何レカヲ使用シ得ル如ク作製シタル  
モノアリ

橈艇及帆布艇ノ構造ハ以上記スル所ト異ナリ橈艇ノ如キハ其ノ形狀及構  
造我國從來ノ魚舟ニ等シキコト第八圖(甲、乙、丙)ニ示スカ如ク又帆布  
艇ニ至リテハ三等驅逐艦ノ一部ニノミ搭載シアリテ其ノ肋材ハ龍骨ト平  
行ニ縱行シ之ニ帆布ヲ張り特種ノ防水油ヲ塗リ以テ疊縮收置シ必要ニ際  
シ展張使用シ得ル如クス

## 第二節 短艇各部ノ名稱

### 第一項 橈艇

龍骨 艇體最下部ニ縱行スル主要ノ材ニシテ諸部ノ基礎トナルモノナ

リ(第一圖ノ一)

艇首材 テイシュウザイ 龍骨ノ前端ニ接合樹立スル材ナリ(第一圖ノ二)

艇尾材 テイビザイ 龍骨ノ後端ニ接合樹立スル材ナリ(第一圖ノ三)

肋材 ロクザイ 兩舷ヲ組立ツル肋骨材ナリ(第一圖ノ四)

緣板 ヘリイタ 防舷帶ノ上部ニ周繞シ橈座ヲ設ケアル材板ナリ(第三圖ノ四)

動搖止 ドリユクドム 外側水準線ノ下ニテ縱行スル細長キ材ナリ(第四圖ノ一二)

防舷帶 ボウケンタイ 緣板ノ直下外側ヲ周繞スル木材ナリ(第四圖ノ一一)

上緣 ウエノヘ 緣板ノ上部ニ附著シタル薄キ木板ナリ

艇首帶 テイシュウタイ 艇首材ノ前面ニ添付シタル 敷 鐵鍍銀ナリ

龍骨帶 リユウボウタイ 龍骨下面ニ添付シ龍骨ノ磨損ヲ防クタメノ 敷 鐵鍍銀ナリ

栓 セン 艇底ニアル溜水排出孔ノ栓ヲ謂フ

橈座 カイザ 双坐艇ニ於ケル橈 ヲ 架スル座ヲ謂フ(第四圖ノ四)

橈座栓 カイザセン 橈座ヲ閉ツル木片ナリ

上帶 シヤウタイ 緣板ノ直下ニ於テ内側ヲ周繞スル木材ナリ

下帶 カクタイ 上帶ノ下方ニ於テ内側ヲ周繞スル木材ナリ

艇座 テイザ 艇員ノ座板ニシテ且梁 ビーム ノ用ヲナス而シテ最前ノモノヲ最前艇座


最後ノモノヲ最後艇座、檣ヲ樹ツルタメ「クランブ」ヲ設ケタルモノヲ

帆走用艇座ト謂フ

艇座ノ兩端ニ金具ヲ取付ケ移動シ得ル如ク裝成シタルモノヲ移動艇座

ト謂フ

支金 ササヘザネ 艇座ノ兩端ヲ舷側ニ固著スル金具ナリ(第四圖ノ 一五 五)

柱 ハシラ 艇座ノ支柱ヲ謂フ(  )

柱座板 チユウザパン 龍骨ノ上部ニ縱行スル木板ナリ(第三圖ノ三)

艇首座 ブイノユサ 最前艇座ヨリ前部ノ座ナリ(第二圖ノ四)

艇尾座 オビシノユサ 最後艇座ノ後部内側周邊ニ設ケタル腰掛ヲ謂フ(第二圖ノ六)

艇尾床 オビシノユサ 最後艇座ヨリ後部内底ノ床ヲ謂フ(第二圖ノ五)

艇尾板 オビシ 艇尾ヲ裝成スル材板ナリ(第二圖ノ一)

艇尾腰掛 オビシノユサ 艇尾後隅ニ設ケタル腰掛ヲ謂フ(第二圖ノ七)

檣座 シウツツ 檣ヲ樹ツルタメ柱座板ニ設ケタル座ナリ

檣脚承 シウツツノソコ 檣ノ根ヲ嵌ムル箱形ノモノナリ

耳軸 ミミ 舵ヲ保持スル壺金ナリ

軸針 オシ 舵ヲ保持スル舷金ナリ

## 第二項 檣 艇

艇首材 ブイノユサ 艇首ヲ構成スル主要ノ堅材ナリ(第八圖ノ一)

上 棚 ウケ 乾舷部ヲ構成スル木板ナリ(第八圖ノ二)

中 棚 ナカ 沒水部ヲ構成スル傾斜セル舷板ナリ(第八圖ノ三)

附 板 ノク 中棚ノ前端ト艇首材下部トヲ接續スル三角型ノ木板ニシテ普通

之ヲ有セサルモノ多シ(第八圖ノ四)

飾 板 カズ 上棚ノ後方ニ附著シタル木板ニシテ其上部ハ小縁ニ、下部ハ障

泥ニ接續シ舷側ノ後方ヲ強固ナラシムルモノナリ(第八圖ノ五)

小 縁 コベリ 上棚ノ上部外側ニ於テ前後ニ長ク附著シタル角板ニシテ上棚ノ

上部ヲ強固ナラシムルモノナリ(第八圖ノ六)

上小縁 ウヘコベリ 上棚上部ニ取付ケタル長キ材ニシテ上棚上部ノ磨損ヲ防クモノ

ナリ(第八圖ノ七)

障 泥 アサ 上棚及中棚ノ接合部ヲ強固ナラシムルタメ外部ニ於テ前後ニ長

ク附著シタル木材ナリ(第八圖ノ八)

摩<sup>ス</sup>手<sup>ベ</sup> 敷板ノ底部兩側ニ取付ケアル木材ニシテ陸揚等ノ際敷板ノ磨損

ヲ防クモノナリ(第八圖ノ九)

杆<sup>カン</sup> 貫<sup>ス</sup> 艇首ニ於テ兩舷ニ貫キタル堅材ニシテ之ニ眼釘<sup>眼</sup>ヲ固著シ舳索ヲ

取付クルタメノ~~木~~材ナリ(第八圖ノ一〇)

横<sup>ヨコ</sup> 梁<sup>バ</sup> 舷側ヲ強固ナラシムル堅材ニシテ其兩端ハ上棚ヲ貫ク(第八圖

ノ一一)

合<sup>カッ</sup> 羽<sup>バ</sup> 艇ノ前後ニアル甲板ヲ謂フ(第八圖ノ一二)

床<sup>トコ</sup> 板<sup>イ</sup> 艇尾上部ニ横架セル主要ノ材ニシテ舵軸ヲ嵌装スル切欠ヲ有ス

(第八圖ノ一三)

杆<sup>カン</sup> 子<sup>コ</sup> 脇櫓ノ櫓杭ヲ有シ其ノ内方ハ横梁ニ取付ケ不用ノ際ハ艇内ニ反

轉セシムル様装置シアル木材ヲ謂フ(第八圖ノ一四)

置<sup>オキ</sup> 座<sup>ザ</sup> 櫓杭ヲ植エルタメノ木片ヲ謂フ(第八圖ノ一五)

間<sup>マ</sup> 連<sup>レン</sup> 上棚及中棚ヲ維持シ舷側ヲ強固ナラシムル曲材ヲ謂フ(第八圖

ノ一六)

根<sup>ネ</sup> 梁<sup>バ</sup> 中棚及敷板ヲ固著シ舷側及底部ヲ強固ナラシムル曲材ヲ謂フ

(第八圖ノ一七)

戸<sup>ト</sup> 立<sup>タテ</sup> 艇ノ後部ヲ構成シ兩端及下端ハ上棚、中棚及敷板ニ斜ニ釘著セ

ル主要ノ板材ヲ謂フ(第八圖ノ一八)

板子<sup>イタゴウカ</sup> 受<sup>ウケ</sup> 板子ヲ載スルタメ艇底ノ中央ニ縦行スル角材ヲ謂フ(第八圖ノ

一九)

櫓<sup>ロ</sup> 杭<sup>ガイ</sup> 堅材若ハ鐵製ノ小突子ニシテ櫓ノ入子ヲ受クルタメノモノナ

リ(第八圖ノ二二)

敷板<sup>シキイタ</sup>艇底ヲ構成スル板材ナリ(第八圖ノ二一)  
 機動艇各部ノ名稱ハ橈艇ニ準シ之ヲ呼稱シ橈艇ニナキ部分ニ對シテハ一般船體名稱ニ準シ呼稱スルモノトス

第二章 短艇要具

第一節 要具ノ種類

短艇要具中艤裝品トシテ取扱フヘキモノ及日常使用ニ直接必要ナル要具ヲ特ニ短艇屬具ト稱シ帆走ニ必要ナルモノヲ帆走具ト稱ス

第一項 短艇要具

運艇具囊	名稱	記	事
	短艇	應急用トシテ單簡ナル掌帆要具ヲ收メ必要ニ際シ之ヲ搭載ス	

器兵	品		備							
	管主	長海航	管主	長用						
短艇兵器筐	短艇羅針儀	海軍信號書囊	海軍信號旗(艇用)	測鉛線	艇用艦號標	手旗	短艇數物	短艇	艇用木工具囊	牛眼燈(提燈)
同右	遠航其他必要ナル場合搭載使用ス	短艇指揮力信號書ヲ携行スル際ニ之ヲ使用ス	必要ニ應シ短艇ニ於テ使用ス	必要ニ應シ測深スルニ使用ス	艇首若クハ見易キ所ニ樹テ其ノ所屬ヲ示ス	通信用ニ使用ス	三種アリ甲(天皇皇族及之ニ準スヘキ貴賓用)、乙(將官司令官タル大佐用)丙(大、小二種アリ准士官以上用)應急用トシテ單簡ナル船匠要具ヲ收メ必要ニ際シ之ヲ搭載ス	球形燈ノ備ヘナキ短艇ヲ使用スルニ當リ夜間之ヲ携行セシム		

艇具囊內容品

品名	數量	品名	數量	品名	數量
帆布(八號)	一米	帆縫糸(甲)	若干	帆縫針(甲)	二
掌革	一	蜂蠟	若干	獸脂	若干
穿銅鐵	一	「スパマヤーン」	若干	測鉛線	一
軍艦旗	一	應信旗	一		

艇用木工具囊內容品

品名	數量	品名	數量	品名	數量
兩齒鋸(八寸)	一	鐵槌(小)	一	薄鑿(八分)	一
三ツ目錐	一	四ツ目錐	一	平鑿	一
目打	一	銅鉸	一	平鉛鉸	一
鉋	一	「アッキ」罐	二		

內容品ハ帆布製帶袋ニ插シ込ミ之ヲ卷キタル後艇具囊又ハ木工具囊ニ收ムルヲ便利トス

艇用木工具囊內容品中「ブリキ」罐ニハ獸脂若干ヲ詰メタルモノト銅釘若干及白墨數本トヲ收メタルモノト二個アリ  
短艇兵器筐內容品

軍艦	艇用	驅逐艦及掃海艇用
六十發入小銃空包筐	一個	一個
號火 筐 (長號火二個入 短號火一個入)	一個	同 上 (短號火四個入)
號火把柄	一個	同 上
號火用雷管	七個	同 上
信號火箭(尾索付)	二個	七個



軍	經	用	驅逐艦及掃海艇用
緩火索	五米	同上	一米

號火ノ燃燒時間ハ長號火ハ三分乃至五分、短號火ハ一分乃至二分ナリ雷管ハ號火把柄内ニ收ム

第二項 短艇屬具

名 稱		記 事
鐵、鐵、鐵 (索)	イカリビヨウザ (サケ)	機動艇、「ランチ」「ピンネース」ニハ鐵鎖ヲ使用ス
又	架	檣帆豫備檣等ヲ架スルタメ縁板ニ取付クヘキ又狀ノ鐵具ナリ
天	幕	炎天若メハ雨天ノ際ニ張り艇員ヲ保護ス
安	定 索	短艇ヲ吊リタル時其ノ橫動ヲ防クタメニ吊索ノ左右ニ取付ケタル索

品 裝		用 長 主 管		
吊	ツリ	索	ツナ	短艇ヲ揚クル時短艇索又ハ「デリック」ノ「ホルチエー」スヲ鈎クルモノナリ
繫	止	鏈	レ	短艇ヲ架上ニ繫止スルニ使用スルモノナリ
舫	モヤヒ	索	ツナ	大、小二種アリ
檣	マスト	柱	ムナキ	「カッター」、「ギグ」ノ「ム」ノハ帆走用、艦載水雷艇、汽艇ノモノハ信號用
天幕	テント	柱	ムナキ	天幕ヲ張ル時ニ使用スルモノナリ
水	グ	臺	ダイ	水樽ヲ置ク臺ナリ
橫	ヨコ	木	ギ	艇尾ニ於テ上帶橫架セル材ニシテ「ボンキン」架ヲ有ス
舵	ダ	柄	ヘイ	帆ノ備ヘアル短艇ニハ帆走用舵柄アリ、艦索ヲ取付ケ流矢ヲ防ク
脊	セ	板	イタ	單座艇ノ舵頭ニ嵌ムル木板又ハ金具ニシテ「ヨークライ」ハ之ニ取付クル細索ニシテ舵ヲ操作スルモノナリ
格	ク	子	シ	橫木ノ直前ニ於テ兩舷側間ニ嵌メ込ム檣板ナリ
				機艇ノ首尾ニ數キアル格子様ノ床板ナリ

備		品 裝 幀		名 稱	記 事
長 用 運					
防 舷 バツ ゲン アツ	釣 瓶 ツル ベ	艇 覆 テイ オホヒ	「スプレッダー」 「ダビッド」	敷 板 シキ イタ	機 架 カケ
艇 帆 テイ ハン	天 幕 テン オホヒ	艇 覆 テイ オホヒ	「スプレッダー」 「ダビッド」 重量物ヲ收容スル時ニ艇尾ニ裝著スヘキモ ノ外端ニ轉子ヲ有ス	足 掛 アジ カケ	機 架 カケ
艇 帆 テイ ハン	天 幕 テン オホヒ	艇 覆 テイ オホヒ	使用セサル短艇又ハ航海中收メタル短艇ニ使用ス（機 艇ニハ定數ナシ）	機 架 カケ	機 架 カケ
艇 帆 テイ ハン	天 幕 テン オホヒ	艇 覆 テイ オホヒ	機動艇ノミ定數アリ	機 架 カケ	機 架 カケ
艇 帆 テイ ハン	天 幕 テン オホヒ	艇 覆 テイ オホヒ	諸帆ヲ格納スル時ニ使用ス	機 架 カケ	機 架 カケ
艇 帆 テイ ハン	天 幕 テン オホヒ	艇 覆 テイ オホヒ	短艇内ヨリ舷外ノ水ヲ酌ミ取ルニ使用ス帆布製ナリ	機 架 カケ	機 架 カケ
艇 帆 テイ ハン	天 幕 テン オホヒ	艇 覆 テイ オホヒ	舷側ノ摩損ヲ防クタメ舷外ニ垂下ス	機 架 カケ	機 架 カケ

品		管 主		管 主		管 主		管 主	
管 主 長 海 航		管 主		管 主		管 主		管 主	
汽 燈 キ トウ シヨク	燈 形 ケイ トウ シヨク	垢 酌 アカ クミ	水 樽 スイ ダシ	道 板 ミチ イタ	旗 竿 ハタ ササ	爪 竿 ツメ ササ	機 架 ウチ カケ	櫓 架 カシ カケ	機 架 ウチ カケ
機動艇ノ舷燈ナリ	機動艇ノ室内ニ備フ	溜水ヲ汲ミ出スモノナリ	飲料水ヲ入ルルモノナリ	機橋トシテ使用スル木板ナリ	軍艦旗用及長旗用ノ二種アリ	附著ス	發着ノ際使用スル木竿ニシテ一端ニ爪ヲ有スル金具ヲ	索ヲ機架索トイフ	機座ナキ機艇ニ於テ機ヲ架スル金具ナリ流失ヲ防ク細
機動艇ノ舷燈ナリ	機動艇ノ室内ニ備フ	溜水ヲ汲ミ出スモノナリ	飲料水ヲ入ルルモノナリ	機橋トシテ使用スル木板ナリ	軍艦旗用及長旗用ノ二種アリ	附著ス	發着ノ際使用スル木竿ニシテ一端ニ爪ヲ有スル金具ヲ	索ヲ機架索トイフ	機座ナキ機艇ニ於テ機ヲ架スル金具ナリ流失ヲ防ク細
機動艇ノ舷燈ナリ	機動艇ノ室内ニ備フ	溜水ヲ汲ミ出スモノナリ	飲料水ヲ入ルルモノナリ	機橋トシテ使用スル木板ナリ	軍艦旗用及長旗用ノ二種アリ	附著ス	發着ノ際使用スル木竿ニシテ一端ニ爪ヲ有スル金具ヲ	索ヲ機架索トイフ	機座ナキ機艇ニ於テ機ヲ架スル金具ナリ流失ヲ防ク細
機動艇ノ舷燈ナリ	機動艇ノ室内ニ備フ	溜水ヲ汲ミ出スモノナリ	飲料水ヲ入ルルモノナリ	機橋トシテ使用スル木板ナリ	軍艦旗用及長旗用ノ二種アリ	附著ス	發着ノ際使用スル木竿ニシテ一端ニ爪ヲ有スル金具ヲ	索ヲ機架索トイフ	機座ナキ機艇ニ於テ機ヲ架スル金具ナリ流失ヲ防ク細
機動艇ノ舷燈ナリ	機動艇ノ室内ニ備フ	溜水ヲ汲ミ出スモノナリ	飲料水ヲ入ルルモノナリ	機橋トシテ使用スル木板ナリ	軍艦旗用及長旗用ノ二種アリ	附著ス	發着ノ際使用スル木竿ニシテ一端ニ爪ヲ有スル金具ヲ	索ヲ機架索トイフ	機座ナキ機艇ニ於テ機ヲ架スル金具ナリ流失ヲ防ク細
機動艇ノ舷燈ナリ	機動艇ノ室内ニ備フ	溜水ヲ汲ミ出スモノナリ	飲料水ヲ入ルルモノナリ	機橋トシテ使用スル木板ナリ	軍艦旗用及長旗用ノ二種アリ	附著ス	發着ノ際使用スル木竿ニシテ一端ニ爪ヲ有スル金具ヲ	索ヲ機架索トイフ	機座ナキ機艇ニ於テ機ヲ架スル金具ナリ流失ヲ防ク細
機動艇ノ舷燈ナリ	機動艇ノ室内ニ備フ	溜水ヲ汲ミ出スモノナリ	飲料水ヲ入ルルモノナリ	機橋トシテ使用スル木板ナリ	軍艦旗用及長旗用ノ二種アリ	附著ス	發着ノ際使用スル木竿ニシテ一端ニ爪ヲ有スル金具ヲ	索ヲ機架索トイフ	機座ナキ機艇ニ於テ機ヲ架スル金具ナリ流失ヲ防ク細
機動艇ノ舷燈ナリ	機動艇ノ室内ニ備フ	溜水ヲ汲ミ出スモノナリ	飲料水ヲ入ルルモノナリ	機橋トシテ使用スル木板ナリ	軍艦旗用及長旗用ノ二種アリ	附著ス	發着ノ際使用スル木竿ニシテ一端ニ爪ヲ有スル金具ヲ	索ヲ機架索トイフ	機座ナキ機艇ニ於テ機ヲ架スル金具ナリ流失ヲ防ク細

橈各部ノ名稱

水搔 水中ニ入レ水ヲ搔クヘキ平キ部(第六圖ノ一)

柄握 丸キ部全體(第六圖ノ二)

當革 内端ノ細キ部(第六圖ノ三)

又ハ編索(第六圖ノ四)

銅帶 水搔キノ破損ヲ防クタメ取付ケタル薄キ銅板(第六圖ノ五)

橈索 橈ノ流失ヲ防クタメ橈ニ取付ケタル細索

橈各部ノ名稱

橈腕 橈ノ上部琵琶形ヲナシタル部(第九圖ノ一)

橈腕 ヲリ下部(第九圖ノ二)

鉸 橈腕ト橈下トノ接合部(第九圖ノ三)

入子 橈下ニ取付ケタル橈杭ヲ嵌ムル木片(第九圖ノ四)

橈杆 橈腕ノ上方ニ取付ケタル早緒ヲ掛クル木杆(第九圖ノ五)

早緒 橈ヲ使用スル時ニ用フル索條

第三項 帆走具

品 裝 幟		品 名	記 事
管 主 長 用 運			
帆	帆	帆	「カッター」及「ギグ」ニノミ定數アリ第四項ニ於テ細説ス
橋	橋	帆ヲ掛ケタル柱ニシテ前部ノモノヲ前橋、艇尾ノモノヲ後橋ト謂フ	
「ア	「ム	後帆ノ下縁ヲ張り出スタメノ圓材ヲ謂フ	
「ホンキン」又ハ「セユンドアム」	「アム、シート」ヲ導クタメ艇尾ニ取付クヘキ圓材ヲ謂フ	帆ヲ取付ケ橋ニ吊揚スル圓材ヲ謂フ	

品名		記	
維持索	「テノキラシン」 「テッキテークル」 「シート」 「グリユー」	「テッキ」ヲ緊張シテ留ムルタメノ索條	「グリユー」ヲ後方ニ展張維持スル索條(絞靦)ヲ謂フ
張揚索	「アーム」ノ外端ニ展張維持スル索條	「アーム」ノ外端ヲ上下スル索條ヲ謂フ	「アーム」ノ外端ヲ上下スル索條ヲ謂フ
絞索	「アーム」ノ外端ヲ上下スル索條ヲ謂フ	「アーム」ヲ操作スル絞靦ヲ謂フ	「アーム」ヲ操作スル絞靦ヲ謂フ

檣各部ノ名稱

頭<sup>カシラ</sup> 脚<sup>アシ</sup> 根<sup>ネ</sup> 柄<sup>ツグ</sup>

- 檣ノ頂端ヲ謂フ
  - 檣ノ下方稍々方形ニナリタル所ヲ謂フ
  - 檣ノ下端ヲ謂フ
  - 檣ヲ樹テタル時其ノ座ニ嵌合スル方形部ヲ謂フ
- 第二節 短艇帆式及諸帆
- 第一項 帆式

短艇ノ帆式ハ次ノ三種類アリテ専ラ「カッター」及「ギグ」ニ使用ス

「スタンディング、ラグ、ジブ、エンド、ミズン」(十二圖ノ一)

「フォースル」、「ミズン」及「ジブ」ノ三帆ヨリナリ「カッター」ニ用フ

「デッピング、ラグ」(十二圖ノ二)

大ナル一帆ヨリナリ小形「カッター」及「ギグ」ニ用フ

「ヂッピング、ラグ、エンド、ミズン」(十三圖)

「ヂッピング、ラグ」ト「ミズン」トノ二帆ヨリナリ「カッター」ニ用フ

### 第二項 帆ノ種類

「チブ」 前檣ヨリ前方ニアル三角帆ヲ謂フ

前帆 フキ 前檣ニ展張スル帆ヲ謂フ

後帆 ミズン 後檣ニ展張スル帆ヲ謂フ

### 第三項 諸帆各部ノ名稱

「ヘッド」 帆ノ上縁ヲ謂フ(第十四圖)

「フット」 帆ノ下縁ヲ謂フ(第十四圖)

「クリュー」 帆ノ下縁後隅ヲ謂フ(第十四圖)

「テッキ」 帆ノ下縁前隅ヲ謂フ(第十四圖)

「ラフ」 帆ノ前縁ヲ謂フ(第十四圖)

「リーチ」 帆ノ後縁ヲ謂フ(第十四圖)

「スロート」 帆ノ上縁前隅ヲ謂フ(第十四圖)

「ピーキ」 帆ノ上縁後隅ヲ謂フ(第十四圖)

縮紐 ヒモ 縮帆スルタメ帆ノ縮帆部ニ取付ケタル數個ノ細索ヲ謂フ

此ノ部分ヲ縮帆部(「リーフ」)ト稱ス

鳩目 ト 帆ノ各隅及縮帆部ノ前後兩端ニ取付ケタル眼環ヲ謂フ

「イーリング」 帆ノ「ヘッド」ノ兩隅ヲ「ヤード」ニ結止スルタメ鳩目ニ取

付ケタル細キ索ヲ謂フ

「レーモン」 帆ノ「ヘッド」ヲ「ヤード」ニ取付クル細キ索ヲ謂フ

「ポートルトローブ」 帆ノ周縁ニ縫ヒ附ケタル綱ヲ謂フ

## 第三章 短艇ノ保存手入法並塗粧法

## 第一節 短艇並要具ノ保存手入法

短艇ハ毎日洗方又ハ拭方ヲ行ヒ金物ヲ手入シ又連日使用ノ短艇ハ一週一回大掃除(機動艇ハ其ノ使用ヲ止メテ手入ヲナス)ヲ行フヲ例トス  
短艇ハ洗方終ラハ充分ニ海水ヲ拭ヒ尙塗粧シアル部分ハ清水ヲ以テ拭フヘシ

短艇ヲ引キ揚ケ又ハ艦内ニ收容シタルトキハ直ニ清水ヲ以テ外舷ヲ拭ヒ之ヲ清潔ナラシムヘシ

使用セサル短艇ハ成ルヘク艇架ニ收メ航海中ハ覆ヲ掛ケ置クヘシ

艇内ハ常ニ乾燥シアラシムヘシ然レトモ炎天ニ曝露シ永ク使用セサルトキハ罅隙ヲ生シ或ハ屈曲スル等ノタメ遂ニ實用ニ堪ヘサルニ至ルコトア

ルヲ以テ情況ニ應シ時々之ヲ潤シ過度ニ乾燥セシメサルコト亦必要ナリトス

使用セサル短艇ノ要具等ハ手入若メハ修理ヲ加ヘ艦内ニ取り入レ保存スヘシ

諸帆天幕類ハ使用セサル時ト雖屢々上甲板便宜ノ場所ニ出シ常ニ乾燥シアル如クシ保存スルヲ要ス

橈ハ番號ヲ記入シ當革ヲ適當ノ位置ニ裝シ水掻ノ銅帶ヲ完全ニ裝著シ置クヘシ

橈索ハ長サヲ一樣ニシ「橈流セ」ノ際當革カ防舷帶ニ觸ルルヲ程度トナシ置クヘシ

橈座栓ハ適當ナル長サノ細索ヲ附シ挿脱自由ナル如クス

防舷物ハ舷外ニ出シタルトキ其約中央カ防舷帶ニ觸ルルヲ度トシ何レモ橈座ノ中間ニ取付ケ置クヘシ

水樽ハ日光ノ直射ヲ避ケ罅隙ヲ生スルヲ防クヘシ

測鉛線ハ時々其ノ長サ及符號ヲ檢シ測鉛取付部ノ摩損ニ注意シ又格納ニ際シテハ鎖結ヲ以テ縮ネ置クヘシ

栓ニハ細索ヲ附シ又其ノ孔ニ適合スル如クナシ置クヲ要ス

爪竿ノ爪ノ細索ハ竿ノ全長ノ三分ノ一ノ所マテ裝著シ置クヲ要ス

鐵具及其ノ取付部等ニハ雨露、海水等ノタメ腐蝕シ折損シ易キヲ以テ屢、之カ檢査手入ヲナシ又止栓類ニハ必ス小索ヲ以テ結止スル如クスヘシ

## 第二節 短艇塗粧法

短艇ノ塗粧ヲ行フニハ先ツ艇具ヲ出シ艇ノ内外ヲ清水ニテ拭ヒ其ノ乾キ

タル後内舷、外舷、識別線所屬名及番號ノ順序ニ塗ルヲ例トス

塗リ方ハ上方ヨリ下方ニ右方ヨリ左方ニ及ホシ刷毛ハ常ニ左方ヨリ右方ニ下方ヨリ上方ニ運フ如ク使用シ最後ノ刷毛目ハ水平ニナル如クスルヲ可トス  
塗具ヲ剝脱スルニハ三角鏽刮(必要ニ應シ尙燒鏝)ヲ使用シ艇板ヲ損傷セサルニ注意スヘシ

短艇塗色ハ艦船造修試驗檢査規則ニ依ルノ外左記諸號ニ依ルモノトス

煙突ハ塗粧セス上縁黑色ニ塗ルヘキ部分ノ幅ハ其ノ直徑(大徑)ノ長サトス

同種ノモノニ艘以上ナル時ハ防舷帶ノ直下艇體周圍ヲ「カッター」識別線ニ準シ塗粧ス但シ其ノ幅ハ二吋トス

「カッター」ハ左ノ如ク塗粧スルモノトス

舳艇ハ上帯ヲ綠 舳艇ハ上帯ヲ紅

艇首艦名文字ノ直上縁板及艇尾板外面ニ於テ艦名文字ト同大ナル文字  
ニテ其ノ番號ヲ白色ニ塗裝ス但艇尾ノ數字ハ舳艇ハ左、舳艇ハ右ニ記  
入スルモノトス

艇尾板内面ニハ右ト同大文字ヲ以テ短艇固有番號ヲ記入ス

「カッター」以外ノ短艇ハ「カッター」ニ準シ塗粧スルモノトス

短艇塗粧ニ要スル一回ノ塗料大略左ノ如シ

艇種	艇全長 呎	外舷塗料 疋	内舷塗料 疋	備考
艇載水雷艇	五六	一二	一二	汽艇ハ其ノ大キサニ準シ「ピンネ ース」若クハ艇載水雷艇ヲ標準ト ス内火艇ハ機艇ヲ標準トス
「ランチ」(大形)	四二	一〇	一二	

「ピンネース」	三三	六	七	上記ノ外機動艇ニハ若干ノ錆色塗 具ヲ必要トス 油拭ハ上記塗料ノ約半量ヲ要ス
「カッター」 (十二艇立)	三〇	五	五	
「ギ グ」	三〇	三・五	三・五	
通船	二〇	三	三	



第一表 短艇 要具 定數表

品名	水雷艇載	汽艇	内火艇	「ランナ」	「ピス」	「カッター」	「ギク」	通船
艇具	一	一	一	一	一	一	一	一
短艇數物	一	一	一	一	一	一	一	一
艇用木工具囊	一	一	一	一	一	一	一	一
牛眼燈(提燈)	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
手旗	一	一	一	一	一	一	一	一
艇用艦號標	一	一	一	一	一	一	一	一
測鉛線	一	一	一	一	一	一	一	一
海軍信號旗(艇用)	必要ニ應 シ備フ	同	同	同	同	同	同	同
海軍信號書囊	一	一	一	一	一	一	一	一
短艇羅針儀	一	一	一	一	一	一	一	一
短艇兵器筐	必要ニ應 シ備フ	同	同	同	同	同	同	同
錨、錨鎖(索)	一式	一式	一式	一式	一式	一式	一式	一式
天幕、同覆	一	一	一	一	一	一	一	一
又架	〇	〇	〇	四	四	四	四	〇
安吊架	一	一	一	一	一	一	一	一
繫止索	一	一	一	一	一	一	一	一
舫索	一式	一式	一式	一式	一式	一式	一式	一式
信號用橋	一	一	一	一	一	一	一	一
天幕柱	一式	一式	一式	一式	一式	一式	一式	一式
天幕棟木	一式	一式	一式	一式	一式	一式	一式	一式
水樽及同臺	二	一	一	六	四	二	一	〇
横木	〇	〇	〇	〇	〇	一	一	〇
舵、舵柄	一 操作裝置式	同	同	同	同	同	同	同
「ヨーク」、「ヨークライン」	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一	〇
背板	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一	〇
數板	〇	〇	〇	一	一	一	一	〇
足掛	〇	〇	〇	一	一	一	一	〇
「スプレッダー」、「グベツド」	〇	〇	〇	一	一	一	一	〇
艇首、艇尾覆	一組	同上	同上	一組	一組	一組	一組	一組
釣瓶	一	一	一	一	一	一	一	一
防舷物	四	四	四	一	一	一	一	一
機架	〇	〇	〇	機座數	同	同	機架ノ數	〇
櫓架	〇	〇	〇	機座數	同	同	機架ノ數	〇
爪架	〇	〇	〇	三(二)	三	三	五	三又ハ二
旗竿	二	二	二	一	一	二	二	二
道板	一	一	一	一	一	一	一	一
坩酌	〇	〇	〇	一	一	一	一	一
球形燈	三	二 (有セサルモノアリ)	〇	〇	〇	〇	〇	〇
舷燈兩色	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇
汽燈	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇

艇體ノ大小ニヨリ同種艇ト雖定數ニ相異アルモノアリ

考

第二表 短艇屬具寸法表

短艇種類	種類	艦載水雷艇	汽艇「ランチ」		「ピンネース」		「カッター」			「ギグ」			通船				
	長呎	56	40	40	38	32	30	30	28	26	(20) 22	30	27.2 (25)	22	30 (27)	23 (20.3)	
深	呎	5.3 $\frac{1}{4}$	5.1 $\frac{1}{4}$	4.0	3.0	3.3	3.2	2.8 $\frac{1}{2}$	2.6 $\frac{1}{2}$	2.6	2.3	2.2	2.2	2.2	—	—	
錨	斤	54	46	54	45	32	27	18	18	18	14	14	14	14	14	14	
錨鎖(索)	太吋	3/8	3/8	4	4	4	4	3.5	3.5	3.5	3.5	3	3	3	3	3	
	長米	81	81	73	73	73	73	55	55	55	53	46	46	46	4.6	—	
纜索(大)	太吋	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.25	3.25	3.25	3.25	3	3	3	3	3	
	長米	15	15	15	15	15	15	13	13	13	13	12	12	12	12	12	
纜索(小)	太吋	1.75	1.75	1.75	1.75	1.75	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	
	長米	15	15	15	15	15	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	
橈	中央用	長米	—	—	5.029	5.028	4.725	同左	4.419	4.267	4.267	4.114	5.181	5.181	5.029	—	—
	艇首尾用	長米	—	—	4.870	4.870	4.573	同左	4.267	4.114	4.114	3.962	4.876	4.876	4.575	—	—
爪竿(大小)	米	3.670	3.670	3.670 1.800		3.670 1.800		3.670 1.800		3.670 1.800		3.670 1.800		3.670			
旗竿	米	2.370	2.370	2.370		2.370		2.370		2.370		2.370		—			
水樽	斗	2.25	2.25	2.25	2.25	2.25	2.25	1.75	1.75	1.75	1.75	1.75	1.75	1.75	1.75	1.75	

第三表 橈主要部尺度表

種類	L	A	B	C	D	E	F	G	H	I
四〇呎 「ランチ」	5.029	204	3.065	1.760	38	83	56	143	16	5
三二呎 「ピンネース」	4.724	204	2.890	1.630	38	82	56	143	16	5
三〇呎 「カッター」	4.419	204	2.685	1.530	38	76	55	140	14	5
	4.267	204	2.633	1.430	38	76	55	140	14	5

第四表 帆走具寸法表

帆式			「スタンディング、ラグ、ジブ、エンド、ミズン」				「チップング、ラグ」			
艇種	種	長(呎)	30	28	26	23	30	25 (27)	22	
大 サ ノ 帆 桁 橋	前橋	長(米)	7.27	6.63	6.15	5.81	8.87	5.27 (5.60)	4.89	
		徑密	130	127	110	102	114	105 (110)	102	
	後橋	長(米)	4.60	4.31	3.90	3.46	—	—	—	
		徑密	96	95	82	78	—	—	—	
	前桁	長(米)	3.67	3.64	2.95	2.73	3.95	3.49 (3.77)	3.18	
		徑密	72	70	68	62	85	76 (80)	70	
	後桁	長(米)	2.59	2.54	2.17	1.97	—	—	—	
		徑密	62	60	60	55	—	—	—	
	「ブーム」	長(米)	3.50	3.30	2.93	2.62	—	—	—	
		徑密	88	88	75	67	—	—	—	
	「セコンドブーム」	長(米)	2.15	1.87	1.83	1.65	—	—	—	
		徑密	88	88	75	67	—	—	—	
諸帆ノ面積	「ジブ」	平方米	695	590	445	350	—	—	—	
	前帆	米	25.73	22.80	17.40	14.40	27.13	17.23 (19.90)	14.20	
	後帆	米	10.32	9.50	7.15	5.7	—	—	—	
諸帆ノ寸法	「ジブ」	「フート」	米	2.75	2.68	3.10	1.80	—	—	
		「リーナ」	米	4.97	4.45	4.23	3.88	—	—	
		「ラフ」	米	5.71	5.00	4.80	4.32	—	—	
	前帆	「ヘット」	米	3.33	3.48	2.76	2.55	3.75	3.25 (3.57)	3.00
		「フート」	米	5.16	4.85	4.25	3.84	6.00	5.10 (5.56)	4.63
		「リーナ」	米	7.57	6.74	5.33	5.73	5.56	5.02 (5.42)	4.56
		「ラフ」	米	5.16	4.72	4.30	3.91	4.25	3.65 (3.93)	3.40
	後帆	「ヘット」	米	3.37	2.38	2.00	1.80	—	—	—
		「フート」	米	3.32	3.24	2.80	2.50	—	—	—
		「リーナ」	米	4.77	4.42	3.97	3.56	—	—	—
		「ラフ」	米	3.03	2.75	2.50	2.20	—	—	—

第五表 短艇尺度、重量、搭載量等

短艇種類	大サ			重量 噸	平テ得ル 水搭載量 ニ於シ	平テ得ル 水搭載 ニ於シ 人員	此ニ要スル 増減 噸	(推進機數)	
	長 尺	幅 尺	深 尺						
汽艇	56	9-9	4-8½	18.0	—	80	1.090	(1)	
	40	9-6	4-10	12.4	—	50	0.760	(1)	
	32	7-6	3-11	5.8	—	40	0.480	(1)	
	23	5-9	3-4	3.0	—	21	0.265	(1)	
橈艇	「ランチ」	40	10-8	4-0	5.0	8.5	128	0.850	16
		38	10-4	3-9	4.5	7.0	110	0.790	16
	「モネニス」	32	9-0	3-3	3.0	4.5	72	0.575	14
		30	8-9	3-2	2.5	4.0	62	0.525	12
	「カッター」	30	8-1	2-8½	1.0	3.0	49	0.485	12
		28	7-6	2-6½	0.9	2.5	40	0.420	10
		26	7-4½	2-6	0.7	2.3	36	0.380	8
		23	6-11	2-4½	0.5	1.8	29	0.320	8
		20	6-4	2-3	0.5	1.4	21	0.250	8
	「ギグ」	30	5-6	2-2	0.5	1.6	26	—	6
		27	5-6	2-2	0.5	1.5	24	—	5
		25	5-6	2-2	0.4	1.4	22	—	5
		22	5-6	2-2	0.4	1.2	19	—	4
	橈艇	30 (27)	—	—	—	—	—	—	3
		23 (20.2)	—	—	—	—	—	—	2

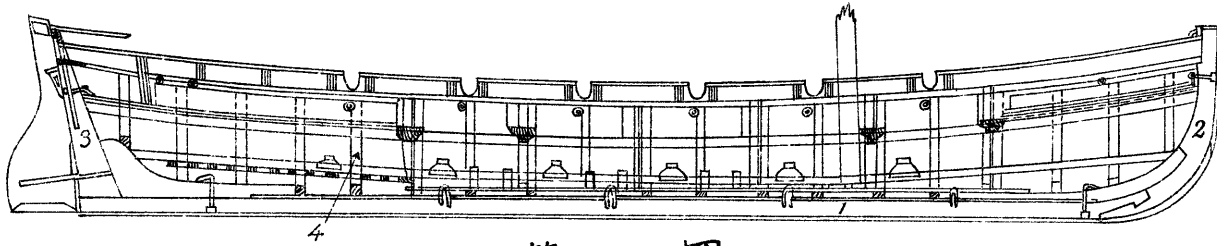
第一圖

第一圖

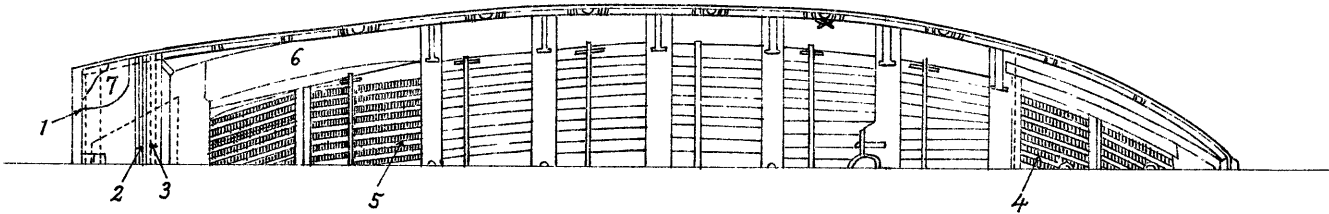
1. 龍骨
2. 艇首材
3. 艇尾材
4. 肋材

第二圖

1. 艇尾板
2. 橫木
3. 背板
4. 艇首座床
5. 艇尾座床
6. 艇尾座
7. 艇尾腰掛



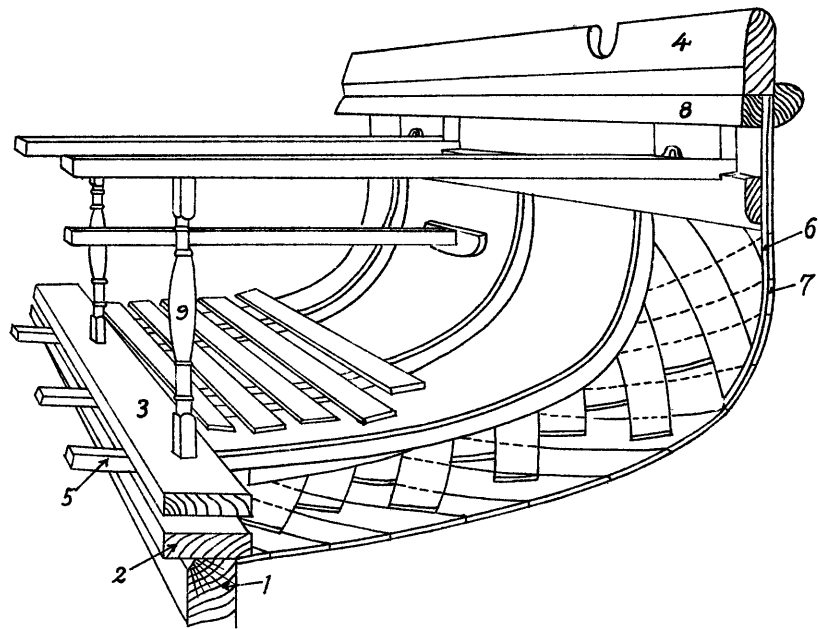
第二圖



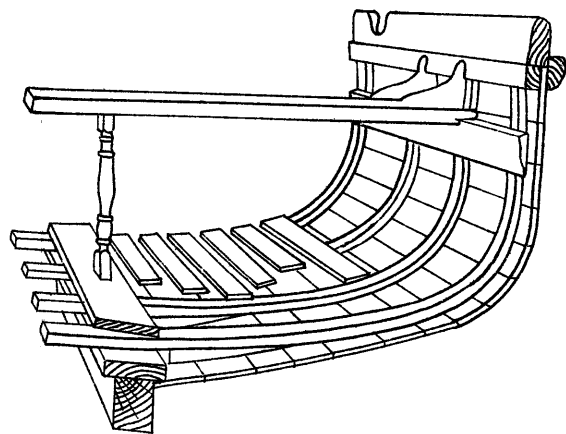
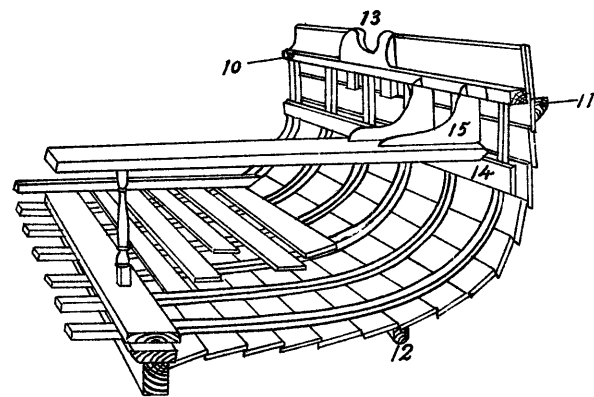
1. 龍骨
2. 內龍骨
3. 柱座板
4. 緣板
5. 肋材
6. 外板
7. 內板

8. 上帶
9. 柱
10. 上帶
11. 防舷帶止
12. 動搖
13. 搖座
14. 下支
15. 帶金

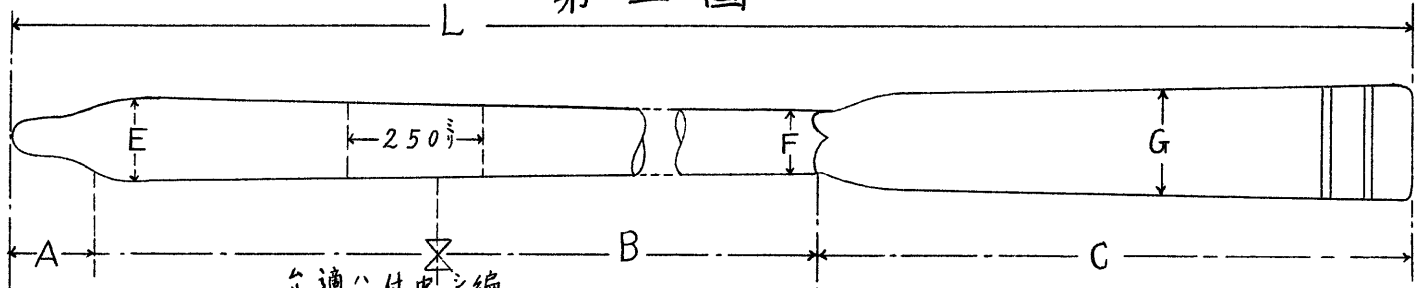
第三圖



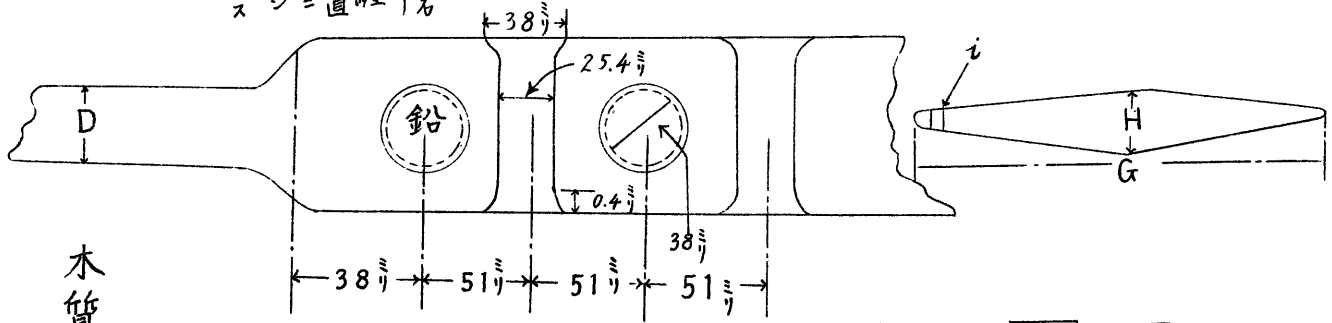
第四圖



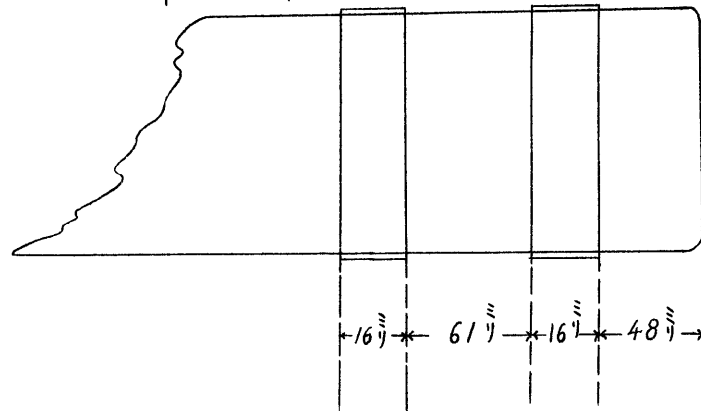
# 第五圖



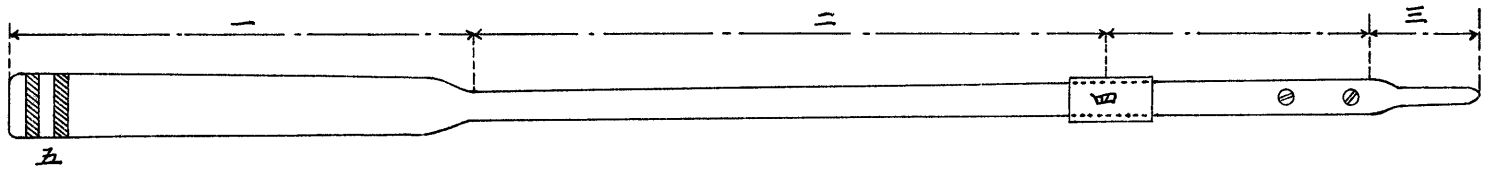
編索若  
シクハ牛  
皮ヲ纏  
付ス位置  
ハ艇幅ニ  
適合セシ  
ムルヲ要ス



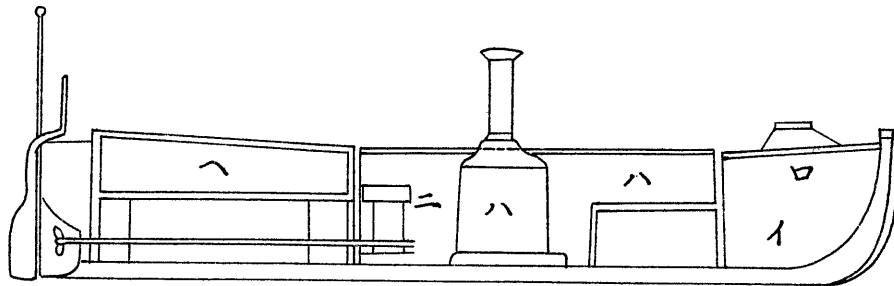
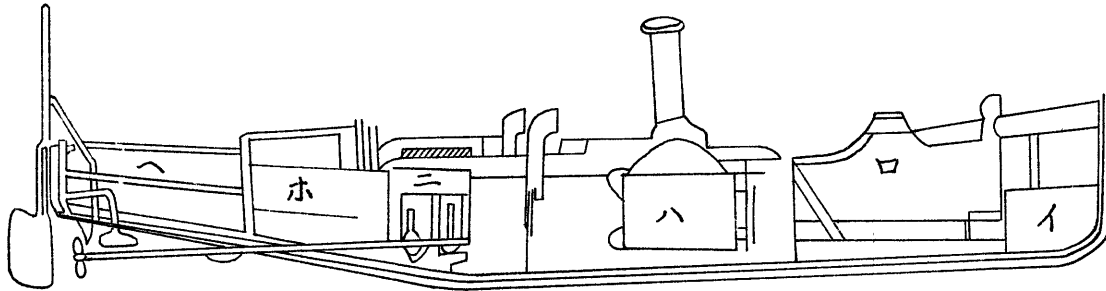
木質  
征樹



第六圖



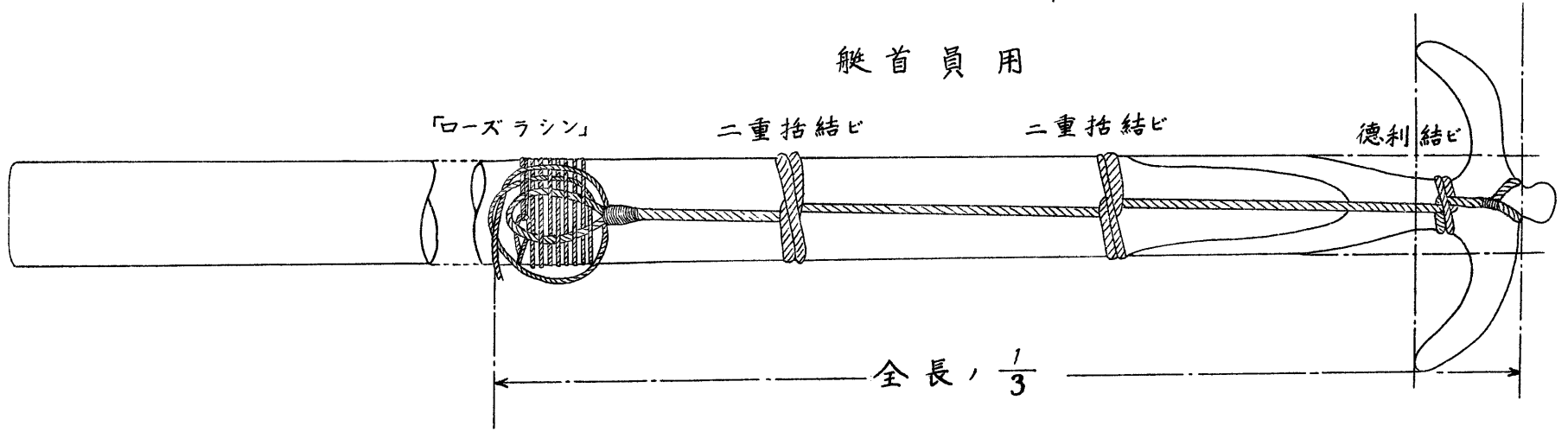
第七圖



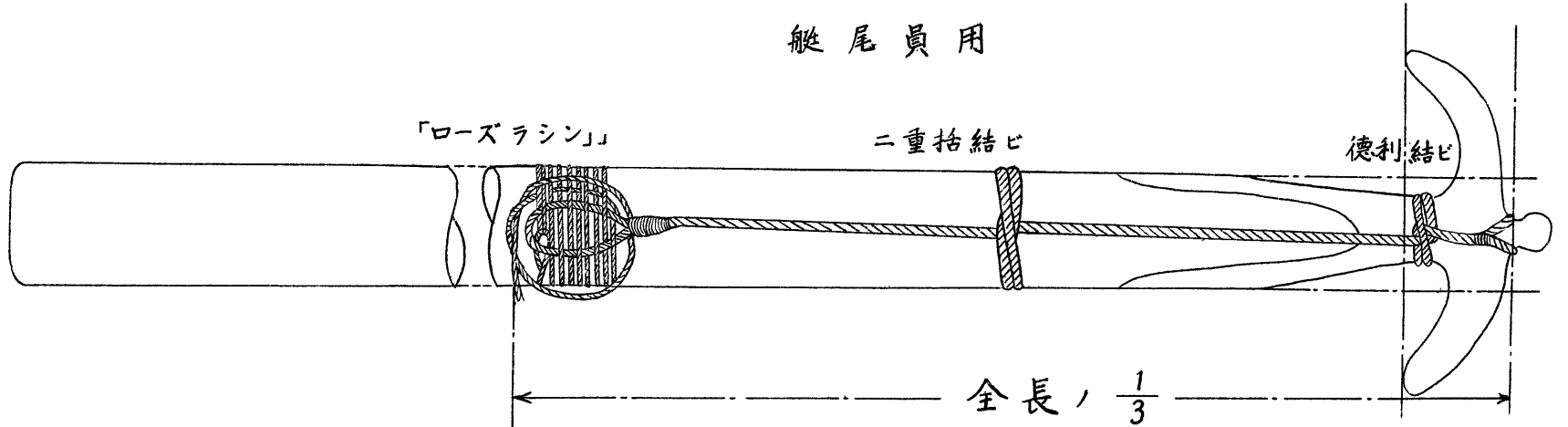


# 第六圖 乙 爪 竿

艇首員用

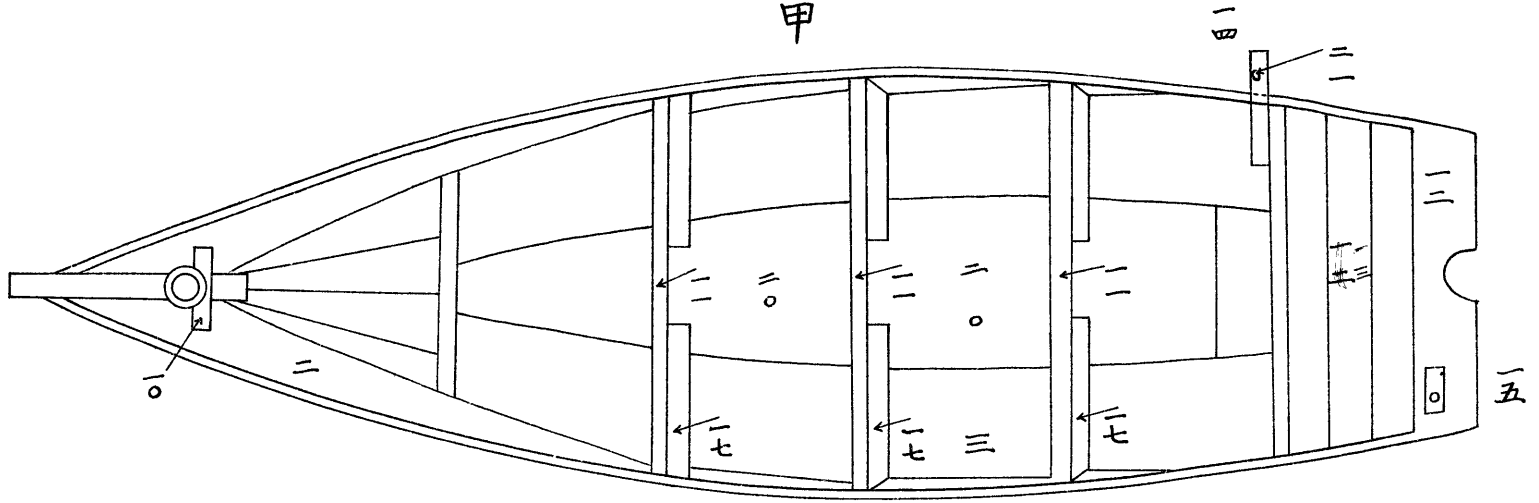


艇尾員用

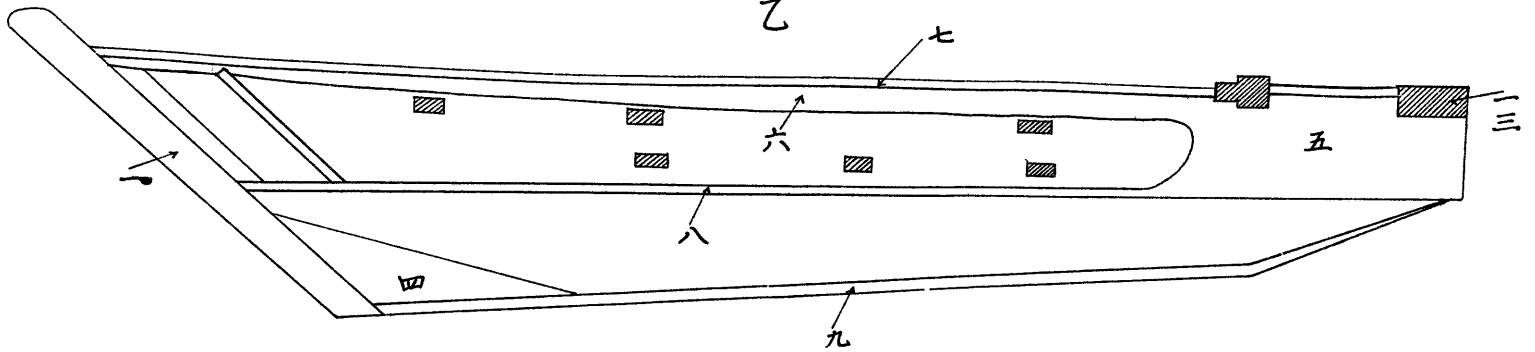


# 第八圖

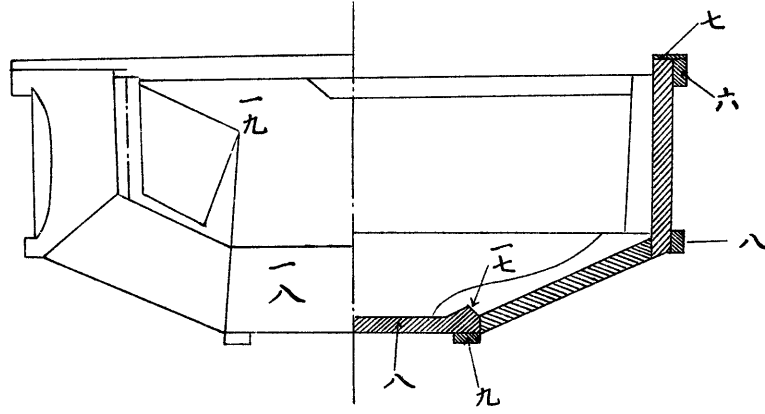
甲



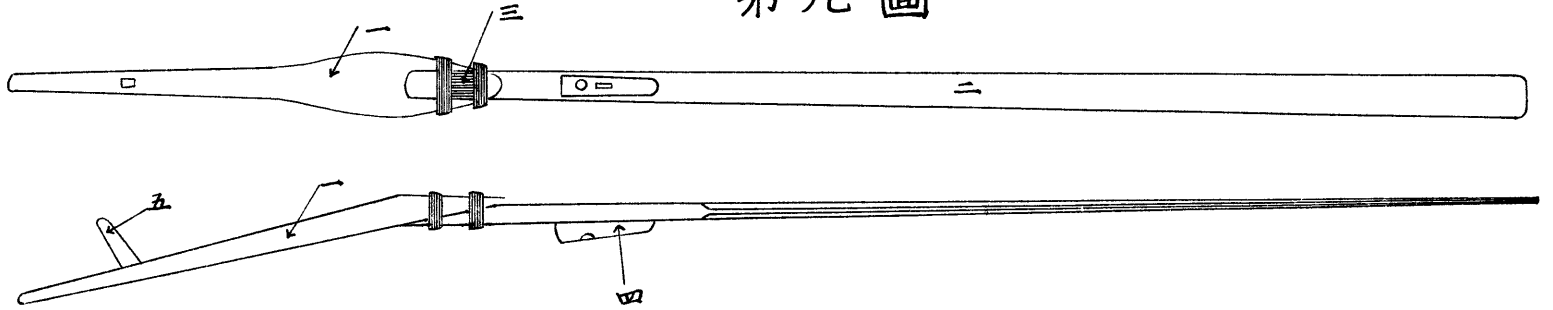
乙



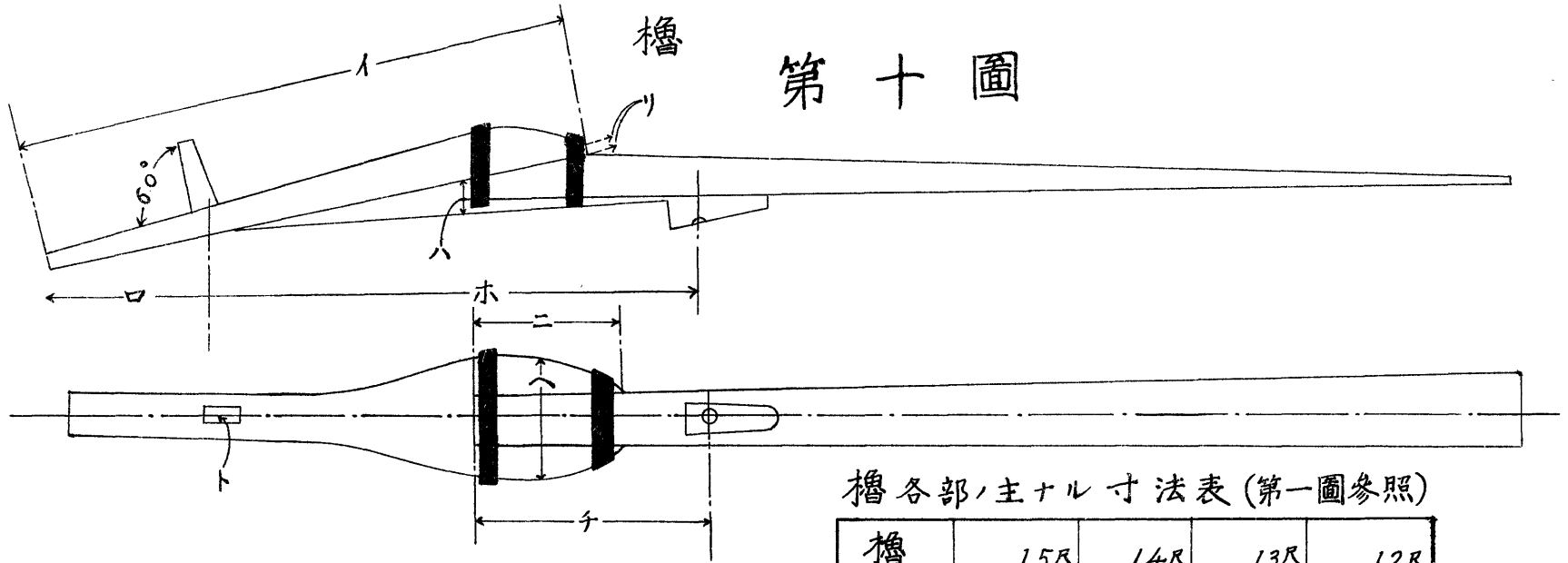
丙



第九圖



# 第十圖



櫓各部ノ主ナル寸法表 (第一圖参照)

櫓	15尺	14尺	13尺	12尺
イ	5.80	5.65	5.45	5.25
口	1.65	1.60	1.60	1.55
ハ	0.27	0.26	0.25	0.24
ニ	0.90	0.89	0.88	0.87
ホ	5.30	5.20	5.10	5.00
ヘ	0.75	0.70	0.65	0.60
ト	0.08-0.07	"	"	"
チ	2.0	"	"	"
リ	0.15	0.14	0.13	0.12

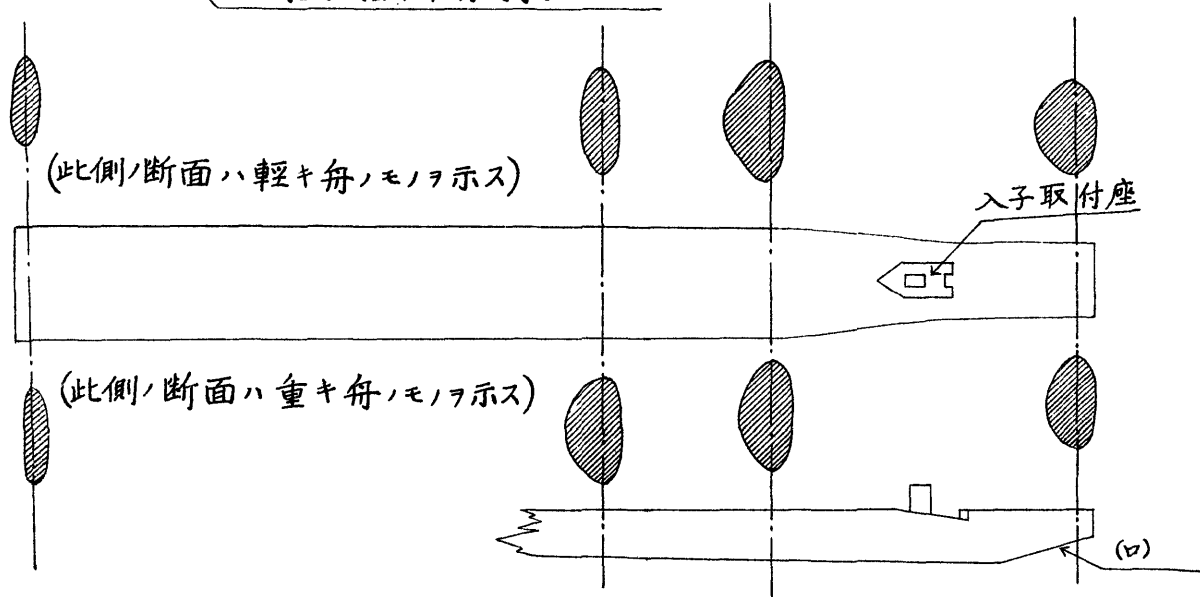
通船ニ對スル櫓寸法表

通船ノ長サ	櫓ノ長サ	
	艫 櫓	脇 櫓
30尺	15尺	14尺
27尺	14尺	13尺
23尺	13尺	12尺

# 第十一圖



(1) 櫓腕櫓下取付用柄



(此側ノ断面ハ輕キ舟ノモノヲ示ス)

入子取付座

(此側ノ断面ハ重キ舟ノモノヲ示ス)

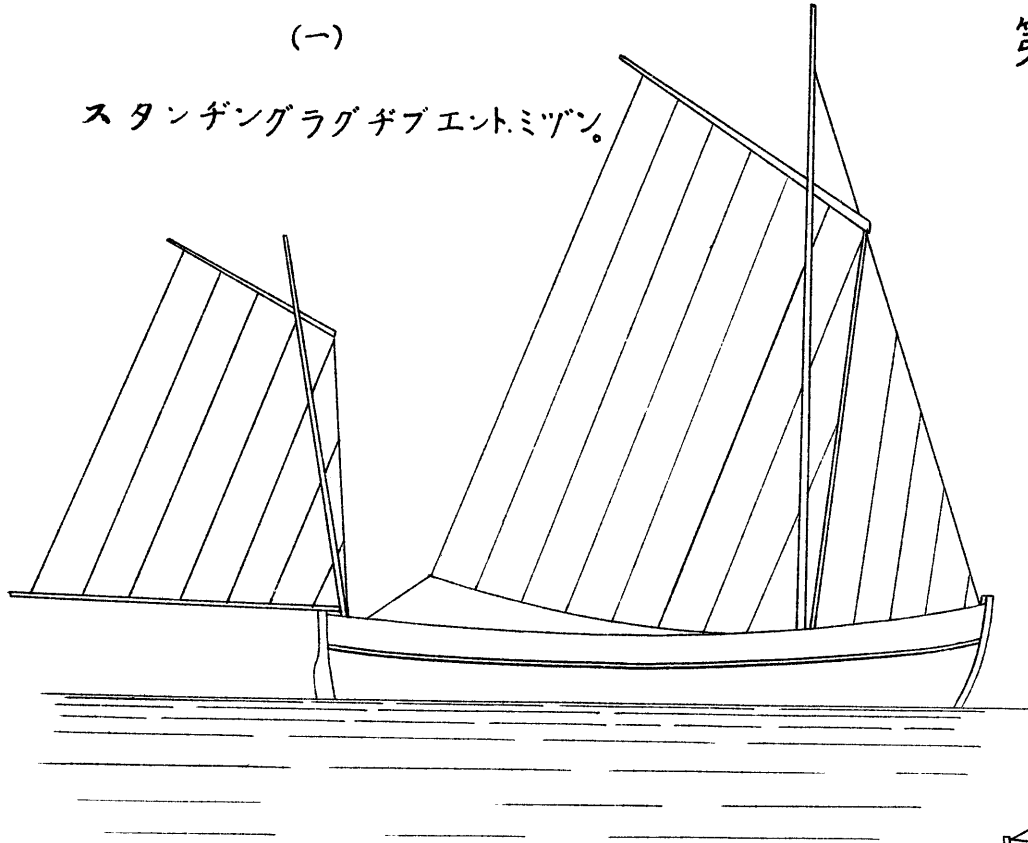
(ロ)

鉸<sup>上</sup>取付方ハ<sup>上</sup>第二圖<sup>上</sup>ノ如クニ斜メニ削リ落シタル面ヲ腕ノ下面ニ嵌メ合スルタメ深サ三分計リ堀リ込ミ其接著部ニハ幅八九分厚サ四五分ノ込栓ノ如キ(第二圖イ)モノヲ入レ兩方ヲ重ネ合シ麻索又ハ綱線ニテ其上ヲ二箇所捲キ締ムルナリ而シテ櫓腕櫓下ノ接合ハ第一圖(ト)ノ如ク櫓下ノ中心線ヲ引延シテ櫓杆ノ所ニテ兩側ニ外スカ如クスヘシ而シテ櫓ノ表面ヲ腕ノ方ヨリ見テ櫓杆ノ左側ニ中心線ノ來ルモノヲ櫓櫓(左舷ニ用フルモノ)ト云ヒ其反對ナルモノヲ脇櫓(右舷ニ用フルモノ)ト云フ

第十二圖

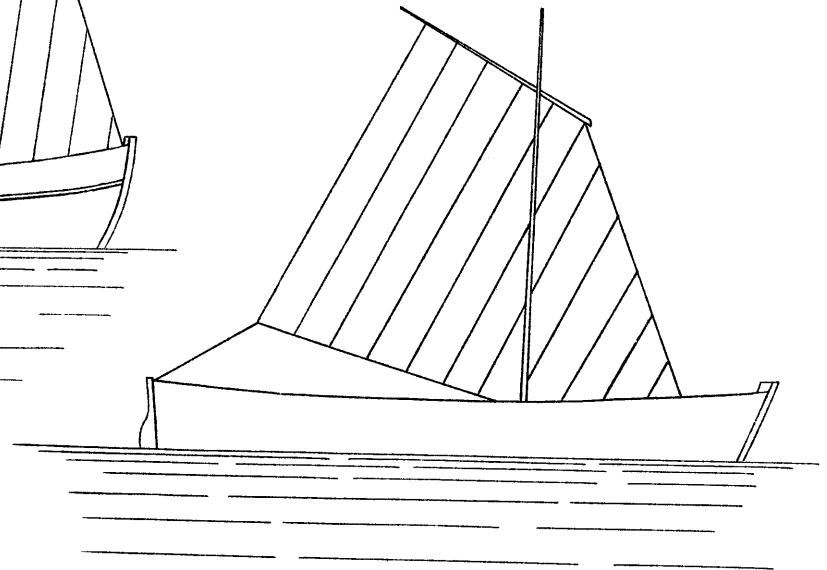
(一)

スタンディングラグギブエントミヅン。



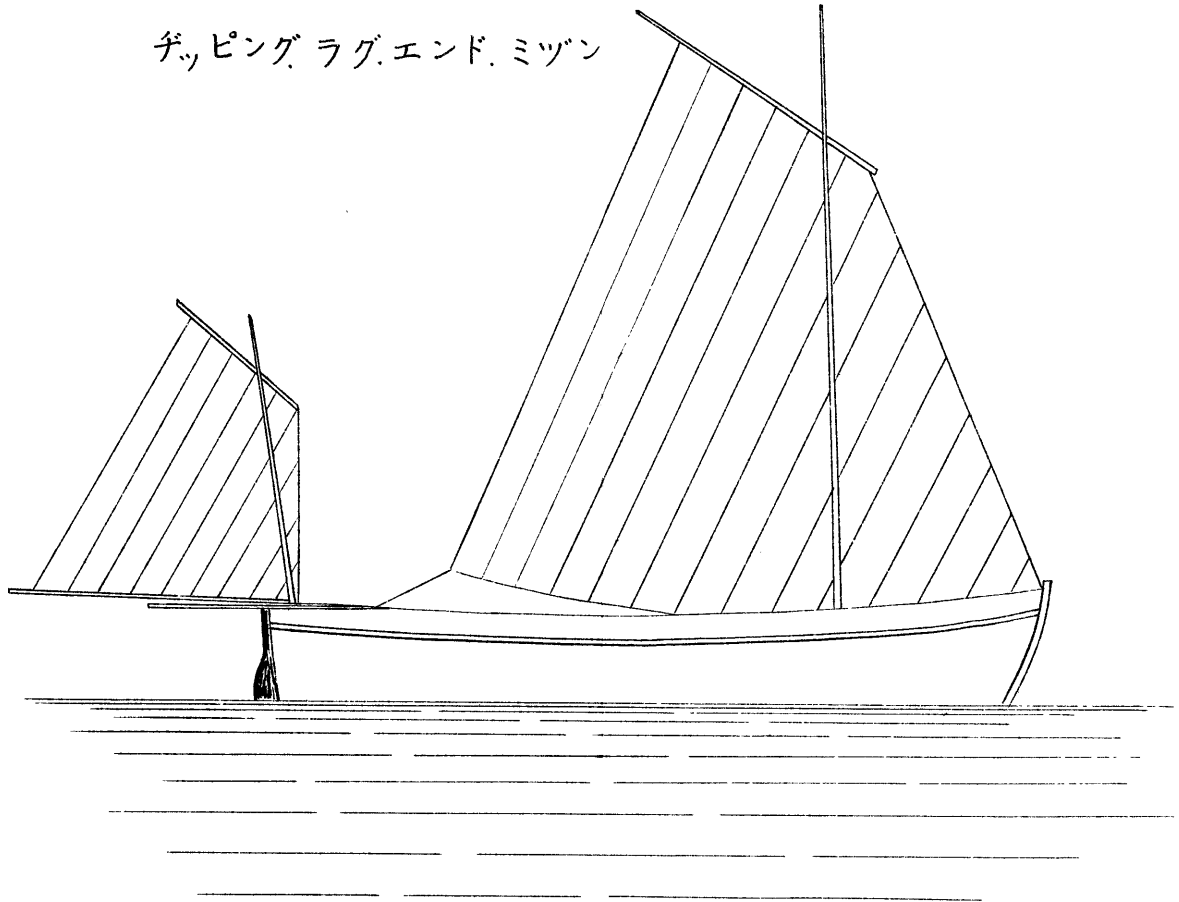
(二)

ヂッピング ラグ。

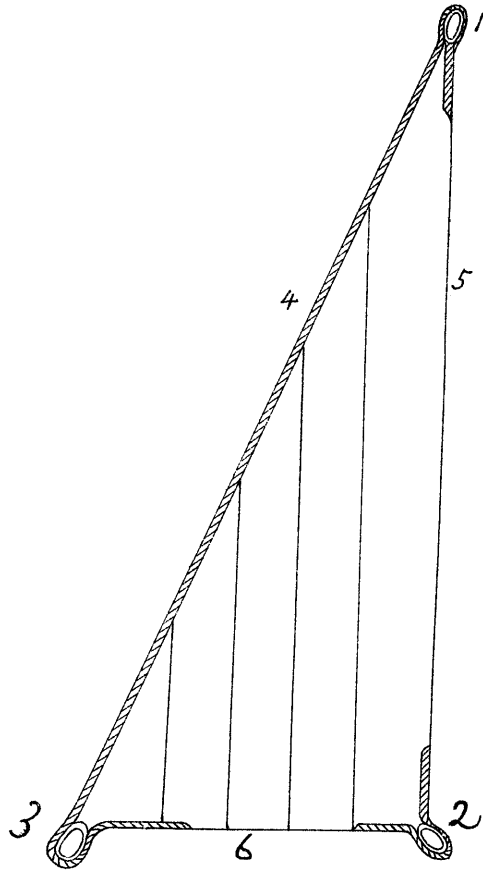


# 第十三圖

チッピングラグ. エンド. ミヅン



# 第十四圖



- (1) ヘット
- (2) クリュ
- (3) テッキ
- (4) ラフ
- (5) リーチ
- (6) フート
- (7) スロート
- (8) ピーキ
- (9) 縮紐

